

# スキーおだわら

50年のシュプールを辿って

平成23年10月

小田原スキー協会



## ごあいさつ

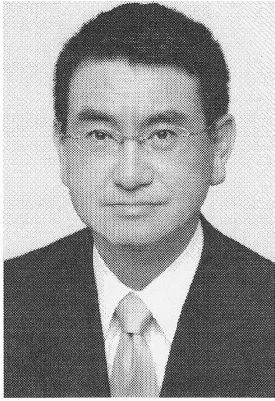
小田原スキー協会会長 鈴木忠昭

小田原スキー協会は本日ここに創立50周年を迎えることができました。

発足当時、純粹に、スキーがしたい、良いスキーが出来る環境を作りたいとただ、がむしゃらに走り出しましたが、多くの諸先輩のご指導やご尽力に支えられて国体・全日本や世界の大会につながる競技スキー、純初心者から公認スキー指導員まで全てのスキーヤーを対象にした基礎スキーの指導・普及、更には振興など、半世紀に亘って幅広いスキー活動を続けることが出来ました。

これらは優れた諸先輩、情熱溢れた多くの仲間達の継続的な活動、所属クラブや会員達の積極的なご協力があったのですが、更には(財)全日本スキー連盟、(財)神奈川県スキー連盟、県西地区等のスキー協会、そして、(財)小田原市体育協会など関係諸団体のご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

今、日本は東日本大震災の災害を受け、ようやくその復興の途についたばかりではありますが、東北地方各県には馴染みのスキー場や多くの仲間もおり、私達の活動を通して被災者の皆さんへの励みにつながればと心より念じて、これからも多くの仲間達と共に、生涯スポーツとして、より活発なスキー活動を続けてまいりたいと思っておりますので関係者の皆様からもこれまでと同様にご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 祝辞

衆議院議員

財団法人神奈川県スキー連盟会長 河野太郎

小田原スキー協会創立50周年おめでとうございます。

一口に50年と申しますが、草創期には組織作り、行事の開催等大変なご苦勞を重ねられたことと思います。貴協会の輝かしい歴史は、財団法人全日本スキー連盟副会長を務められました故松浦益司郎先生を始めとして、優れた指導者や選手を多数輩出されたことが物語っています。ここに改めて、草創期の大先輩の皆様、そして50年を支えてきた多くの方々、現在の小田原スキー協会を担っている皆様に敬意を表します。

さて、「感動を伝えよう」は財団法人神奈川県スキー連盟が平成22年度から展開している活動目標です。

これからの私たちはスノースポーツを通じ、喜びや感動を伝えることによって、日本復興に貢献して行きたいと思います。

是非、小田原スキー協会の皆様とスノースポーツの「感動」を共有して多くの方々に伝えて行きたいと思えます。

そして、小田原スキー協会が60年、70年、100年と発展されることを祈念して、お祝いの言葉と致します。



## 50周年を祝して

小田原市長 加藤憲一・

小田原スキー協会が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

また、昭和36年の発足以来、歴代の会長を中心に役員並びに会員の皆様が一丸となってスキー競技の普及・発展に努めて来られましたことに、深く敬意を表します。

歴史を紐解きますと、貴会は8クラブ114名の会員でスタートされたという記録が残っております。当時の小田原では、まだスキーをする方は珍しく、協会設立にあたっては、初代会長をはじめ役員の皆様方の大変なご苦労があったと思われませんが、今やスキーはオリンピック等での日本人選手の活躍もあり、ウインタースポーツの中では誰もが知っている代表的な競技となりました。

さて、スキー競技をはじめ、スポーツは心身の健全な発達を促すものとしてその役割を果たすとともに、人生を豊かに楽しく、そして明るい活力に満ちた社会の形成に大きく寄与するものです。

本市でも、「市民の力で未来を拓く希望のまち」を将来都市像とする新たな総合計画をスタートさせたところであり、今後もさらなる生涯スポーツの振興を図り、活力あるまちづくりに繋げてまいりたいと考えておりますので、貴会におかれましては、この記念すべき50周年の節目を契機に、これまで以上に積極的な活動を展開され、まちづくりへお力添えを賜われますようお願い申し上げます。

終わりに、小田原スキー協会のますますのご発展と、会員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈りいたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。



## 創立50周年を祝う

財団法人小田原市体育協会会長 原 義明

小田原スキー協会が、ここに創立50周年を迎えられましたことを心からお祝いを申し上げます。

貴協会は、発足以来、今日まで半世紀の長きにわたりスキーの普及、発展にご尽力されてまいりました。これも歴代の会長を始め、役員の方々、諸先輩の皆様方の日頃のご努力の賜物と、心から敬意と感謝を申し上げます次第でございます。

また、日頃から本協会が主催する各種行事にも多大なご協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、本協会では昨年度より、公益財団法人移行へ向けての準備等を鋭意進めておるところですが、現在実施しているスポーツ教室・大会の充実や新たな事業による参加者の開拓などにより公益認定事業の拡大を図り、スポーツを通じた健康づくりを一層進めてまいりたいと考えております。

貴協会におかれましては、毎年申し込みが殺到する人気の「日帰りスキー教室」を始め、恒例の「お正月スキー教室」や「春休みスキー教室」などを開催され、広く市民にスキー競技を指導されておりますことは、将来のスキー愛好者の増大やスキー競技の底辺拡大に繋がるものと大いに期待が寄せられます。

結びになりますが、小田原スキー協会がこの意義ある50周年を契機に、今後ますます発展されますことと、皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

## 目次

ごあいさつ	小田原スキー協会会長	鈴木 忠昭……2
祝辞	財団法人神奈川県スキー連盟会長	河野 太郎……3
50周年を祝して	小田原市長	加藤 憲一……4
創立50周年を祝う	財団法人小田原市体育協会会長	原 義明……5
50年をふりかえり		
この10年間のスキー協会の歩み		市川 房雄……11
50年間の主な出来事		
1961年	小田原スキー協会の創立からの初期	鈴木 忠昭……12
1964年	蔵王温泉での第1回市民スキー	鈴木 忠昭……14
1970年	第1回小田原選手権迄の回想	五十嵐正明……16
1973-1980年	小田原選手権御殿場スキー場時代	佐藤 英夫……17
1974年～	指導員会の歴史	小室 静雄……18
1976-1984年	市民スキー教室戸隠の時代	古屋 洋一……19
1979-1999年	春休みジュニアスキー教室 志賀高原の時代	甲斐 貞生……21
1981-1989年	小田原選手権 車山スキー場時代	本間 昭治……22
1985年	技術交流会小林氏、海和氏を招く	木村 徳善……23
1990-2008年	小田原選手権 野辺山時代	本間 昭治……24
1990-1995年	市民スキー教室 菅平の時代	市川 房雄……26
1996-2009年	市民スキー教室志賀・焼額の時代	鈴木 雅樹……27
1996-2000年	映画会の良き時代 岡部氏、上原氏、荻原氏、 我満氏、三浦氏を続けてゲストとして呼ぶ	松浦 哲也……28
2004年～	日帰りスキー教室を始める	内藤 浩志……29
2004年～	映画会に変わりスキーフェスティバルを始める	久保田秀幸……30
2005年～	いいつなリゾートでポール教室始める	斉藤 学……31
2009年～	小田原選手権いいつなリゾートの時代	岩田 国雄……32

加盟クラブ紹介	
神奈川雪友スキークラブ	37
アールベルグスキークラブ	39
エリアスキー同好会	41
富士小田原スキー部	43
日立小田原スキー部	45
ミクニスキー部	47
小田原スキークラブ	48
小田原スポーツマンクラブ	51
トライアルスキークラブ	53
歴代役員	60
この10年間の大会記録	
神奈川県スキー技術選手権大会	73
小田原スキー選手権大会	74
国民体育大会冬季スキー競技	75
神奈川県総合体育大会	76
神奈川県各種大会	78
資料	
年表	86
有資格者名簿	96
規約	99
創立50周年記念事業	
表彰者	104
実行委員会組織表	106
海外スキーツアー予定	107
国内イベント予定	108
日体協・JOC功労者表彰	109
編集後記	110

# BOYA

**ボーヤ株式会社**

〒245-0013横浜市泉区中田東1-34-18-201

**TEL:045-800-1353 FAX:045-803-7999**

E-mail [boya@boya-sports.com](mailto:boya@boya-sports.com)

URL [boya-sports.com](http://boya-sports.com)



# 車山高原SKY PARK

Winter Season 2011.12.10(SAT) ~ START!

## ファミリー情報

キッズワンダーランド **無料!**

親子でいっぱい遊び！ネットで囲まれた専用エリアです。

モリゲレンデ **無料!**

気軽に雪と遊べるエンジョイエリア!

チュービングコース **無料!**

スリル満点! もちろん親子で二人乗りもできます。

ファミリー専用休憩室 **無料!**

スカイブラザーが、ファミリーコース目の前で安心快通!

スキーこどもの日 **無料!**

毎月第3日曜日は小学生のリフト券が無料です!

## 充実の宿泊パック!!

リフト1日券や2日券が付いたお得な宿泊パックが充実!  
リーズナブルなお値段で車山高原にご宿泊下さい。

※宿泊施設によって料金が異なりますのでホームページ  
をご覧ください。



お問い合わせは

車山高原スキー場

〒391-0301 長野県茅野市車山高原

TEL. 0266-68-2626

<http://www.kurumayama.com>



車山高原スキー場

車山高原  
SKY PARK



小田原スキー協会創立50周年

おめでとう ございます。

カムイみさかスキー場は

ウインタースポーツを 応援していきます。

株式会社 カムイ

カムイみさかスキー場

e-mail:e-misaka@kamuisp.com

<http://misaka.kamuisp.com/>

〒406-0813

山梨県笛吹市御坂町上黒駒5321-1

TEL:055-264-2614 FAX:055-264-2480

50年をふりかえり

## この10年間のスキー協会の歩み

理事長 市川房雄

ここに小田原スキー協会が創立50周年を迎えられたことは、会員諸氏並びに関係各位の皆様のご支援の賜物と感謝いたします。

この10年間でふりかえると、景気の低迷・少子高齢化とともにスキー人口が減少し小田原スキー協会の各行事も厳しい状況にさらされてきました。そんな中、会員及び一般参加者のニーズをつかみいろいろな新しい行事を立ち上げるとともにそれぞれの行事の内容を見直すことによって活動の低迷を食い止めてきたというのが実状です。

長らく続いた映画会については、このようなスキー界の状況からスキー映画自体が作られなくなり方針転換せざるを得なくなりました。そこで各クラブ会員の一般参加型の行事としてスキーフェスティバルを平成17年から開催し参加者も増え続け定着してきています。各クラブがそれぞれの特色を出したゲーム・販売・体験コーナー、フリーマーケット、スキー用品販売、ここ数年は過去の映画ビデオを使ったスキー映画鑑賞会等も実施しシーズン前の参加者の交流の場として大いに盛り上がりを見せています。

また小田原選手権大会については、野辺山スキー場が閉鎖という事態になり事前に検討していた、いいつなリゾートスキー場へ平成21年から会場を変更しました。スキー場が閉鎖されることはスキーをする場所が無くなるということですからあらためて厳しい状況を認識しました。今後はスキー場の皆さんとタイアップしながら参加者を増やし更に良い大会にしていきたいと考えています。

新たな行事としては平成14年から日帰りジュニアスキー教室を開催し当初45名の参加者でしたが、平成16年から6年間小田原市体育協会との協賛事業として開催したこともあり100名を超える参加者となってきています。日帰りという参加しやすい形のスキー教室が望まれていることは確かでありこの流れをまた新たな行事展開へとつなげていきたいと考えています。

協会創立の初期より開催してきた市民スキー教室も厳しい状況は変わりなく参加者の減少に歯止めがかからないことから、長らく続けてきた年末年始での実施を見直し、今年度より1月の土日開催とし、一般の方々が参加しやすいように変更することにしました。特に今年度は50周年記念事業と同時開催とし参加費も抑え次年度につながる参加者を集めることで活性化を図っていききたいと考えています。

登録会員数についても、600名を超えるスキーブームの時代から平成22年には300名をきる状況になっています。少し持ち直しの傾向も見られますが永続的にスキー協会の活動を続けるため総力を挙げてスキーの普及発展に取り組んでいく必要があります。

最後にこのような苦難の時を乗り越えた先に新たな明るい未来があることを願い、次代にスキーの楽しみ・良さを伝えていけるように努力してまいりたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻をよろしく願いいたします。

## 50年間の主な出来事

### 1961年小田原スキー・協会の創立からの初期

鈴木忠昭

昭和36年(1961年)年初に白馬でスキーをした折、北海道から来ていた知人から訪ねるよう進められて、3月下旬のシーズン末に小田原市内で故松浦益司郎先生(前会長)に初めてお会いした。

当時、神奈川県スキー連盟への加盟は横浜、川崎など一部を除き、殆どのスキークラブは直接県連に加盟していたが、小田原にもスキー協会の発足をしようとお誘いを受けお手伝いをした。

一般スキーヤーを対象にした小田原銀嶺クラブ、神奈川雪友クラブ等に加えて、富士フィルム、明治製菓、三国工業、NCRの企業内スキー部、そして、市役所のスキー同好会から代表者が集まって創立の準備を開始したのは5月に入ってだった。会長には市会議員で歯科医師の難波博夫氏、副会長に富士フィルムスキー部の鳥海達男氏、事実上の牽引車になる理事長には神奈川雪友スキークラブの松浦益司郎氏が就任し、各クラブから理事を出して活動を開始した。

7月下旬には組織として必要な規約・規定などをまとめて神奈川県スキー連盟への加盟の準備をし、併せてスキー協会としての事業計画も進めた。

10月初旬、県連加盟をすると共に、協会としての記念すべき最初の事業"スキー映画会"が本町小学校(現三の丸小学校)講堂で盛会裡(1,000人近い参加者で満員)に挙行された。

雪上での活動は翌昭和37年から、1月の長野県野沢温泉スキー場での神奈川県スキー選手権大会・国体予選会では、大回転競技成年組で中島悦雄選手(雪友クラブ)が、壮年組では松浦益司郎選手(雪友クラブ)が優勝し、神奈川県の代表として小樽の国体に出場するなど競技面で素晴らしいスタートをしたが、一般スキーヤーを対象とした2泊3日のスキー講習会も小田原からの専用バスで福島県裏磐梯高原スキー場(水明荘)へ向かい、協会として初めての全日本スキー連盟公認バッジテスト(現級別テスト)も行った。

発足間もない協会は公認スキー指導員も少なく、東京雪友クラブから数人の応援を得た。発足時、100人をやっと超える会員数の小さな組織ではあったが、組織運営の中心に、当時既に国体に連続出場して常に上位入賞をし、一方では全日本スキー連盟教育本部の幹部として公認スキー指導員の検定や指導に携わっておられた北海道出身の松浦益司郎先生を初代理事長に迎えられたことが神奈川県の最南端、小田原市に生まれた小さなスキー協会が発足時から選手の強化、指導者の育成等の活動を円滑に開始出来た要因だったことは間違いない。

発足2年目の昭和38年のシーズンは競技スキーでは1月の宮城県鳴子温泉スキー場での神奈川県スキー選手権大会兼国体予選会で、大回転競技の成年組で吉田猛選手(雪友クラブ)が、壮年組では松浦益司郎選手(雪友クラブ)がそれぞれ優勝し、加えて距離競技では渡辺保夫選手(NCR)が3位に入賞し、神奈川県を代表して鳴子温泉スキー場で開催された国民体育大会に出場した。

松浦、渡辺両選手はその後数年間、常に優勝又は上位入賞を果たし国民体育大会に連続出場している。

基礎スキー関係では、1月に志賀高原法坂スキー場でバッジテストを含む講習会を、2月には良い指導者を育てるべく万座温泉スキー場でハイレベル・スキースクールを開催した。

発足3年目の昭和39年には第1回小田原市民スキーを樹氷で名高い山形県蔵王温泉スキー場で開催すべく計画した。

それまでのスキーツアーや講習会は現地往復にバスを使うことが常だったが高速道路も無く、山形までは距離もあることから国鉄(現JR)の協力を得て、小田原駅から専用列車で山形に向かうことにした。

この計画は当時珍しかったもので、参加募集開始後間もなく400人近い応募者を得たが、発足間もないスキー協会には未だ数人の公認スキー指導員しかおらず、この講習会で必要な30名近い指導者の多くを松浦会長の伝手で東京都スキー連盟や、遠くは新潟県石打スキー場からも応援を得て実施した。

小田原駅から途中、平塚、横浜、東京からの参加者達も乗せ、夜行列車で早朝の山形駅に着き、山形交通プラスバンドの華やかな歓迎を受け、10台のバスで蔵王に向かった。蔵王温泉では12軒の宿舎に分宿し、3日間のスキー講習会とバッジテストを行ったが参加者の皆さんがスキーだけでなく、樹氷や温泉を楽しんでくれて大人数でもけが人も無盛会裡に終了できた。

市民スキーは、蔵王では専用列車で3年間、その後、志賀高原、菅平などに会場を移し今年も志賀高原一の瀬スキー場で実施されたが、48年間途切れることなく実施されてきている。

昭和40年代に入って基礎スキー公認指導員も少しずつ増えてきて、昭和43年から20年近く続いた県デモンストレーター選考会では優勝者を含め毎年多くの入賞者を出してきたし、それに続いた県スキー技術選手権大会でも優勝者や上位入賞者を出し続けて、小田原スキー協会の指導者レベルの高さを示してきた。

昭和45年(1970)、山形県栗子峠スキー場でのスキー講習会時に併催された第1回小田原スキー選手権大会は、日光の湯西川、白馬岩岳を経て、富士山2合目の御殿場スキー場で8年、車山で9年、野辺山で19年、長野県いいつなりリゾートスキー場に会場を移して今年の第43回大会まで継続実施しており、この大会に先んじて実施している協会ポール合宿等を通した選手強化の効果で神奈川県総合体育大会スキー競技会では小田原選手団から優勝者を含む上位入賞者を毎大会時に出してきており、2年前の60回大会では大回転種目で1位2位を独占、いわゆるワンツーフイニッシュを果たして他協会の参加者達を驚かせたことは関係者の記憶に新しい。

半世紀前の創設時から選手強化や指導者育成等、故松浦益司郎先生(前会長)の力強い指導で牽引されてきたが、発足後数年のうちに、同氏は神奈川県スキー連盟副会長や全日本スキー連盟常務理事として活躍を開始されたし、私も続いて県や全日本スキー連盟の常務理事として仕事をさせて頂き、協会発足10年後の1972年にはアジアで初の冬季オリンピックが札幌で開催され、翌年からはワールドカップも日本で開催されることになり私達もこれらの大会に競技役員として大会運営のお手伝いをした。

1974年の世界スキー選手権大会には私も日本選手団監督として、サンモリッツ(スイス)、ファルン(スウェーデン)と転戦し、1975年に当時のチェコスロバキアで開催されたインターシーには松浦団長と共に私も日本選手団監督として参加した。

上部団体の県連などでは他にも副会長や理事などの要職を担ったメンバーが多数いるが、90年代には柴田伸彦君(雪友クラブ)が(財)神奈川県スキー連盟専務理事として組織の法人化を実現し、現在も木村徳善君(日立)が教育本部長として県内の指導者育成の要として活動している。

日本や県を代表する立場で活動するメンバーを協会の仲間から送り続けていることで組織の成長を見ることが出来る。

半世紀前の協会発足時、満足な事務所も会議室もなく、携帯電話、ワープロ等も全く無縁の時代だったから、理事会や役員会は主に小田原駅前にあった箱根登山鉄道の会議室をお借りし、文書類の作成は全てガリ版刷りで対応するなど今では考えられない苦闘の時代だった。

100人そこそで発足した協会も、創立10周年を経た頃、私は協会理事長だったが全日本や神奈川県スキー連盟の常務理事等、上部団体での仕事に忙殺されていた時に大館昌之総務部長(アールベルグ)が理事長を代行して組織の拡大に尽力し、SAJに登録する所属会員数も700名を超えて県内屈指の組織に成長した。

50年を経た今、創立時のメンバーで現役執行部に残っているのは私だけだが、素晴らしい仲間達に恵まれているので、協会が今後も発展を続けて、生涯スポーツの一環としてのスキー活動を展開するのは間違いないと確信している。

## 1964年蔵王温泉での第1回市民スキー

鈴木忠昭

小田原スキー協会が発足(昭和36年)して間もない昭和39年2月、第1回小田原市民スキー教室が山形県蔵王温泉スキー場で開催された。

高速道路や新幹線などは全く無縁の時代で、スキー協会としては前シーズンまで福島県つ裏磐梯、長野県の志賀高原等ではバスツアーによるスキー講習会を実施してきたが、年々スキー講習会・教室への参加希望者が激増していることもあり、樹氷で名高い蔵王温泉スキー場で開催しようかと話が進み、山形県は遠距離でバスでは辛いのでスキー列車は出せないかと検討に入った。

市内の交通公社(現JTB)を介して国鉄(現JR)に交渉し、小田原から臨時の5両編成専用列車を出すことが出来るということで詳細計画の検討に入った。

まず、募集人数は、80名11両で計400名(役員・指導員が約30名いるので実質募集人数は370人程度)、宿舎は、ひとつの旅館では入りきれないので、高見屋、吉田屋、鶴屋、堺屋等、蔵王温泉大手の12軒に分宿することで対応した。

参加会員数から最低30名程度の講師は必要ではあったが、発足間もない協会に所属する公認スキー指導員はまだ数名だったので東京都スキー連盟をはじめ、遠くは新潟県石打スキー学校の片山校長など、松浦会長の伝手で広く協力をしてもらってレベルの高い講師陣を編成することができた。

さて、各クラブを通じて募集を開始すると、数日間で満員となり、最終的には400名近い参加者となった。

小田原からの参加者も多かったが、臨時列車は平塚、横浜、東京に停車するというので、横浜、東京等からの参加者も多かった。

当時はスキー場へ行くのには満員列車に乗って、座席取りにも苦労する時代だったから専用列車は多分に参加者には魅力的だった。

携帯電話はおろか、ワープロもEメールも無い時代に、この大人数の事業を進めるための準備も大変で、参加者のキャンセルや変更等に追われながら各車両の乗車席、山形駅から蔵王温泉へのバスの割り振り、宿舎毎に部屋割りなど関係書類の作成は全てガリ版刷りで行ったから内容変更への対応には苦慮した。

いよいよ実施段階に入り、集合場所の小田原駅にはスキーを持った参加者で溢れるばかりだったが遅れてくる会員も無くスキー協会旗を目印にした駅頭での受け付け作業も円滑に進んだ。

定刻に小田原駅を発った専用列車は平塚、横浜、東京を経て、順調に早朝の山形駅に着いた。

駅頭では山形市長、観光協会長、そして山形交通のブラスバンドが"花笠音頭"で賑やかに迎えてくれて、10台のバスに乗車し蔵王温泉に向かった。

参加者には受付時に予め各自の列車指定席、バス号車番号、宿泊旅館名、部屋割りなどの予定表を渡しておき、各宿舎には部屋別の参加者名簿を送っておいたので移動中の乗り換えなども円滑で、現地到着後は思ったよりも容易に全員が入館できた。

早朝着ではあったが、各自、列車内で朝食を済ませてくれていたし、貸しスキーを希望していた参加者には宿舎毎に用意されていたので大きなトラブルも無く、午前9時には400名を超える参加者の開会式を温泉グレンデで行い、続けて、純初心者を除いては全員緩斜面を滑ってもらって個々の力に即した班分けをして講習会に入った。

様々なコースに恵まれた広大なスキー場に、クラス毎に散開して3日間の楽しい講習を開始した。

上級班は初日から、中級、初級班でも最終日には天候に恵まれて、3日間、蔵王山頂から樹氷原の中を思いっきりスキー滑走した。

3日目の午前中、希望者を対象にバッジテスト(級別テスト)を行って閉講式時に可否の発表をして盛り上がった。

夕刻、蔵王温泉駅から専用バスで山形駅へ、ここで2時間程の夕食時間をとり、集合時間には、同駅頭で再び山形交通ブラスバンドの"花笠音頭"に送られて帰路についた。

往復共、夜行列車だったが参加者の皆さんからはバスより格段に楽で、夜行疲れも余り感じなかったと喜んでもらえた。

又、参加者の多くから今回の市民スキー教室への賛辞と次年度以降の継続開催を望む声も多かったので専用列車による蔵王での市民スキー教室は昭和41年2月まで、3年間継続実施したが、だんだんと専用列車の手配が難しくなり4年目以降は貸し切りバスで行き易い長野県等に会場を替えた。

協会発足後3年目でこの大行事をこなしたのだが、協会内にはこの種の行事に慣れた役員や指導員が少なく、又、他の組織から応援で指導にきてくれている講師の先生方に依頼もし難く、日中はスキー指導、夜間は集金などの業務で一部の若手役員は3日間ろくに睡眠時間もとれなかったが、参加者の満足の声を聞いて慰められた。

第48回小田原市民スキー教室は今年1月、志賀高原一の瀬スキー場で開催されたが、第1回以降途切れることなく実施されてきており、小田原市民や多くの関係スキーヤーの冬の楽しい集いや健康増進のために、今後もスキー協会が続くかぎり継続されると確信している。



1964年(昭和39年2月)蔵王温泉スキー場トド松ヒュッテ前

## 1970年第1回小田原選手権迄の回想

五十嵐正明

私は小田原スキー協会の創立時から、傘下の富士フィルムスキー部員(兼柔道部員)として協会末席でお世話、ご指導を受けておりました。

それから;昭和36年協会発足時の私達への情報では、「雪なし県の神奈川県で更に温暖な小田原地方に冬期スポーツとしてのスキーを普及啓蒙したい」とのことでした。従って、当時「やっとこさ」一級レベルの私としては、競技スキーは別世界のものと思いこんでおりました。

ところが;お正月が明けたハイシーズンに一流の新聞記事に全国大会(国民体育大会スキー競技・小樽)で、神奈川県代表として松浦益司郎選手と中島悦雄選手が活躍入賞したとありました。特に松浦先生は当時協会理事長で44才でした。当時壮年部は35才以上でした。中島悦雄(雪友)さんは成年の部でした。次年度代表の吉田猛(雪友)さんは、その後北海道代表として「国体優勝者」になりました。以上は大回転競技ですがノルディックでは渡辺保夫(現・エリア)さんが「国体」でも活躍されておりましてとにかくびっくりしました。特にその後の松浦先生は協会会長になられてからも55年の62才迄小田原代表で「県内郡市対抗戦」に入賞されて私達に率先し垂範を示して下さいました。

さて;昭和40年になり協会登録会員が300名近くなりましたが、協会内では雪国育ちで完成されたごく一部の一流選手だけがかけ離れた存在で「2流」が見当たりませんでした。それで;昭和40年正月に第1回の正月競技合宿を南小谷スキー場(現・コルチナ国際スキー場の一部)で実施しました。中島悦雄コーチと渡辺保夫コーチでアルペン7名、ノルディック6名の参加でした。このおかげで小田原代表リレーチームノルディックを編成可能にしたのは特記事項と言えらると思います。

そして;第1回小田原スキー選手権大会は、昭和45年2月10日に実施させていただきました。栗子峠スキー場で協会登録会員350名からのチャンピオンを選出する意気込みを私はもったのですが志通りには出来ませんでした。各クラブからの参加選手の申し込みが一次々切ではありませんでした。選手としては、アルペンではまだ育っていなかったのです。

それで;協会の栗子峠スキー市民教室に各クラブは出来るだけ上級者を参加させて、一般スキー講習会終了後にスラロームで選手権大会を実施させていただき運営方法にしました。

従って;競技スキー大会の運営責任者で、協会の競技部長でありました私も基礎スキー講習会の1つのクラスを受け持ちまして、3日目の午前のバッジテスト時間から大会場所での準備に入って午後に「第1回選手権大会」を実施するように計画しました。

さて;大会当日の天候は良好でした。リフト近くの初中級用ゲレンデに、バスに積んで運んだ不揃いの「竹ザオ」で中島悦雄コーチがセッターとなり、20双旗のやさしいスラロームコースを作りました。参加者は97名の予定でしたが完走実記録として残っていたのは男子28名、女子17名でした。スタートで私が旗をふりおろして、ゴールで佐藤英夫競技部担当理事がストップウォッチ操作と記録をとり、「次OK」の合図をスタートに送りました。コース中間に「見張り」を1~2名置いた記憶があります。いずれにしても大変初歩的な「その場手作り」でのんびりした運行だった思い出が残っております。

優勝は男子が長谷川光一(富士)、女子は佳山のり子さんで、2位は杉山育郎(富士)、3位は熊沢望さんでした。表彰式は帰りの夜行バスの中で実施させていただきました。

その後;私の後任の競技部長は代々有能で熱心な人材に恵まれました。

それで、湯西川スキー場、岩岳スキー場、富士山(8回)、車山(9回)そして野辺山スキー場、いいつなりゾートスキー場へと年々、形・実共にレベルアップし続けたと回想しております。

これからも、より一層の発展と充実を心から願い、祈り続ける所存でございます。



## 1973-1980年小田原選手権御殿場スキー場時代

佐藤英夫

小田原スキー協会50周年を向かえ、小田原スキー選手権大会も第1回大会より第43回に及び1度も中止、延期もなく回数を重ねるに至りましたことは、真に感慨深いものがあります。これも一重に会員の皆様とそれを取り巻く数多くの関係者のご支援、ご援助の賜物と思います。本当におめでとうございます。

第1回大会から第3回大会までは、基礎部主催のスキー講習会の中でのレクリエーション大会でありましたが、第4回からは、競技部の主要事業として、本格的に小田原スキー選手権大会とする取り組みを開始しました。場所は富士御殿場スキー場で、第12回大会まで実施されました。いずれも、その時代、時代にふさわしい大会であり、競技運営、競技内容、競技力も回を重ねるごとに充実し、素晴らしい大会内容でありました。

その中でも、富士御殿場スキー場で開催した第4回小田原スキー選手権大会は、初めて本格的に大会を実施しようと計画から実行まで何から何まで未知の世界で幼稚な運営でありましたが、ふりかえりますと特に「思い出深い」大会でありました。大会用機材も今では考えられないようなもので、ポールは竹、計時はストップウォッチ、スタート合図はストックに旗をくくりつけて、振り下ろすといったものでした。また、重さ6kgほどの鉄製タガネとトンカチが必需品でした。何故ならば、独立峰富士山特有の気象は他に類を視ないほど、一日の温度差が大きく、強風が吹きすさぶといったため、雪は氷化した硬い層状のクラスト雪で、ポール設定にあたっては、これで穴をあけポールたてることが必要でありました。

また、二子山付近の大会コースには、リフトがないため、選手は、スタート地点まで用具を担いで登り、コース整備も硬いクラスト状の雪のためガラス板を踏み潰すような感じで行わなければならず、大変なご苦労をお掛けしました。

このような、自然環境の厳しい状況の中での機材の荷揚げ、ポール設定、コース整備等で、競技スキー合宿に参加された選手が率先して実施しているのを見て、他の選手も見様見真似で和気あいあい協力している姿が印象的で、今でも忘れることはできません。

この姿勢・精神が、今後小田原スキー選手権大会が継続・維持・発展していく原動力となることを期待し、近い将来には、世界に羽ばたく選手を輩出することを願いたいと思います。

なお、この太郎坊(御殿場)スキー場は、現在では、度重なる雪崩のため、存在しないスキー場ですが、歴史をたどりますと、奥深いもので、明治43年(1910年)オーストラリア人で横浜商館勤務のクラッセルが日本最初のスキーを行った。続いて明治45年(1912年)には日本スキーの発祥の父オーストラリア人のテオドールフォンレルヒが山頂から太郎坊(御殿場)スキー場へ滑降。そして昭和6年には、この太郎坊(御殿場スキー場)のスキー客は1700名以上に達し、賑わっていたそうです。

(大富士遊覧案内記、岳麓漫歩(四)より)

昭和6年当時の太郎坊(御殿場スキー場)



## 1974年～指導員会の歴史

小室静雄

小田原スキー協会指導員会の歴史を書くに当たり、20、30、40周年の記念誌を調べて見たが、残念ながら何処にも筆跡がなかった。今回初めてその機会が与えられたので、残された数少ない資料と鈴木忠昭会長始め数名の関係者の方々に話を聞いて、本会の歴史を纏めることにした。

指導員会の歴代役員は下記の示す通りだが、スタートした時期が分からなかった。鈴木会長の記憶によると昭和50年代の鈴木理事長(現会長)時代に柴田基礎部長(S49年～52年)が兼務していたようである。

当時の協会幹部(松浦会長、楓山副会長、鈴木理事長)は、全員が神奈川県スキー連盟または全日本スキー連盟の役員を兼務しており、多忙を極めていたため、指導員会を創設したにも関わらず活動できなかったのが実情であった。実質的には2代目の大館会長と佐藤英夫副会長の時代(S54)から本格的な活動が始まった。大館氏は協会の総務部長をおりと同時に、指導員会長に就任(S53年11月)した。

初年度には山中湖(富士吉田ホテル鐘山)での総会&テニス教室、翌年には総会&ポール教室(富士山5合目)と積極的に行事に取り組んでいた。当時は30数年前であるから会員の皆さん全員が若く、はつらつとして希望にみなぎっていた。

S57年からは佐藤英夫会長、石橋副会長体制に変わったが、このころから野外活動は指導法研究会や県連の雪上指導員研修会での現地親睦会に切り替わっていった。

総会&親睦会は思い出の場であるが、喜久本別館(小田原)、ロリン(小田原)、ほーりん(小田原)、箱根登山ベルジュ銀座ライオン(小田原)、ナックビル魚民(小田原)、日清亭(箱根湯元)、積丹(小田原)、居酒屋シュプール(新松田)等が利用されてきた。

H16年から私が会長を務めることになったが、親睦ゴルフや研修会等もう少し活性化を図れと言うことで、鈴木会長から指示が出され、現在に至っている。

並行してシニア友の会(北村常三郎会長)が創設され、行事は主に指導員会とのコラボにより行なっている。親睦ゴルフは友の会の菊地務幹事が主となり実施している。

指導員会の目的は、あくまでも「親睦団体」であるとしている。今後もこれを基本として協会と共に発展させて行きたいと思うので、指導員の皆さまの暖かいご支援をよろしくお願いしたい。特に若い指導員の参加と活躍を期待する。

【歴代役員】	会長	副会長	事務局	【主な行事歴】
?～S53年	柴田伸彦			S54/4 富士吉田総会&テニス教室
S54～S56年	大館昌之	佐藤英夫		S55/4 富士吉田総会&ポール教室
S57～S61年	佐藤英夫	石橋誠一		S57～ 車山指導法研修会
S62～HO4年	那須昭三		金内英一	HO3/4 親睦ゴルフ箱根くらかけGC
HO5～HO8年	野地澄雄	飯塚幸一	入山圭司	(以降HO9年まで継続)
HO9～H15年	松浦哲也		入山圭司	H16/10 親睦ゴルフ平原GC継続
H16年～	小室静雄		渡辺正彦	レベルアップ講習会(御坂スキー場)

## 1976-1984年市民スキー教室戸隠の時代

古屋洋一

私の小田原スキー協会員としての実質的スタートは戸隠スキー場から始まった。1974年にアールベルグスキークラブに入会した私は、次の年に準指導員に挑戦したが、そこに立ちはだかったのがゲレンデ正面にあるチャンピオンコースの壁であった。この壁への挑戦を契機として、以来コブ斜面への魅力に取りつかれることになった。ともあれ、この年、何とか合格することが出来、次の年から協会の基礎部員として戸隠行事を遂行する一員に加わった。

戸隠での正月行事は昭和51年度から7年間続いたが(昭和52年度は梅池高原)、当時は修学旅行でスキーに行く学校も出始め、スキーの絶頂期に差し掛かり、年末からのAコースではバス3台、元旦からのBコースでは2台が通常であり、活気に溢れた行事を行うことが出来た。戸隠スキー場では神奈川県連による準指導員検定も行われ、市民スキーはその受験者達の鍛錬の場となり、コブ斜面のチャンピオンコース・シルバーコースに挑戦し、リフトが止まった後には、日暮れまで緩斜面で特訓している姿が見受けられた。一方、メノウ山頂では雄大な景色を堪能でき、山頂からのロングコースは初中級者をスキーの虜にした程である。

しかし、この頃雪不足の年が多くなり、正月でも滑走出来ないスキー場が多く、戸隠スキー場も例外ではなかった。昭和54年度の行事では雪不足のため、参加者全員に電話にて状況説明し、雪不足を承知していただいた参加者のみで行事を遂行した。このような状況下でも多くの方に参加していただき、毎日1時間以上をかけて関温泉・志賀高原等、他のスキー場へ移動したが、雪不足は同じであり、滑走距離数10メートルの狭いゲレンデで講習会を実施したこともあった。しかし、参加者からの苦情は聞かれず、移動のバスの中では歌やゲームで盛り上がっていたことが救いであった。当時はカラオケがなく、バスの中での出し物に頭を痛めていたのを思い出される。各地のスキー場で人工降雪機が設置されるようになったのはこの頃である。

昭和59年度まで戸隠で行事を続けたが、雪不足やバードラインの決壊には勝てず、他のスキー場を探すことになった。昭和61年の夏、当時の小室理事長と2人で市民スキーの会場を探すため、各地を訪問した。結局は、戸隠スキー場に雪がないときに良く出かけ、雪の心配の少ない妙高・池の平スキー場に会場を移した。その頃には、市民スキーもAコースでバス4台、Bコースでバス3台に成長していた。

ビデオが出始めたのもこの頃であった。当時のビデオは重く、2名のビデオ係が必要であった程である。しかし、自分の滑った姿を見るのは皆初めてであり、毎回班毎の撮影会を実施したものである。夜は映写会の他、班別演芸大会を行い、アフタースキーの充実に皆盛り上がったものである。

市民スキーにはスキーが生甲斐の上級者から、初めて参加する初級者まで大変多くの方に参加していただき、文字通り、市民のための市民によるスキー行事が行われ、今でも参加された皆さんの良き思い出になっているものと思われる。



市民スキー教室 楓山講師(後方) 古屋講師(右)



1984年1月 市民スキー教室 古屋班集合写真

## 1979-1999年春休みジュニアスキー教室志賀高原の時代

甲斐貞生

春休みスキー教室は、昭和53年に"岩岳スキー場"で、「母と子のスキー教室」の名称で開催されたのが始まりである。

この時の参加者は、18名と少人数であった。翌年は、名称を「ジュニアスキー教室」に変更し"岩岳スキー場"で開催された。この年は、例年に無い雪不足で運営がたいへんであった。

第3回(昭和55年)からは、開催地を"志賀高原・一の瀬スキー場"に移し「ジュニアスキー」の"志賀高原"時代の始まりである。小田原からは、決して近い距離でなく、小田原を、夜9時に出発、志賀高原・一の瀬スキー場の宿舎となる志賀スキーロッジに翌朝7時頃到着予定でバスは進む、車中二泊、現地二泊、の行程で「ジュニアスキー教室」が開催された。"志賀高原・一の瀬スキー場"は、春休みと言っても、雪質が良く、雪の量も多く、絶好のロケーションも楽しめる、他のスキー場へのアクセスの良さが魅力である。子供達を、対象にした行事だが、小学校4年生以下は、保護者同伴が条件である。常連客の中には、子供が、中学生になっても、家族ぐるみでの、参加者が多数いた。志賀行事の、第1回(昭和55年)の参加人数は、80名だった。回を重ねる毎に、参加者数が多くなっていく、志賀高原行事の3年目は、参加者数が、100名を越えた。

志賀高原行事、12年目(平成2年)は、参加者数が、212名と大人数の行事になった。協会所属の全日本スキー連盟公認指導員によって、班分けされ、スキー技術に合ったゲレンデへと移動し、講習会が開始された。初心者の班も、2日目になると、リフトを使って滑る様になり、他のスキー場へと移動して行く。志賀高原は、それが可能である。中級班、上級班は1日目から、広大なスキー場のロケーション、散策ツアーを楽しんでいる班もあった。

競技部とタイアップし、初心者向けの、ポール講習会も取り入れたスキー行事を企画した。

昭和の後期から、平成の前期にかけての好景気の後、バブルの崩壊と不況の時代を迎え、参加者数の減少、レジャーの多様化、スキー離れが続く様になった。

平成12年は、バス1台の行事となってしまった。基礎部も新たな展開への検討に入った。検討を重ねた結果、保護者の負担が少なく、子供達が参加しやすい行事として、小田原から近くて、料金的も安く出来る、"車山高原スキー場"に変更することにした。昭和55年から21年続いた"志賀高原"を離れ、第24回(平成13年)から"車山高原スキー場"で「春休みジュニアスキー教室」開催し、現在(平成23年・第35回)に至っている。

## 1981-1989年小田原選手権車山スキー場時代

本間昭治

車山スキー場では9年間小田原選手権を実施した。当時は競技スキー人口はまだまだ少なく競技スキーの創成期であったと感じている。

御殿場スキー場から車山スキー場に移った当初は大会運営上数々の問題が考えられたが松浦前会長(故人)のご尽力により信州総合観光開発株式会社の後援を得ることができたことと、協会執行部の努力と各クラブの協力によりスムーズな移行が出来た。

ピステンでの大会バーンの整備、竹ポールからグラスファイバーポールへの移行等により、小田原選手権もようやく県大会並みのバーンと道具で大会が出来るようになったと、参加選手・役員共々感動した記憶がある。初期の大会は回転競技2本で行なっていたが、プロテクターを持っている選手は少なく、ポールに当たらないように滑っていたと記憶している。タイム計測はトランシーバーとストップウォッチを使用して行っていたので、多少の誤差はおおらかに対応していた。タイム表示は荷札にゼッケン番号、氏名、タイムを手書きし、掲示用の紐に洗濯バサミで挟み表示していた。

その後、1985年頃から現地スキー学校の全面的な協力を得てからは、大会コースも長くなり可倒式ポールを採用しての本格的なリーゼンスラローム1本の大会となった。更に、大会の雰囲気盛り上げたのは、初めてタイム計測に電光計時を採用したことである。100分の1秒を争うために力強くスタートバーを切る選手もいたが、選手の多くが電光計時は初めてだったため恐る恐るスタートバーを切る選手が多くいた。

また、参加役員選手の宿舎及び大会の開会式・閉会式会場として当時の車山高原ホテルには大変お世話になった。大会前夜はスキーのチューンナップそっちのけで各クラブ共に親睦を深めていたと記憶している。

当時はスキーブーム最盛期でもあり協会クラブ員も若かったので年々参加者が増えて、最盛期は約160名の参加者となった。しかしながら車山スキー場には連日お客さんが溢れ、大会当日も運営に支障を来すようになった。そこで大会の運営の改善、参加選手の安全確保、参加選手への練習環境の提供等を図るため、1990年より野辺山スキー場へ会場を移すことになった。



小田原スキー選手権大会のスタート

## 1985年技術交流会小林氏、海和氏を招く

木村徳善

昭和61年2月に長野県車山スキー場において基礎部と競技部合同の技術交流会が開催されました。この事業は日頃から上級者に教わる機会が少ない、更に上位を目指してレベルアップを図りたい等の目的で開催され、当時、現役を引退して間もなく、多忙でなかなか指導をしてもらえない豪華な2人のコーチにお願いし、多数の参加者で盛り上がりました。

基礎部のコーチとして元デモンストレータの小林平康氏(現中里スキー学校代表)をお招きし、有資格者を対象に【鋭いターン】をテーマにした講習会を実施しました。一日の講習でしたが参加者にとっては「速いものは美しい」の哲学で現役時代活躍した小林氏に直接指導が受けられ、大変満足のいくものでした。

競技部のコーチはワールドカップ、オリンピックで活躍した元日本代表の海和俊宏氏(現カイワ・スポーツクリエイティブ代表)をお招きし、各クラブの競技経験者、協会のトップレベルの選手がポール講習を受けました。車山スキー場の硬いバーンにずれない一本の線のごとく滑るカービングターンテクニックに参加者は大いに感動しました。夜のミーティングでは海和氏がワールドカップやオリンピックで経験した興味深い話を聞かせて頂き、夜遅くまで盛り上がりました。このミーティングで海和氏が【ジョイント】という言葉を使いながらターンの構成を説明していたことが今でも忘れられません。両氏は当時、全日本の役員、また何かと超多忙の中でご指導して頂いたことに改めて感謝しております。

本ページの写真は海和氏のポール講習会に参加し役員と参加者の皆さんです。現在も、まだ選手として頑張っている人、また、各クラブの責任者として後輩の指導にあたっている人など、長きに渡って協会を支えている方々です。



海和氏を囲み集合写真

## 1990年—2008年小田原選手権野辺山時代

本間昭治

野辺山スキー場では19年間小田原選手権を実施した。この時代は競技スキーの全盛期であったと感じている。

野辺山スキー場はSAJ公認の大会専用バーン(スーパーレッドコース)と大会専用リフトが整備されていて滑走コースはアイスバーンで有名であった。

大会運営は、現地野辺山スキー学校の協力を得て進めていたが、毎年限られた予算で執行するには協会執行部自ら旗門セットを行ったり参加クラブ員に旗門員をお願いする等、役員選手共々協力して行った。大会は神奈川県の大大会に匹敵する内容で大回転2本の合計タイムで行なった。従来から行っていた電光計時に加え、選手がゴールすると即座にタイムが電光掲示板に表示されるようになった。また試合経過を伝える場内アナウンスも加わり大会の雰囲気はより一層盛り上げられた。

野辺山スキー場で大会を運営するに当たり一番助かったのは、大会専用リフトの機動力により大会運営がスケジュール通りに進められたことと、参加選手も事前練習ができたのでベストコンディションで大会に臨むことができた。移った当初は、選手が硬いバーンに慣れていなかったため、心配する所があったが、大会前日ポール練習会が定着化し、年々参加選手のレベルアップが図られ積極的な滑りを見せる本格的な大会となっていた。

一方クラブ対抗団体戦は断然アールベルグスキークラブが優勝回数が多く、後塵を拝していたのが日立小田原スキー部、雪友スキークラブ、スポーツマンズスキークラブであったが牙城は崩せなかった。

競技スキーのレベルアップと共に国体選手2名も誕生した。現市川房雄理事長は神奈川県代表国体選手として出場、アールベルグスキークラブの木村美代選手は岡山県代表国体選手として出場している。

この時代はスキー板の革命期でもあった。細長いノーマルスキーからカービングスキーへと変わり、スキー操作そのものが大変革した。大会バーンもスキー板のカービング化と共に大回転のコースセットの振り幅が広くなり、滑走スピードが高速化したため、スーパーレッドコースからレッドコースへと変わることになった。更に選手のスキーウェアもデモパンとスキーセーターから競技用ワンピースへと変わった時代でもある。

参加者は当初100名前後で推移していたが、参加者の高齢化、若年者のスキー離れが進み、最後は50名前後までに減少した。しかし、ジュニアクラス参加者は協会クラブ員の子供達が年々増えていった時代でもある。

参加役員選手の宿舎及び大会の開会式は野辺山へ移った当初よりリゾートイン黒岩荘に長年お世話になった。最後数年は八ヶ岳グレイスホテルにもお世話になった。

野辺山スキー場は、スキー客の減少と共に経営者も変わり競技専用スキー場へと変わったが、とうとう閉鎖されることになった。それと同時に小田原選手権も飯綱リゾートスキー場へ変更することになった。





野辺山スーパーレッドコース急斜面下部を攻める。



小田原選手権参加者集合写真

## 1990-1995年市民スキー教室菅平の時代

市川房雄

昭和53年度から7年間もの長い間続いた戸隠高原での市民スキーが雪不足から代替地を探さざるを得なくなり、あだたら高原(1年)・妙高池の平(3年)・北志賀竜王(1年)と移り替わり、その後菅平高原スキー場へと移ってきた。

菅平は白金ゲレンデの下のスイスホテルさんに宿泊し6年間続けられた。降雪機が完備されていることから雪の心配はなく毎年好条件の中実施することができた。この頃までは年末から年始にかけてのAコースと年始に入るBコースが設けられていて中にはABコース通しで参加するものもいた。

ホテル前の白金ゲレンデでは朝早くから参加者が滑走し、同時開催していた競技合宿グループは主にこのゲレンデを使ってトレーニングに励んでいた。

菅平のゲレンデといえは何と言っても裏太郎であり、当協会の上級者たちが競って固い1枚バーンを滑り降りていたことは記憶に新しい。またダボス、シュナイダーと足を延ばせばフラットで長いコースを滑走することができ市民スキーにとっては初級者から上級者まで楽しむことができる良いゲレンデであった。

この頃の参加者数はAコースが100名以上、Bコースが80名程度と多数の参加が有り昼間の講習会はもちろん夜の部でもゲーム大会等で大いに盛り上がった。また参加者はまだ若い方が多く夜遅くまで(下手をすると朝方まで)飲み明かして翌日のスキーが心配になるような状況であったが、翌日にはシャキッとして滑り降りている姿を見ると感心したものである。

役員は事前の部屋割やクラス分け等の準備が大変であったが、雪上での参加者の笑顔を見ると全て吹っ飛び自分たちも十分に楽しんだものだ。また役員部屋は大部屋で役員同士のコミュニケーションも良く参加者もよく役員部屋に遊びに来てスキー談議などに花を咲かせた。

最近の市民スキーは参加者が減少してさみしい限りだがまたこの時代のように多くの参加者が一堂に会する時が来ることを期待して止まない。



1994年級別テスト合格者と故松浦名誉会長(右前)、鈴木会長(右後)

## 1996年—2009年市民スキー教室志賀・焼額の時代

鈴木雅樹

年末に出発するAコースとお正月元旦に出発するBコースのふたつのコースで行って来ましたが、参加人員の減少から2001年のお正月からAコースのみの運営方法に変更しました。同時に経費見直しによる会費改定(値下げ)を行い参加者が増加しました。

行事内では、スキー講習班、志賀高原巡り班、指導員養成講習班の3グループに分かれてそれぞれの目的に合わせて運営しました。元日の夜には級別スキー検定結果発表と表彰式を行い、その後ミニゲームで楽しいひとときを過ごし、解散後は各講師の部屋で参加者との交流を深めました。

2010年からはホテルからの宿泊費のアップ要請があり、会費が高くなりすぎると言う問題から一の瀬に会場を変更しました。



準指養成講習会



バッチ検定表彰式



講習会風景



講習班の方々

## 1996-2000年映画会の良き時代岡部氏、上原氏、荻原氏、 我満氏、三浦氏を続けてゲストとして呼ぶ

松浦哲也

この時期映画会に携わった者の一人としてこのページを担当することになった。ゲストとして招いた各氏は誰もが知っている、そのシーズン、その時代を代表する一流選手であり、名スキーヤーである。これを成しえたのは現会長(鈴木忠昭元SAJ総務本部長)と前会長(故松浦益司郎元SAJ副会長)の影響力をフルに活用させていただいた

ことは言うまでもない。一見、表題にもある映画会のよき時代に思えるが実情はまるで違っていた。

1987年の大ヒット映画『私をスキーに連れて行って』が火をつけたスキーバブルも1992年バブル景気がはじけるのと時を同じくして、ゲレンデからは徐々にスキーヤーが減りはじめ、スキー関連業界ではマイナス成長に動き始めていた。

そんな影響下、スキー関連メーカーに頼っていた16ミリの新作フィルムはまったく手に入らなくなり、著名なゲストを呼ぶのは苦肉の策でもあった。

昭和36年(1961年)11月に第一回スキー映画の夕べを開催以来現在まで企画を変更しながらも継続できたことは県内でも稀であり、これも参加していただいた会員は勿論その時々苦勞された担当役員のたまものであり協会の大きな財産である。

協会設立当時、シーズンを待ちきれないスキーヤー達への集いの場、情報交換の場として新潟県のスキー場とタイアップして始まったスキー映画の夕べも50年の歴史の中で変遷を重ね引き継がれてきた、それはその時々有り様であり進化したものと考えている。

スキー界にとって本当に厳しい現在、シーズンを待ちきれないスキーヤーをいかに多く生み育てていくか、そのための環境を如何に提供できるかが協会に与えられた大きな課題である。



デモンストレーター我満嘉治氏公演



三浦雄一郎氏を囲んで

## 2004年～日帰りスキー教室を始める

内藤浩志

ジュニア対象のスキー教室を開催して、今年(2011年)の2月19日「カムイみさかスキー場」で第8回の行事が大盛況のもと無事に終了した。小学1年生から中学3年生までを対象とし、子どもだけで参加できることから人気の行事である。例年、1月15日の申し込み開始から、わずか3時間程度で定員94名(バス2台分)近くまで集まり、最終的にはキャンセル待ちを含め110数名程度で受付を打ち切る。2月中旬のスキー教室に向けて、参加者名簿の作成、事前説明会、班分けやスキーレンタルリストなど、準備に追われ慌ただしい日々が始まる。とは言うものの、ここまで定着するには様々な苦勞があり、簡単ではあるがその経緯を紹介する。

小田原スキー協会に限らず、スキー人口の減少が止まる気配もなく、協会ツアー行事もこのままでは継続危機に直面していた。経済も長い不況に入り、バブル経済時のスキーブームのような利用者回復は期待できない。また、家族全員で行くにはお金が掛り、今までのように参加申し込みを待っているようでは集客が望めない。参加人員の減少を分析し、底辺拡大としてジュニア育成に注力を注ぐことにした。

2002年2月、事業化検討行事として「日帰りジュニアスキー教室」を、裾野市にあるイエティスキー場で参加者46名(大型バス1台)講師8名、基礎部行事として開催。参加した子ども達の感想は、「楽しい」「ゲレンデから帰りたくない」「スキーがこんなに楽しいとは思わなかった」などの感想が寄せられ、また、父母からはもっと回数を増やしてほしいと言う要望もあった。翌年はバスを2台に増やし参加者84名、講師14名で開催した。大勢になりレンタルに手間取ったり、低学年の子どもは仕度や自分の荷物が分からなくなるなど、問題点は良い反省材料として改善している。80名以上の人気行事となり、鈴木忠昭会長、松浦理事長(現副会長)の働きかけにより体育協会主催行事となった。これにより、更に広く市民に安心して申し込みできる行事として定着し、2004年2月の行事より体育協会と協賛、「日帰りスキー教室」が正式に誕生した。

行事の思い出としては、第2回開催(2005年2月19日:イエティスキー場)。この年はインフルエンザが猛威を奮い、小中学校では学級閉鎖などニュースを賑わしていた年でもある。キャンセルの連絡が連日入り、その都度キャンセル待ちの方に連絡、名簿・班分け変更、レンタルやバス座席表の作り替えと夜遅くまで続いた。当日の朝、外は白銀の世界で驚く。夜半からの雪で『東名高速道通行止め、R246大渋滞のため箱根越えを敢行したものの身動きが取れない!』と御殿場からの配車バス運転手より電話があり、小田原駅到着時間の見当が付かないことから急遽中止とした。日程変更による開催を強く要望され、再募集で3月12日(土)に無事実施することが出来た。毎年、帰路の車中では滑れた喜びや一回り成長した充実感か、誇らしげで元気な子ども達の笑顔を見るとホッとすると共に、この活動を通し一人でも多くの子ども達がスキーを体験し、スキー業界を賑わしてくれることを切に願う。



## 2004年～映画会に変わりスキーフェスティバルを始める

久保田秀幸

発足の翌年から始まった映画会は、当時のスキー人気で会場はいつも満員状態でした。それから"私をスキーに連れてってや"ホイチョイなどの第二ブームの後、スキー人口の減少から映画会も参加者は減少の一途でありました。入場者数増加の為、役員一同色々仕掛けを考えてきました。たとえば当時有名なスキーヤーに講演を依頼したり、抽選会用にスポンサーから高額商品を頂いたり即席の販売会を設けたり、あの手この手と色々な方法を試して来ましたが、なかなか参加者増加には繋がりませんでした。

また、肝心の映画会で放映する映画自体もメーカーで作成しなくなり、借りることも難しくなり映画会の存続が難しい状況になってきました。いままでの役員の皆さんもなにか変化を求めていたのですが、壊す怖さもあり躊躇があったと思います。しかし、私は自分たちが楽しめない行事では参加して頂く一般の方々も楽しめないのではと思い、映画会をやめ、一般参加型のフェスティバルに変更しました。(2004年～小田原サブアリーナ、2010

年～タウンセンターマロニエ)

当初、すべてが始めてで怖さ、楽しさが入り乱れ無我夢中で行事を計画いたしました。前年には感じる事がなかった気持ちを味わうことができました。それは、やらされて嫌々やっている行事でなく自分たちで作る楽しみが加わった行事に変わったことでした。結果もそこそこ出て変えたことによるメリットは大きかったと思います。スキーと同じように自分が楽しくなければ参加したお客さんも面白くない、面白いことをもっと多くの方々に伝えるために今後も自分たちももっと楽しんで行事を運営していきたいと思っています。

協会創立(昭和36年・1961年)以来継続された映画会は平成15年(2003年)まで多くの方々の努力のおかげで42年間も続きました。これからはフェスティバルもそれ以上続けられるよう私もバックアップしていきたいと思っています。

これからも宜しく御願いたします。



2010年タウンセンターマロニエでのスキーフェスティバル

## 2005年～いいつなリゾートでポール教室始める

齊藤学

今は小田原スキー協会の恒例行事となっている「いいつなポール教室」。きっかけは2004年シーズンの協会オフトレに見谷スキースクールの見谷昌禧先生を招いたところから始まる。そのシーズンの3月に見谷先生ご推薦のいいつなリゾートスキー場を鈴木会長と市川副理事長(現理事長)が視察しコースの素晴らしさを実感した。それまで車山や五竜で細々とおこなってきたスラローム記録会(兼県総体強化合宿)をやめ名称も新たに誰でも参加しやすいネーミングの「いいつなポール教室」として2005年シーズンから開催した。

いいつなリゾートスキー場は長野県北部に位置し長野市街から車で30分程度の所にある。いいつなポール教室は2月の土日に開催される。おもにサンシャインゲレンデを使用して滑り込む。このコースは中斜面の一枚バーンで徐々に斜度がきつくなっているため初級者はそれなりに、上級者はスピードに乗るとなかなか手ごわいコースである。1日目はジャイアントスラロームの練習、2日目はスラロームの練習をおこなう。2月のいいつなの雪は硬く締まっており1日滑ってもコースの荒れは少ないため参加者にとっては絶好のコースコンディションでの練習ができる。

2009年シーズンからは小田原スキー選手権大会を野辺山ハイランドからいいつなリゾートへ変更し、前日ポール練習も同スキー場にておこなうことになった。ポール練習は大会バーンであるスラロームコースを使用する。コースはスタート後は緩斜面、続いて急斜面、続いて長い緩斜面という構成になっており、急斜面でのスピードをいかに落とすことなく緩斜面に繋げていけるかがタイム短縮のポイントとなる。また、全長1000m以上もあるポールバーンで練習する機会はなかなか無く、今まで以上に体力が必要とされる。

ポール教室の楽しみの一つがビデオミーティングである。参加者全員のポール練習をビデオ撮影してもらい、ポール練習終了後宿舎に戻って参加者全員でビデオを見ながら、見谷先生からアドバイスをいただく。ビデオをスロー再生したり停止したりして滑りの良し悪しを個別にアドバイスしていただけるため、参加者は自分の滑りを客観的に見ることができ課題が明確になってくる。

いいつなリゾートスキー場から車で5分ほど行ったところに「むれ温泉天狗の館」がありアフタースキーの楽しみである。ハードなポールバーンを滑り込んで冷えて疲れた体に温泉は格別である。疲れもリセットされて翌日の練習に打ち込むことができる。いいつなポール教室を始めてから今年で7回目となるが毎年30名程度の参加者がありリピーターも多い。ポール教室参加者のスキー技術は年々着実に向上しており神奈川県連の各種大会などで優秀な成績を収めている。これからも競技スキー力向上のために、小田原スキー協会の恒例行事として長く続けていくことを期待したい。



## 2009年～小田原選手権いづなリゾートの時代

岩田国雄

小田原スキー選手権は小田原スキー協会行事でも唯一の協会員を対象にクラブ対抗戦も行うスキー行事で、協会員の皆さんからは「小田選」と呼ばれ、お祭りのな行事として親しまれています。

この小田スキー選手権も43回の歴史を重ねた歴史のある行事になりました。

2009年に19年間開催してきた野辺山スキー場が経営難のために閉鎖することになり検討を進めていたいづなリゾートスキー場に会場を変更しました。閉鎖の可能性については事前に情報を得ていたことから、検討を進めていたこともあり影響は最小限に抑えることが出来ました。会場選択にあたってはポール教室を実施しているいづなリゾートスキー場が競技コースとしては斜面変化に富んでいてコースの全長距離が長く計測設備も整っていて大きな大会も運営していること、また大人数に対応できる宿泊施設も整っていること、さらには当協会の競技選手の技術の底上げにご尽力を頂いている見谷昌禧先生が拠点として活動しているスキー場等から考えて協会としては理想のスキー場と考えていました。多数の競技選手がポール教室に参加しているいづなリゾートスキー場の良さが判っているので好感触の意見が多く検討の結果いづなリゾートスキー場で小田原スキー選手権を開催することに致しました。

参加者は、競技趣向のスキーヤーから、ジュニアや家族での参加、基礎スキーヤーまで幅広い参加者を得ています。いづなリゾートスキー場を歴史ある選手権の開催地として選択して良かったと思います。

また、去年は参加者増も狙い基礎スキー行事との融合をはかりデモ講習会を開催しました。競技基礎の垣根なく多くの協会員が一堂に会しクラブ間の親睦も図れる大会となるような行事運営を行っていきたいと考えています。

最近の競技部行事はいづなリゾートスキー場主体で開催し見谷先生の基で一貫したトレーニングが出来、皆が切磋琢磨して競技スキーに取り組んでいることが各大会で協会員の皆さんが好成績を残す結果につながっていると思います。

今後も協会発展の為に、よりよい行事として継続していきたいと考えています。

小田原スキー選手権の開催にあたりご協力を頂いている、いづなリゾートスキー場関係者の皆様、見谷先生に感謝と御礼を申し上げます。





# 祝 50 周年

各種ブランド取り扱い

各種スポーツ用品・チームユニフォーム・学校体操服

カッパ、トロフィー、楯・体育器具・工事修繕

NO SPORTS. NO LIFE.

## マツウラスポーツ



Odawara Ginza

TEL 0465(24)1855

FAX 0465(24)1856

姉妹店 (株) 大半

小田原土産に

小田原魚市場近く

# 半兵衛

TEL 0465 (42) 9755

<http://shop.gnavi.co.jp/Mall2/1314/280821.html>

## 日本チェアスキー協会

まいあがれ愛と自由の熱い雪!

日本チェアスキー協会では、車いす等で日常生活を送られている皆さまの「もし、私が白銀の世界を思いっきり滑走できたら・・・」という願いをチェアスキーというスキー用具を用いて実現させるための活動を行っています。

研修会・講習会は数多くのスタッフの皆さまに支えられ成り立っています。

ボランティアのご協力をお願いします。

<2011～2012 シーズン・行事予定>

2011年12月23日～25日

チェアスキー指導員研修会・車山

2012年2月24日～26日

チェアスキー大会(講習会)

会津高原たかつえ

2012年4月29日～5月2日

チェアスキー指導員研修会・ニセコ

日本チェアスキー協会

<http://www.chairski.jp/main.html>



保管、小ロット物流、大ロット物流の専門店

# アイエス物流株式会社

お気軽にご相談下さい

TEL 0465-39-1322 FAX 0465-39-1320

食品、雑貨品、その他、梱包サービスを提供します  
(国内はもとより海外発送も可能です。英文送り状の作成もできます。)

# アイエスサービス株式会社

TEL 0465-39-1380 FAX 0465-39-1320

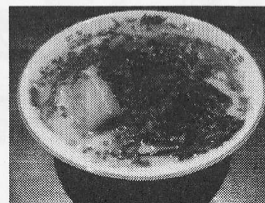
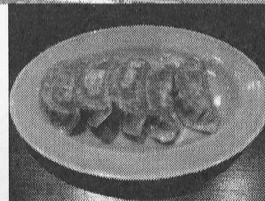
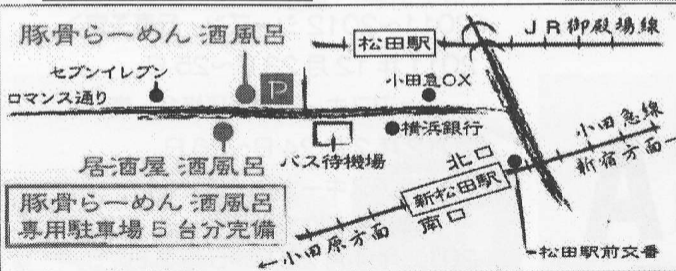
## 居酒屋 **SPUR** 酒風呂 シブール

足柄上郡松田町松田惣領1324-1  
新松田駅より横浜銀行方面へ・徒歩2分  
TEL 0465-84-5030  
営業時間 PM5:00~PM0:00

2号店  
オープン  
居酒屋  
&  
ラーメン



各種御宴会承ります。



- 豚骨らーめん <sup>しぶール</sup> 酒風呂【営業時間 11:00-14:00(昼) 17:00-02:00(夜) / 年中無休】  
〒258-0003 松田町松田惣領1315-12 座席数18席
- 居酒屋 <sup>しぶール</sup> 酒風呂【営業時間 17:00-24:00 / 定休日:日曜日】  
〒258-0003 松田町松田惣領1324-1 座席数 1F:20名様 / 2F:35名様

## 加盟クラブ紹介

## 加盟クラブ紹介

神奈川雪友スキークラブ  
アールベルグスキークラブ  
エリアスキー同好会  
富士小田原スキー部  
日立小田原スキー部  
ミクニススキー部  
小田原スキークラブ  
小田原スポーツマンクラブ  
トライアルスキークラブ

## 神奈川県雪友スキークラブ

- ・設立 昭和26年10月
- ・会長 菊地 務
- ・理事長 事務担当 須藤 博
- ・連絡先 Tel:0465-72-2210
- ・会員数 51名

クラブ創立者にして初代会長、わが国のスキー界に大きな足跡を残した松浦益司郎が2000年11月27日に亡くなって、はや11年が経ってしまった。

会長だけでなく、渡辺福富、今村義郎、市川弘と、長年活躍したクラブ員で亡くなった者は数人を数える。健在だが登録しなくなった者も、県連教育本部長理事長の要職を歴任した柴田伸彦をはじめ、橋本栄二、大なべ小なべとうたわれた名手渡辺修、三浦禎子、竹山克己、石橋誠市など数多い。

他クラブに移籍した島村一男、宮下潤一、村越進などや、イギリスに転勤した県技術選出場者青山雅之など、数え上げればクラブ員の減少もうなずける。現状を嘆いているわけではない。今やどこのスキー場もリフト待ちなく滑ることができるし、野辺山のように廃止になったスキー場さえある。スキーそのものが一つの時代を終えたのである。

協会30周年記念誌の雪友の欄末尾で予言したとおり、スキーバス講習会という形式は衰退し、多くのクラブがクラブ員の高齢化、不活発化に苦しむ状態が続いている。松浦会長の下に名人が相集った雪友クラブも、会長が亡くなられたことで求心力を失い、解散の恐れもあるとさえ筆者は思っていたのだが、幸いにも創立60周年を迎えることができた。

紙数に限りある中でだが、クラブの歴史をざっとふりかえてみよう。

1934(昭和9)年、1940年開催が予定されていた札幌オリンピックを目指してアルペン・ジャンプの全日本レベルの一流選手が集まった。が戦争で中止となり、幻となってしまふ。その「ホッパークラブ」が、英語禁止を受けて昭和17年「雪友倶楽部」に改名したのが源流である。その流れは札幌、東京、神戸に残っているはずだし、横須賀にも同名のクラブはあるのだが、残念ながら現在交流はない。

「神奈川県雪友クラブ」は、1951(昭和26)年10月、県下初の指導員に合格した松浦によって相模原で発足し、1959年当今ご成婚の年、松浦の引越しに伴い小田原に拠点を移した。

1950～60年代の松浦は無敵の強さであった。昭和29年から40年までの12年間に国体壮年回転大回転で15回優勝している。

その滑りを学ぼうと数々の名人が入会した。競技では法政大学主将だった中島悦雄、基礎では佐藤善勝、田原隆、本間尚などの、都連県連や全日本で活躍した人材の名が上がる。当時1960～70年代に準指正指を取得したのは、現在も名手の熊沢潔、古屋益男をはじめ、現会長菊地務、県連副会長を務めた野地澄雄、松本良男、鈴木孝雄らである。五竜のペンション経営者となった大泉彰子は80年代の県デモで、当時1級から準指の受験者だった泉勝弘、高原照夫、徳田弘毅、三瓶英雄などに戸隠で華麗な前走を見せてくれた。現在県連の最年長、80歳を超えてなお嬰鍊たる山口利雄や野沢孝治なども同じ80年代の合格者である。ちなみに現県連教育本部長の要職にある日立の木村徳善も泉、高原、徳田、山口と同期の準指合格で、戸隠に練習に通った仲である。

この頃、全盛だった「小賀坂」に対して「カザマ」が台頭し、県連もクラブも戸隠から撤退し、東北「網張」や車山へと移動するが、準指正指合格者は続々と生まれた。現協会副会長松浦哲也、上原邦嗣、井東昭たちは現在クラブの中堅であろう。一時はクラブをリードした長久保巖、沖山和範、稲葉茂代、小山高宏・哲男兄弟、役員歴の長い須藤博、今も競技を続けている高杉隆幸などがこれに次ぐ。この後を追っている若手、といっても40歳代に入ってしまったが、現在も技術選にチャレンジしている現役、菊川広之、志村武彦、田村浩幸などであり、次代のクラブを担う世代である。

偉大だった松浦会長の死に符合するようにスキー界は衰退し、クラブ運営が困難となる時代になった。こ

れは全国的な傾向であり、しかもスキーに限らない。経済の停滞、若年人口の減少、パソコンゲーム機など室内遊戯の発達などの諸要素が複合して、テニスもバレーボールも活気を失ったのである。

そうした中、二代目会長を受け継いだ柴田伸彦がショートトリップに終わり、多難な三代目会長職をあえて引き受けた菊池務の下、平均年齢の高い役員がクラブ再生を図っている。清水岩夫、石綿孝一、小野聡枝、野地香のように、現役できびきびと動いてくれる人材を一人でも欲しいところである。

50歳前後は職業上も多忙であり、諸事情があるとは思いますが、要職にありながら急に役員をやめてしまうような困難な事態が起こらないことも願っている。

ともあれ、ここ数年営々と続けてきた努力は、小さいながらも結実しつつある。昨年は川崎の指導員研修会の後にクラブ員交流会を開き盛況であった。恒例となった車山行事には、技術選出場の菊川、志村が例年、指導に参加する。今年も正指導員に65歳の徳田弘毅が合格した。茂川郁夫は準指導員にチャレンジし、鈴木順も続こうとしている。

今シーズンは、クラブ60周年記念行事をいくつか企画している。協会関係の皆様も、一人でも多くの方がご参加くださることを願っている。

最後に、協会が、60周年70周年を迎えられることを祈念し、結びとしたい。

(文中敬称は省略した 副会長 高原照夫)



平成23年車山スキーツアー



平成23年2月車山レベルアップセミナー

## アールベルグスキークラブ

- ・設立 昭和38年9月
- ・会長 大館 昌之
- ・理事長 久保田 秀幸
- ・事務担当 保坂 圭一  
連絡先神奈川県南足柄市怒田748-3 TEL0465-73-8650
- ・会員数 98名(2011年度登録会員数一般:77名1高校生:3名1中学生以下:18名)

小田原スキー協会設立から遅れること2年。現名誉会長楓山一登氏を中心にクラブを発足し小田原スキー協会に加盟したことから当クラブの歴史が始まりました。当初は40名程度の会員数でしたが、昭和46年頃から急激に会員数を増やし、昭和53年には登録会員数で全国2位となる384名までに成長。その後は減少しているものの、昭和56年以降現在まで100名前後の会員登録を継続しています。指導員は正指導員11名、準指導員21名が登録しています。

2013年には当クラブも50周年を迎えます。40周年(2003年)の際には、1月にイタリアスペシャルスキーツアーを実施し、9月に式典祝賀会を実施しました。イタリアスペシャルスキーツアーは何度もイタリアスキーへ参加している当時の楓山会長(現名誉会長)が「もうイタリアスキーツアーの企画をするのは嫌だ」と思うほど考え抜いた内容・コースで実施いたしました。切り立った岩山とその谷間や斜面にスキー場が点在し、滑るたびに広がるスケールの大きさ素晴らしい景色に圧倒され感動の連続で参加者からは夢の中に居ようだとの声も多数聞かれました。式典祝賀会は97名の参加者を得て南足柄市文化会館で盛大に実施することが出来ました。

50周年でも同様に計画を練っているところですので、その節には会員を始め関係各位とスキーが出来ることの喜びを分かち合いたいと思います。

現在の年間行事は以下の通りです。

スキーシーズン中は毎月・合計5回の行事を開催しています。

12月:初滑り(白樺湖ロイヤルヒルスキー場)

1月:競技講習会(車山or乗鞍高原温泉スキー場)

2月:基礎&競技合同合宿(級別テスト開催・乗鞍高原温泉スキー場)

3月:基礎行事(級別テスト開催・車山高原スキー場)

4月:基礎/競技合同春スキー(ポールあり/希望者講習あり・志賀高原スキー場)

10月:ハイキング(総務部主催)

クラブ内の組織は、名誉会長1会長1副会長1参与を筆頭に、執行を理事長以下事務局/総務部/基礎部/競技部が担当して実施し、それぞれの部が責任を持って行事の計画運営に携わっています。会員のニーズをしっかりと掴みその時代時代に合った企画をすることでクラブの方向性をしっかりと持って進められていることが会員数を100名前後で維持できている原動力と思います。

近年は会員の子供たちがスキーをする年代になり行事に多数の参加が有ります。子供班等の設定をし、親子で参加し易い取り組みをしたり会費設定についても負担のかからないように考慮する等親子で長くスキーを続けられる条件づくりもしています。

またクラブ内の競技行事が充実していることから各種県連大会への参加・入賞も多数あり他クラブからも当クラブ行事へ多数参加をいただいています。

また基礎行事については年2回の級別テストを継続して実施しています。指導者育成にも力を入れていて組織の中核部となる指導者の後進の育成にも取り組んでいます。

各行事の規模はスキー界全体の流れから全盛期には及ばないものの、年間を通じた交流をベースに、基礎・

競技とバランスよく今後も継続運営していくことで、小田原協会と共に、スキースポーツの普及・発展に寄与していきたいと考えています。



2010年12月初滑り(白樺湖ロイヤルヒルスキー場)新クラブウェアにて



## エリアスキー同好会

- ・設立 昭和33年4月1日
- ・会長 鈴木 忠昭
- ・理事長 小曾根 隆司
- ・事務担当 松本 和徳  
連絡先Tel : 045-761-7693
- ・会員数 33名

昭和33年(1958)春、鈴木忠昭会長と数人のスキー仲間達がスキークラブを作り、大磯の高麗山から"高麗スキークラブ"と名づけた。これが"エリアスキー同好会"の発祥である。

昭和36年(1961)、松浦益司郎先生との出会いがあり、同年秋、小田原スキー協会発足と同時にクラブ名も"NCR山岳スキー部"と改名して登録した。

競技スキー部門では渡辺保夫選手が、昭和38年(1963)宮城県鳴子国体以降、距離競技県代表として連続国体出場を果たし、基礎スキー部門では内田均選手が、昭和46年(1971)神奈川県デモンストレーター選考会9位入賞以降、毎年全日本デモンストレーター選考会に出場活躍するようになった。

山岳活動では古谷勝さんが、昭和44年(1970)にスイスのマッター・ホルン、モンテローザ、難峰リスカム北壁登坂に成功し、翌秋にはヒマラヤの八千米峰アンナプルナ3峰にも挑戦した。また同年春、大野光弘遠征隊長と7人の会員が韓国の智異山に遠征した。昭和40年(1965)から鈴木会長が小田原スキー協会理事長に就任、(財)神奈川県スキー連盟常任理事、(財)全日本スキー連盟(SAJ)評議員として全国レベルのスキー行政にも関わった。昭和46年(1971)SAJ常務理事に就任後は、オリンピック対策委員会、昭和47年(1972)札幌オリンピック、数度のワールドカップ苗場大会の実行委員、昭和49年(1974)サンモリッツ、ファルンの世界スキー選手権大会、昭和50年(1975)ヴィソケタトリのインターシーの各大会には日本選手団監督として日本選手団を引率して世界スキーの舞台で活躍した。その間、千村理事長(現副会長)がクラブ運営を担った。

昭和53年(1978)秋、一般のスキークラブ"エリアスキー同好会"として再発足し、木村政美(現顧問)、石丸定悦両副会長、大西理事長(現副会長)と共に継続発展させた。この頃には基礎スキー技術選手権で全日本レベルでも活躍する選手が続出し、鶴淵裕選手が神奈川県技術選手権大会で昭和54年(1979)以降8年連続して上位入賞をして全日本技術選手権大会出場を続け、現在も群馬県藤原スキー場のSAJ公認スキー学校校長として活躍している。昭和63年(1988)からは門脇均選手が平成6年(1994)まで上位入賞し南関東技術選、全日本技術選の各大会で活躍、その後はブロック技術員となり神奈川県選手団監督として全日本大会に参戦しデモ強化に当たった。平成7年(1995)からは数年間、高橋実穂(旧姓:佐川)選手が神奈川県技術選手権大会女子の部で4~7位と活躍して全日本技術選大会に出場した。

平成17年からは見谷レーシングスキースクールの見谷昌禧先生から直接指導を受け、唐澤(旧姓:木村)泰子選手が県大会レベルで好成績を挙げている。

3年前、平成20年(2008)10月、協会より一足先にクラブ創立50周年(エリアになって30年)を迎え、大磯プリンスホテルで関係者の皆さんにご臨席頂きクラブ員と共に盛大にお祝いをした。以上がクラブの歩みの概略である。

この10年を振り返るとクラブ行事は蔵王を中心に行ってきたが、近場でという声もあり2011年冬は久しぶりに苗場で開催してみた。中国上海から参加してくれた方や吹雪の中12時間掛けて参加してくれた方もいて、クラブの活動が人のつながりによって支えられていると実感した。

スキーはお金と時間と体力がいるスポーツで現在の環境では厳しいが、自然の中で体を動かすことでストレスを忘れる事ができる。協会のジュニアスキーで子供たちが滑れるようになったときの笑顔を見るとこちらもスキー指導をしていて良かったと思う。

3月11日の東日本大震災を目の当たりにして、普通の事がいろんな人によって支えられている事を実感した方が多いと思う。自分の思いだけでなく周りの人の思いにも気を配り、生き活きと生きられる。スキーがその一助になればと思う次第である。

平成23年秋  
(エリアスキー同好会理事長)



## 富士小田原スキー部

- ・設立 昭和40年秋
- ・会長 鈴木雅樹
- ・部長 原澤 建
- ・事務担当 堀内 勝則
- ・会員数 25名



小田原スキー協会50周年おめでとうございます。協会の一員として微力ながら一緒に歩み続けられたことにクラブ員一同、誇りに感じております。また、クラブ設立以来、多大なる協会からのサポートに対し感謝の念に堪えません。記念誌をお借りし御礼申し上げます。

### ークラブ紹介ー

#### 〈創生期〉

当クラブは富士フィルム小田原工場(現神奈川工場小田原サイト)を中心にスキー愛好家を募って活動をしてまいりました。その歴史は1963年(昭和38年)秋に富士フィルム足柄工場スキー部小田原支部として発足し、1965年(昭和40年)に小田原工場スキー部として独立し、協会加盟を致しました。クラブ設立から、歴代部長の五十嵐正明氏、澤登巖氏、小林政春氏(故人)、中島政和氏らに礎を築いて頂きました。特に五十嵐氏には協会副会長の要職を務めて頂き、さらに競技において、当時の神奈川県都市対抗スキー選手権に小田原市代表として当クラブ員だけでクロスカンントリーレーチームを結成し参加するなど活躍して頂きました。選手では澤登氏(クロカン)、飯塚氏(アルペン)が活躍いたしました。

#### 〈活動状況〉

ツアー行事は、これまでコルチナ(現白馬乗鞍)を皮切りに、岩岳(西山ゲレンデ)、志賀高原(丸池)、白樺湖、蔵王、梅池、八方尾根、野沢温泉とツアーバスを出してきました。しかし1990年代後半より、景気の低迷や個人での参加等の要因により、少人数での現地参加ツアーに変更しています。最近では2008年:白馬乗鞍、2009年:蔵王温泉、2010年:野沢温泉、2011年:白馬五竜の行事を行ってきました。

また、海外ツアーは過去2回実施しており、1991年9月にニュージーランド、2001年2月にカナダウイスラーツアーを実施しました。



ニュージーランドにて

競技では、鎌谷氏、安田氏、土屋氏の3名が県総体選手に選ばれ出場致しました。また、ポール合宿を木島平で2003年から3年間開催しました。小田原スキー選手権は初回より欠場することなく参加しています。

指導員資格の挑戦ではこの十年間で正指2名、準指1名が合格しました。



#### <クラブ創立40周年>

2005年(平成17年)10月にクラブ創立40周年記念式典(銀座ライオンにて)を、来賓に高橋晃様(富士足柄工場スキー部元部長)、佐藤英夫様(協会監事)、小室静雄様(協会副会長)に出席頂き総勢28名で行いしました。クロカン選手時のつらかった思い出、トレードマークの作成秘話など設立同時からの懐かしい話題で盛り上がりました。



#### 〈今後〉

部員の高齢化が進みOB比率も高く、活動の主体が40歳以上となっております。新人部員の獲得が急務であり、一方ではOBを中心にスキーバス復活の要望もあり行事を進める中で一般の方の参加を増やし部員勧誘を進めていきます。

## 日立小田原スキー部

- ・設立 昭和42年
- ・会長 木村 徳善
- ・事務担当 丸山 文信  
連絡先Tel:0465-58-7890
- ・会員数 27名

### 設立の歩み

当スキー部は昭和42年、日立製作所小田原工場発足と同時に、佐藤(元小田原スキー協会競技部長)、小室(現小田原スキー協会副会長)の両氏が中心となり、設立当初より競技スキーを中心に活動すべく、同好の志を集め発足しました。

### 活動状況

年間の主な行事は以下の通りです。

12月・・・初滑り翌1月・・・家族スキー(クラブ内の懇親会の意味も含めて)

2月・・・小田原選手権ならびに日立グループスキー大会

その他、行事説明会を兼ねたシーズン始めの懇親会やシーズン終了後に行う納会等スキー場だけでなく普段のクラブ内の親睦会も頻繁に行っています。

現在は、木村(現SAK教育本部長)、本間(元小田原スキー協会競技部長)両名の指導の下、日立小田原スキー部の伝統である競技スキーへの参加をしつつクラブの運営を行っています。

特に小田原選手権と日立グループスキー大会には力を入れており、小田原選手権では昨シーズンとその前のシーズン団体総合優勝において2連覇をしています。

また、日立グループスキー大会においては昨シーズンで26回大会を迎えるほど伝統のある競技大会で日立グループの各事業所から参加する精鋭たちが真剣勝負に火花を散らしています。大会が終了すると表彰式も兼ねた懇親会を開催し、それぞれのクラブ紹介などをしながら和気藹々と時間を過ごします。それは懇親会が終了しても続き、他の事業所の部屋へおしかけたり、おしかけられたり延々と続くのです。こんな楽しい時間を過ごせるのもスキーをしていたおかげと感謝します。

また、OBになられたとは言え、小室、佐藤、両氏には現在も多大なご尽力をいただいておりますこの場を借りて感謝いたします。

しかしながら、社会情勢の変化は当クラブのような企業内クラブにおいてもその影響は大きく、会社の事業形態の変化と共にクラブのあり方も変化をしてきました。中でも一番の悩みは会員の確保です。事業環境の変化に応じて過去にはほとんどの会員が当時の小田原工場敷地内におりましたので頻りにコミュニケーションが取れておりましたが、現在はそれぞれの勤務地が異なったり、仕事の内容が異なったりして普段、顔を合わす機会がなくなりメールによる連絡網が唯一の会員全員へのコミュニケーション手段となっています。新人の確保も悩みの種でここ数年若い人の入部がありません。

逆境にあるのは私どもクラブだけではなく、どのクラブも似たような悩みをお持ちだとは考えますが、そこは皆さん、スキーに愛情を持ったもの同士の集まりですから、一歩雪の上に立てば老いも若きも一心不乱に滑りを追い求める姿は今も昔もまったくもって変わりはありません。

皆さん、生涯スキーを友とし、We love ski.でいこうではありませんか。



## ミクニスキー部

- ・設立 昭和33年
- ・会長 谷脇 健司
- ・事務担当 斉藤 学  
連絡先 080-3013-1714
- ・会員数 8名

### 1.設立の流れ

現在、社内にスキー部設立当時の背景について知る人はいなく過去の記念誌の記事をお借りしてまとめることにする。

スキー部の設立は昭和32年頃、山中湖へスケートバスでスケートに行ったときに、スキー板で滑った人が最初のきっかけを作ったのではないかとされている。その後、年2～3回スキーバスを企画して蔵王、志賀、草津スキー場に行くようになり、その翌年の昭和33年頃に三國スキー部として活動するようになったのではないかとのことである。

協会設立当時、西村氏により三國スキー部として協会企画のスキーに参加活動を始め、クラブ合宿を盛んに行い、スキーバスは連休を使って夜行朝帰りで行っていたようだ。その頃のスキー内容はプルークボーゲンで始まりプルークボーゲンで1日が終わっていた。シュテム・クリスチャニアのできる人は数人で、パラレルを目指してがんばっている人や、スキーを楽しむだけの人もいたと聞いている。西村氏の後を受けた山本氏は、石打スキー場をベースに活動していたようだが、ミクニスキーイングは毎年新しいスキー場に行っていたと聞く。当時のスキーバス車内は飲むや歌うでスキー以上に盛り上がり、その頃からアフターに徹するスキーヤーはいたようである。

その後、スキーイング参加者が増え、社内と社外がほぼ同人数になるが、スキー技術を指導できる人が少なかったと聞いている。そこで、技術レベル向上のために、協会企画のスキーに部員を問わず参加して技術指導を受け、準指導員と級保持者が数名となった。私がミクニに入社してスキー部に入部したのは、映画「私をスキーに連れてって」が公開された翌年の昭和63年であった。この頃から一大スキーブームがおこり、誰もがこぞってスキーに行くようになった。会社では慰安会にスキーイングを企画する職場も多く見られスキーは冬のレジャーとしての地位を確立していた。恒例のミクニスキーイングはリピーターに加え初心者参加も多くなり、講習会ではスキー部員が中心となり初心者の指導をおこなった。また、アフタースキーはスキー部員によるビンゴ大会や抽選会、ゲームなどで盛り上がった。この頃からは存分にスキーを楽しみたいという参加者の要望から、会社の3連休を利用して2泊3日で行けるスタイルが定着化してきた。

ありとあらゆるスキー場に繰り出してきたミクニスキーイングだが、本州のスキー場だけでは飽き足らず、平成7年に北海道スキーツアーを企画した。札幌市内のホテルに宿泊し日中は素晴らしい雪質のゲレンデでスキー、アフターは札幌の街でビールやジンギスカンなど北海道の味覚を存分に味わうといった内容が好評で、参加人数は初回18名であったが翌年は31名と大幅に増えた。その後は札幌ステイにこだわらず北海道内各地のスキー場に足を運ぶようになり、ツアーで訪れたスキー場は手稲、キロロススキーワールド、札幌国際、ニセコ、富良野、カムイスキーリンクスなどに及ぶ。

競技スキーについては平成3年から小田原スキー選手権大会への参加をきっかけに5～6名の競技志向部員が神奈川県連主催の大会等にも参加するようになった。ポール練習のためにスキー部でポールを購入し大町、鹿島槍、万座スキー場などでポール練習をおこない、春になりスキー場に雪がなくなると富士山、乗鞍雪渓などの残雪を求めポールを張って練習した。また協会加盟のクラブ合宿にも参加させて頂くなど活動の場を広げ、スキー技術力は着実に向上してきたと思う。

今後も協会のご指導を受けながら楽しいスキーができるクラブとしていきたいと思っておりますので、協会傘下各クラブ皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 2.年間行事

●昭和40年度

●平成8年度

月日	行事内容・場所	月日	行事内容・場所
12/13	初すべりスキーイング(富士山)	12/2~3	初すべり合宿(志賀高原)
12/27	正月スキースクール(志賀高原)	1/21~23	神奈川県連大会(上越国際場)
1/14	志賀スキースクール(志賀高原)	1/28	合宿(大町スキー場)
1/23	小田原市民スキー大会(菅平)	2/4~5	小田原スキー選手権(野辺山)
1/31	籠坂スキーイング(籠坂)	3/1	合宿(拇池スキー場)
2/12	蔵王スキースクール(蔵王)	4/6~7	野辺山杯(野辺山)
2/21	籠坂スキーイング(籠坂)	9/14~15	秋合宿(山中湖)
2/28	籠坂スキーイング(籠坂)	9/21	オフトレ(ザウス)
3/初旬	小田原工場スキー講習会		
3/26	春山スキーイング		
5/1	春の合宿		
7/3	夏スキー納会(乗鞍岳)		





## 小田原スキークラブ

- ・設立 昭和43年(1968)4月
- ・会長 北村 常三郎
- ・理事長 甲斐 貞生
- ・事務担当者 杉崎 和男 小田原市久野886-12
- ・会員数 19名

1968年に設立され、今年で43年にもなり、小規模ながら会員一同、小田原スキークラブ(OSC)を盛り上げようと心を一つにしながらかスキーの普及と発展に微力ではありますが寄与してきました。

40年以上、毎シーズンのスキーツアーを計画・実行し、雪上講習会や級別テスト等を開催し好評を得てまいりました。

当クラブは年間行事のなかで、一回の行事は必ず大型バスを利用した日帰りツアーを開催しており、ほぼ満席の状況です。二回目以降の行事はマイカーを使っての行事で少人数ですが、まとまった行事として好評を博しております。

この様に、当クラブは年二回以上のツアーを実施しております。行事に際しては未就学児、小中学生、60歳以上のシニア層まで幅広い年代層が参加しており、年齢に応じたスキー指導に心がけております。また、参加人員の増大を念頭におきながらシーズンオフに於いても会員の親睦を図りつつクラブ発展存続をこころがけています。

### 今後の展望について

クラブの運営等については、如何にしてスキー行事計画が順調に実施されるかは小さなクラブだけに難しい面もありますが、会員とのコミュニケーションをとる機会を常に設け、今以上に充実した行事にしてゆきます。日常会話のなかでクラブ活動の実態や、雪上行事の楽しさを宣伝するが必要あると思います。行事参加者が「楽しかった、また次回も参加しよう」と思ってもらえるような魅力あるクラブにしてゆきます。

日帰りツアーについては、親子で気軽に参加できる環境作りを推進してゆきます。

金銭的な負担を最小限にするため、初期費用に掛かるものとして、ジュニア用のウェア・ブーツ・スキー板などをある程度確保し、無償貸出しするようにしています。

また、広い年代層のスキーヤーが、「生涯スポーツ」としてスキーをより楽しめるためのクラブを作ってゆくために、仕組・目的が絶対に必要と考えます。

これから先のクラブ運営上、若い人の力を台頭にクラブ発展に新風を入れ込んだ姿の実現を信じております。

現実に、事務担当はすでにしっかりした事務処理を行いつつ、縦横の連絡網は確立されております。前年度総会に於いて一部役員の変更がされ、より一層の組織強化がはかれたものと確信しております。

スキーの先達たちは若い人たちの活躍を応援し、若い人たちはその応援に応えるべく、生き生きとした活動を展開して行ってほしいと思います。

クラブのモットーである「和気あいあい」とした雰囲気の中で、常にスキー技術の向上を目指します。

スキーを通じて、より良い仲間づくりとより充実したスキーライフを楽しむ事ができるよう、クラブ活動のなかでお手伝いして行ければ幸いです。



2007年度小田原スキークラブスキーツアー 2007.2.18 小海リエックス

## 小田原スポーツマンクラブ

- ・設立 昭和56年8月
- ・会長 新井 政博
- ・理事長 原 浜三
- ・事務担当 原 浜三  
連絡先0463-71-0144
- ・会員数 11名

わがクラブは、小田原スキー協会が創立20周年を迎える年に設立し、今年で30年目を迎えます。設立に当たり、川瀬、石井、原の3名が新和薬局に集まり、クラブの目的について話し合いました。その結果、基礎の部ではSAJデモンストレーターを輩出、競技の部では国体出場を目的としました。

設立から15年位まではクラブ員数も多く(大人よりもジュニアの方が多かったが)、準指・正指へチャレンジしたり、小田原スキー選手権に多数エントリーするなど、独自のクラブ行事(バスツアーなど)はなかったが、それなりに充実した活動が行われていました。

やがて、様々な理由でスキーを続ける者は少なくなっていき、クラブ員は減少の一途をたどっていきました。そんな中、積極的にクラブの事務を取り仕切り、スキーに出かけ、クラブを代表するかのようには協会の活動にも精力的に参加していたのが、今は亡き飛鳥井ゆかりでした。彼女がいてくれたおかげで、クラブは空中分解を免れることができました。彼女はスキーを愛し、闘病生活の中でもスキーを忘れず、病が小康状態の時にはスキーに出かけるほどでした。

クラブ員が減少し、クラブとしてスキーに出かけることがなくなった中、若干の者が競技スキーを志向し、県連の大会などに出場していた。自身のみならず息子や娘、近所の子どもも大会に連れて行き出場させていました。もちろん小田原スキー選手権大会にも毎年参加していました。



そんな低迷しているクラブの中から、神奈川県、関東、全国と活躍の場を広げている選手が現れました。川本愛理、川本莉愛(まりあ)の姉妹です。父親はSAJ正指導員、母親は競技選手として活躍したそんな環境

の中で、姉妹は1歳の頃からスキーを履き、競技スキーのデビューは、幼稚園の頃の小田原スキー選手権大会でした。

本格的な競技選手としてのスタートは、姉の愛理が小5、妹の莉愛が小2からでした。すぐに、各種大会で上位、そして優勝の結果を収めていきました。小学校時代から神奈川県ではトップクラスであり、二人とも中学校時代は3年連続全国中学校スキー大会出場、姉の愛理は高校でも3年連続でインターハイ出場を果たしています。また妹の莉愛は、小6の時に全国小学生大会で7位。平成22年度の国体には、何と姉妹そろって出場するという快挙を遂げています。



SAJの学年別ランキングでも、雪無し県でありながら上位にランクされており、今年愛理は大学生、莉愛は高校生とそれぞれ進学し、さらに活躍の場を全国、世界と広げていくことが期待されています。この姉妹のように全国レベルで戦う選手が、当クラブから現れたことを誇らしく思っています。

(記 原 浜三)



## トライアルスキークラブ

- ・設立 昭和56年(1981)8月
- ・会長 千葉考輝
- ・理事長 菊地進
- ・事務担当 国島豊  
連絡先 Tel:0465 - 83 - 7937
- ・会員数 25名

私達のクラブは小田原スキー協会所属12番目の一番若いクラブです。(ここ30年新設クラブがないので)加入は協会がちょうど20周年の年でした。

当時クラブのメンバーは、市内にある自動機器メーカーにいるスキー愛好者と、その家族と友人が中心でした。

この会社では協会に所属する前から、毎冬スキーバスを出すなどスキーが盛んな環境がありました。その中の何人かが藤沢のバイスバウムSCに所属しており、そこの行事にも毎年参加して、級別テストを受けたりして腕を磨いておりました。

同クラブとの関係は、私(渡邊)の実兄が同クラブのメンバーだった繋がりでしたが、小田原の協会に所属してからも、しばらくは多くのクラブ員が大変お世話になりました。現在クラブの中心の国島みどり君も、初すべりは同クラブからでした。

さて小田原の協会に所属したきっかけですが、「自分たちの住む小田原でクラブを作りたい」という機運が、仲間から自然に湧いてきたからです。そこでバイスバウムSCの小林会長から松浦会長に紹介いただき、発足させていただいたという経緯があります。

お陰さまでその後、協会行事に参加しながら、クラブ独自の行事も毎年行い、現在にいたっております。



—30年前の五竜—



—最近の五竜—

メイン行事は「五竜ツアー」で当初はバスツアーでした。ここ最近では現地参加の行事になっておりますが、この行事はクラブ設立前から30年以上続いております。当時宿泊してた「ホリデーロッジ」の支配人だった中西滋氏が、その後県連の行事の誘致に努力され、現在県連の主要行事の場になったのも思い出となっております。

またその他の行事では上級者による強化合宿、有志による春休み家族ツアーなど開催し、スキーだけでなく地元の風土文化を勉強する行事も実施してきました。

そういえば設立10周年を迎えた平成3年(1991)には、無謀にもウイスキーに記念行事を組んでおります。ただこの行事、景気良く立ち上げたものの参加者9名。純粋にクラブ員は現クラブ会長の千葉考輝君と私含めの3名に終わりました。

この様な失敗の行事もありましたが、設立から15年間はクラブ員も一時は数十名にもなり、各行事にも積極的に参加する活気あるクラブでした。

残念ながら最近ではクラブ員も少子高齢化がすすみ、行事を維持するのも大変な状況です。

このままではクラブ消滅ということに成りかねないところですが、ここに登場するのが我々クラブの強みく(チェアスキー)との出会いです。現理事長の菊地進君の義弟の丸山靖君が、治療とリハビリで通った神奈川県総合リハビリテーション病院(通称:神奈リハ)で出会ったのが、当時開発していたチェアスキーだったのです。

神奈リハで開発の中心になっていたのが沖川悦三君で彼がメカニックを、丸山君がテスター兼選手として、チェアスキーを世界のトップレベルに仕上げていくこととなります。そのチェアスキーも当時は部材集めに苦慮しており、協会に要請して古いスキーをソフトボール大会の会場に持ってきていただいたこともありました。

忘れられないのは、丸山君が日本で初めて正式参加する昭和63年(1988)のパラリンピック冬季大会(インスブルック)の選手に、菊地君が役員として選ばれました。しかもこの大会の日本選手団々長に、当時SAJ副会長の松浦先生が一団を率いて参加しました。この大会が日本の障害者スキーが世界にはばたく記念すべき大会になったのです。

松浦先生にはこの大会だけでなく、多くの場面で彼ら障害者スキーの発展のために、本当にご尽力いただきました。

また20年前の当時はまだまだ健常者と障害者が同じ競技会で滑る機会ほとんどない時代でしたが、協会は小田原選手権で彼らにその場を提供してくれたことがあります。

現在もまだまだ健常者と障害者が共に滑る機会が多いとは言えませんが、この行事が一つのスタートになったと思っております。

平成10年(1998)の長野パラリンピックでは、クラブ有志で応援団を組んで、チェアスキー関係競技を応援。大会金メダル第1号の大日方邦子君に歓声を上げるなど、良い思い出となっています。

私たちクラブではここ10年、彼らと共に滑る機会が多いことから、丸山君はじめ何人かのチェアスキーヤーをクラブ員として迎え入れています。

その中で井上英年君は協会から推薦を受け、神奈川第1号のチェアスキーヤーの準指導員に。また今シーズンは正指導員を目指して頑張っております。

県のハンディキャップ委員会には、担当理事の国島みどり君を筆頭に、委員に沖川君、井上君、渡邊が参加しており、微力ながら日本のスキー界も欧米並みに、健常者と障害者が共存できる環境づくりに少しでも貢献できればと思っております。(渡邊智文)

小田原スキー協会  
創立50周年  
おめでとうございます。  
ございます。



アールベルグ  
スキークラブ  
会長 大館 昌之

小田原スキー協会 創立50周年  
おめでとうございます。

多くのスキーヤーの皆さんの語らいの場  
“くし焼 のむら”へ是非お立ち寄りください!!

**くし焼 のむら**

小田原市鴨宮340-1 TEL:0465-49-3009

**『旅・コンシェルジュ』は多くの方々にご満足いただいております。**

海外格安航空券や海外ホテルの予約、手配の専門店。

世界一周旅行、海外出張、ひとり旅、ハネムーン、ご夫婦旅行、  
海外留学などの個人旅行や自由旅行から、社員旅行、インセンティブ旅行  
などグループ旅行までオーダーメイドな海外旅行ならお任せください。

次の海外旅行は、お任せしてみたいはいかが？

自分だけの旅をコーディネートしてくれる「スカイ・プルミエクラブ」は、  
現在会員募集中！

『旅・コンシェルジュ』

**株式会社アット・ザ・スカイ**

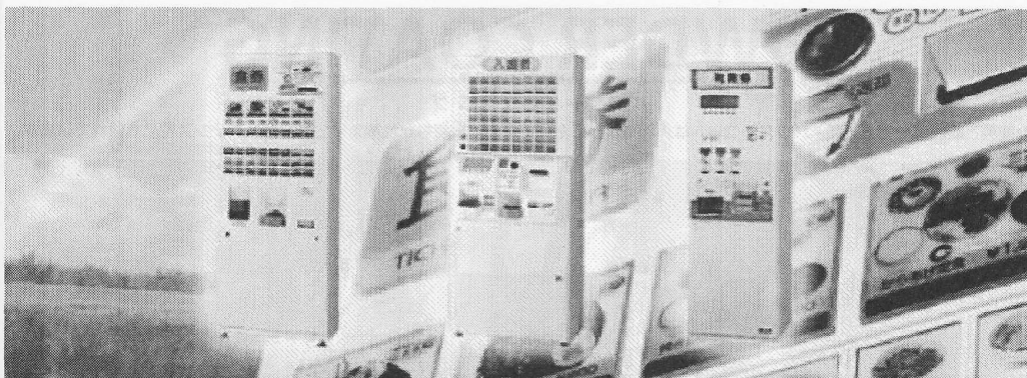
〒102-0062

東京都港区南青山 7-13-28 caprice#200

TEL: 03-5468-5722

メールアドレス: concierge@the-sky.jp

「URL」 <http://www.the-sky.jp>



**株式会社 オーテーケー**

**自動券売機・レジスター・入場ゲート**

弊社は自動券売機とレジスターの連動開発や、ゲートシステム、  
LED照明製作、業務用コンピュータシステムの設計・開発などにより、  
広く皆様の省力化へのニーズにお応えしたいと考えております。

〒114-0014 東京都北区田端1-14-7

TEL: 03-5685-1889 FAX: 03-5685-6439

URL: <http://otk-net.com/> E-mail: [815@otk-net.com](mailto:815@otk-net.com)

エリアスキー同好会 副会長 千村晴男



神奈川県エクステリア協会会員

エクステリア工事と  
お庭作りのトータルプランナー

有限会社 大西外構

平塚市岡崎3223-3

TEL: 0463-59-1906

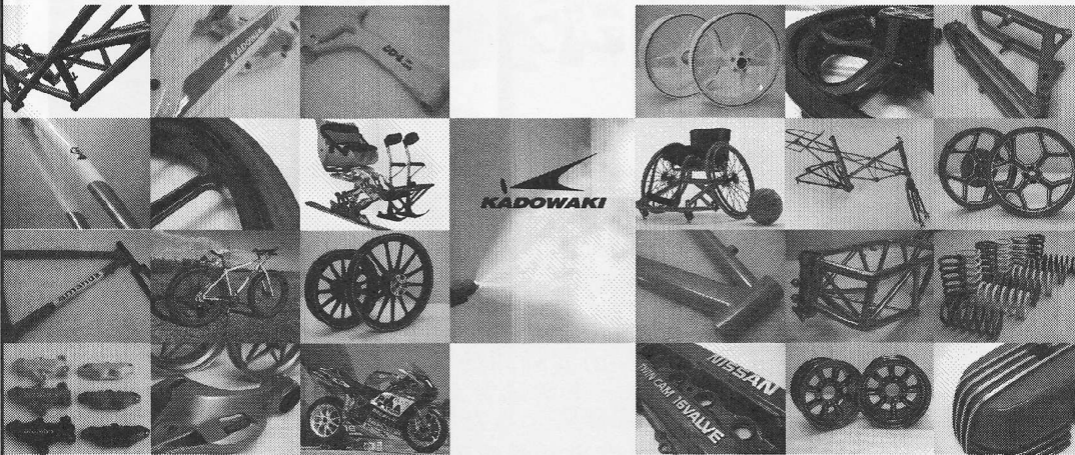
FAX: 0463-59-1071

エリアスキー同好会 副会長 大西辰雄

## POWDER COATING

パウダーコーティング

丈夫な塗膜と高級感のある質感。パウダーコートは外観の美しさだけでなく、機能もかね揃えており、メンテナンス性にも優れています。



**THIS IS : KADOWAKI COATING.**

[www.kadowakicoating.com](http://www.kadowakicoating.com)

有限会社カドワキコーティング 〒230-0071 横浜市鶴見区駒岡5-15-5 tel:045-572-0372 fax:045-572-1055 e-mail: powder@kadowakicoating.com



神奈川県南足柄市中沼490番地

TEL: 0465-74-0601

担当: 川本浩之

URL <http://www.kawamoto-motors.co.jp/>

  
Furusya

**古屋花店**

小田原市栄町1-14-16

TEL.(0465)22-3043(代)

FAX.(0465)22-3041

## 歴代役員

小田原スキー協会歴代会長・副会長・理事長・副理事長

年度	会長	副会長理事長			理事長	副理事長
S36	難波 博夫	鳥海 達男			松浦益司郎	那須昭三
37	難波 博夫	鳥海 達男			松浦益司郎	
38	難波 博夫	鳥海 達男	松浦益司郎		那須 昭三	
39	難波 博夫	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登	佐藤 勝一	
40	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登		鈴木 忠昭	
41	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登		鈴木 忠昭	
42	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登	那須 昭三	鈴木 忠昭	
43	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登	那須 昭三	鈴木 忠昭	
44	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登	那須 昭三	鈴木 忠昭	
45	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登	那須 昭三	鈴木 忠昭	
46	松浦益司郎	植村 恭作	楓山 一登	那須 昭三	鈴木 忠昭	
47	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	鈴木 忠昭	田原 隆
48	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	鈴木 忠昭	田原 隆
49	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	鈴木 忠昭	田原 隆
50	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	鈴木 忠昭	田原 隆
51	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	田原 隆	
52	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	田原 隆	
53	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	
54	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	
55	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	
56	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	
57	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	
58	松浦益司郎	楓山 一登	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	
59	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明		小室 静雄	
60	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明		小室 静雄	
61	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	鍵和田 進	
62	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	鍵和田 進	
63	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	
H1	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	
2	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	
3	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	
4	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	松浦 哲也
5	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	松浦 哲也
6	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	松浦 哲也
7	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	松浦 哲也
8	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	松浦 哲也
9	松浦益司郎	鈴木 忠昭	五十嵐正明	小室 静雄	木村 徳善	松浦 哲也
10	松浦益司郎	鈴木 忠昭	小室 静雄		木村 徳善	松浦 哲也
11	松浦益司郎	鈴木 忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	木村 徳善	松浦 哲也
平成12年度は県連等に年度を合せたので平成13年度とした。						
13	鈴木 忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦		松浦 哲也	市川 房雄
14	鈴木 忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦		松浦 哲也	市川 房雄

年度	会長	副会長理事長		理事長	副理事長
15	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	松浦 哲也	市川 房雄
16	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	松浦 哲也	市川 房雄
17	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	松浦 哲也	市川 房雄
18	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	松浦 哲也	市川 房雄
19	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	市川 房雄	
20	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	市川 房雄	
21	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	市川 房雄	
22	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	市川 房雄	
23	鈴木忠昭	小室 静雄	柴田 伸彦	市川 房雄	

### 上部団体関係役員 (財)全日本スキー連盟関係役員

年度	役名	氏名
昭和43年～昭和46年	理事	松浦益司郎
昭和46年～昭和48年	評議員	松浦益司郎
昭和49年～昭和56年	理事	松浦益司郎
昭和57年～平成元年	副会長	松浦益司郎
平成2年～平成13年	顧問	松浦益司郎
昭和45年～昭和46年	評議員	鈴木 忠昭
昭和46年～昭和50年	理事	鈴木 忠昭
平成2年～平成7年	評議員	鈴木 忠昭
昭和63年～平成元年	評議員	柴田 伸彦
平成8年～平成9年	評議員	柴田 伸彦

### (財)神奈川県スキー連盟関係役員

年度	(役職)氏名			
昭和38	(理事) 松浦益司郎	(理事) 鈴木忠昭	(理事) 佐藤勝一	
39	(理事) 松浦益司郎	(理事) 鈴木忠昭	(理事) 佐藤勝一	
40	(理事) 松浦益司郎	(理事) 鈴木忠昭	(理事) 佐藤勝一	
41	(副会長) 松浦益司郎	(基礎部長) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭	
42	(副会長) 松浦益司郎	(基礎部長) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭	
43	(副会長) 松浦益司郎	(基礎部長) 楓山一登		
44	(副会長) 松浦益司郎	(基礎部長) 楓山一登		
45	(副会長) 松浦益司郎	(副理事長) 楓山一登		
46	(副会長) 松浦益司郎	(副理事長) 楓山一登		

年度	(役職)氏名				
昭和47	(副会長) 松浦益司郎	(副理事長) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭		
48	(副会長) 松浦益司郎	(副理事長) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭		
49	(副会長) 松浦益司郎	(理事長) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭	(理事) 柴田伸彦	
50	(副会長) 松浦益司郎	(理事長) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭	(理事) 柴田伸彦	
51	(副会長) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(総務部長) 鈴木忠昭	(理事) 柴田伸彦	(監事) 五十嵐正明
52	(副会長) 松浦恭司郎	(参与) 楓山一登	(理事) 柴田伸彦	(監事) 五十嵐正明	
昭和53	(副会長) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(理事) 柴田伸彦		
54	(副会長) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(理事) 柴田伸彦		
55	(副会長) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(理事) 柴田伸彦		
56	副会長 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(理事) 柴田伸彦		
57	[顧問] 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(普及部長) 柴田伸彦		
58	(顧問) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(普及部長) 柴田伸彦		
59	(顧問・特別役員) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(普及部長) 柴田伸彦	(監事) 野地澄雄	
60	(顧問・特別役員) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(普及部長) 柴田伸彦	(監事) 野地澄雄	
61	(顧問・特別役員) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(副理事長) 柴田伸彦	(監事) 野地澄雄	
62	(顧問・特別役員) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(副理事長) 柴田伸彦	(監事) 野地澄雄	
63	(顧問・特別役員) 松浦益司郎	楓山一登 (参与)	柴田伸彦 (理事長)	野地澄雄 (理事)	(監事) 野地澄雄
平成1	(顧問・特別役員) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 渡辺智文	(監事) 野地澄雄
2	(顧問) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(副会長) 鈴木忠昭	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 渡辺智文
3	(顧問) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	副会長 鈴木忠昭	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 渡辺智文
4	(顧問) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(副会長) 鈴木忠昭	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 宮下潤一
5	(顧問) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(副会長) 鈴木忠昭	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 宮下潤一
6	(顧問) 松浦益司郎	(参与) 楓山一登	(副会長) 鈴木忠昭	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 宮下潤一
7	(顧問) 松浦恭司郎	(参与) 楓山一登	(副会長) 鈴木忠昭	(理事長) 柴田伸彦	(理事) 宮下潤一
8	(顧問) 松浦益司郎	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(専務理事) 柴田伸彦	

年度	(役職)氏名				
9	(顧問) 松浦益司郎	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(専務理事) 柴田伸彦	
10	(顧問) 松浦益司郎	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(参与) 柴田伸彦	
11	(顧問) 松浦益司郎	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(参与) 柴田伸彦	
平成 12 年度は県連等に年度を合わせたので平成 13 年度とした。					
13	(顧問) 松浦益司郎	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(参与) 柴田伸彦	(理事) 野地澄雄
14	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(参与) 柴田伸彦	(理事) 野地澄雄	(理事) 木村徳善
15	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(理事) 木村徳善	(理事) 長久保厳
16	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(理事) 木村徳善	(理事) 長久保厳
17	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(理事) 木村徳善	(理事) 長久保厳
18	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(理事) 木村徳善	(理事) 長久保厳
19	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(教育本部長) 木村徳善	(理事) 国島みどり
20	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(教育本部長) 木村徳善	(理事) 国島みどり
21	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(教育本部長) 木村徳善	(理事) 国島みどり
22	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(副会長) 野地澄雄	(教育本部長) 木村徳善	(理事) 国島みどり
23	(顧問) 楓山一登	(顧問) 鈴木忠昭	(顧問) 野地澄雄	(教育本部長) 木村徳善	(理事) 国島みどり

## 歴代役員

年度	役職	氏名
昭和36年	会 長 副 会 長 理 事 長 副理事長 常任理事 会 計	難波博夫 烏海達男 松浦益司郎 那須昭三 佐藤勝一・佐宗哲・西村和夫・鈴木忠昭・藤間寛 前田清之・高橋晃・千村晴男・平野孝・大木尚眞 関野敬蔵・岩本兆行
昭和37年	会 長 副 会 長 理 事 長 常任理事 会 計	難波博夫 烏海達男 松浦益司郎 佐藤勝一・佐宗哲・西村和夫・鈴木忠昭・藤間寛 前田清之・高橋晃・千村晴男・平野孝・大木尚眞 関野敬蔵・岩本兆行

年度	役職	氏名
昭和38年	会 長 副 会 長 理 事 長 常任理事  会 計	難波博夫 鳥海達男・松浦益司郎 那須昭三 佐藤勝一・佐宗哲・西村和夫・鈴木忠昭・藤間寛 前田清之・高橋晃・千村晴男・平野孝・大木尚眞 関野敬蔵・岩本兆行
昭和39年	会 長 副 会 長 理 事 長 常任理事 会 計	難波博夫 松浦益司郎・植村恭作・楓山一登 佐藤勝一 佐宗哲・五十嵐正明・鈴木忠昭・遠藤功・小笠原洋司 西村和夫・吉田賢祐
昭和40年 .,, 昭和41年	名誉会長 会 長 副 会 長 理 事 長 常任理事	難波博夫 松浦益司郎 植村恭作・楓山一登 鈴木忠昭 山崎圭司・五十嵐正明・西村和夫・吉田賢祐・遠藤功 小笠原洋司・那須昭三・神原利男・押田
昭和42年 ～ 昭和44年	名誉会長 会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部 会 計 監 事	難波博夫 松浦益司郎 植村恭作・楓山一登・那須昭三 鈴木忠昭 山崎圭司 橋本栄二 千村晴男 今村義郎 五十嵐正明 佐藤英夫 山元賢之輔 吉田賢祐・菊地務
昭和45年 ～ 昭和46年	名誉会長 会 長 副 会 長 理 事 長 副理事長 総務部長 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部 監 事	難波博夫 松浦益司郎 植村恭作・楓山一登・那須昭三 鈴木忠昭 田原隆 山崎圭司 橋本栄二・澤登巖・菊地務 田原隆 今村義郎・菊地務・青木捷夫 五十嵐正明 佐藤英夫・渡辺謙 吉田賢祐・大館昌之
昭和47年 ～ 昭和48年	名誉会長 顧 問 参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 副理事長 総務部長 総 務 部	難波博夫 小金義照 植村恭作・那須昭三 松浦益司郎 楓山一登・鈴木忠昭・五十嵐正明 鈴木忠昭 田原隆 大館昌之 星野誠治・志村良昭・野地澄雄



年度	役職	氏名
昭和47年 ～ 昭和48年	基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 会計 監事	田原隆 柴田伸彦・古屋益夫・青木捷夫・大西辰雄 佐藤英夫 小室静雄・渡辺保夫 野地澄雄 山崎圭司・橋本栄二
昭和49年 ～ 昭和50年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 会計 監事	難波博夫 小金義照 植村恭作・那須昭三 松浦益司郎 楓山一登・鈴木忠昭・五十嵐正明 鈴木忠昭 田原隆 大館昌之 星野誠治・高橋武・野地澄雄 柴田伸彦 大西辰雄・菊地務・石橋誠市・鍵和田進 佐藤英夫 小室静雄・渡辺保夫・飯塚幸一 野地澄雄 山崎圭司・千村晴男
昭和51年 ～ 昭和52年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事	難波博夫 植村恭作・那須昭三 松浦益司郎 楓山一登・鈴木忠昭・五十嵐正明 田原隆 大館昌之 星野誠治・小林政春・田中成幸 柴田伸彦 大西辰雄・高橋武・石橋誠市・松本良男 小室静雄 鍵和田進・木村徳善・飯塚幸一 山崎圭司・千村晴男
昭和53年 ～ 昭和54年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 総務部長 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事	難波博夫 植村恭作・那須昭三 松浦益司郎 楓山一登・鈴木忠昭・五十嵐正明 小室静雄 石川実・小林政春・高原照夫 橋本栄二 浅井清孝・古屋洋一・三宅誠・松本良男 飯塚幸一 猪子政利・木村徳善・渡辺正彦 山崎圭司・千村晴男
昭和55年 ～ 昭和56年	名誉会長 顧問 参与	難波博夫 植村恭作・那須昭三

年度	役職	氏名
昭和55年 ～ 昭和56年	会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部 監 事 事 務 員	松浦益司郎 楓山一登・鈴木忠昭・五十嵐正明 小室静雄 高原照夫 石川実・小林政春・小澤潔 松本良男 古屋洋一・三宅誠 飯塚幸一 猪子政利・渡辺正彦 山崎圭司・千村晴男 小室悦子
昭和57年 ～ 昭和58年	名誉会長 顧 問 参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部 監 事 事 務 員	難波博夫 植村恭作・那須昭三 松浦益司郎 楓山一登・鈴木忠昭・五十嵐正明 小室静雄 高原照夫 渡辺智文・山田勇・北野秋男 松本良男 古屋洋一・甲斐貞生・酒井慶次郎S58後期三宅誠 飯塚幸一 猪子政利・高澤一二・原浜三 千村晴男・石川実 小室悦子
昭和59年 ～ 昭和60年	名誉会長 顧 問 参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部 監 事 事 務 員	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明 小室静雄 渡辺智文 青木正行・山田勇・北野秋男・松本茂 古屋洋一 甲斐貞生・三浦芳雄・横溝義昭 木村徳善 高澤一二・原浜三・大橋健二 千村晴男・石川実 小室悦子
昭和61年 ～ 昭和62年	名誉会長 顧 問 参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明・小室静雄 鍵和田進 渡辺智文 青木正行・大谷隆・川瀬恒久 古屋洋一 甲斐貞生・三浦芳雄・市川弘 木村徳善 原浜三・大橋健二

年度	役職	氏名
	監事 事務員	野地澄雄・飯塚幸一 鍵和田栄子
昭和63年 ～ 平成元年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事 事務員	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明・小室静雄 木村徳善 松浦哲也 川瀬恒久・武藤茂・入山圭司 市川房雄 三浦芳雄・市川弘・佐々木敏晴 本間昭治 大橋健二・渡辺照男・原浜三 野地澄雄・飯塚幸一 飛鳥井ゆかり
平成2年 ～ 平成3年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事 事務員	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明・小室静雄 木村徳善 松浦哲也 川瀬恒久・武藤茂・入山圭司 市川房雄 三浦芳雄・市川弘・榊原一男 本間昭治 大橋健二・臼田由紀久・高杉隆幸 木村政美・飯塚幸一 飛鳥井ゆかり
平成4年 ～ 平成5年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事 事務員	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明・小室静雄 木村徳善 松浦哲也 川瀬恒久 入山圭司・武藤茂・平井史 市川房雄 市川弘・榊原一男・中根進・内藤悟 本間昭治 高杉隆幸・臼田由紀久・佐々木富士夫 木村政美・渡辺智文 飛鳥井ゆかり
平成6年 ～ 平成7年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明・小室静雄

年度	役職	氏名
平成6年 ～ 平成7年	理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事 事務員	木村徳善 松浦哲也 川瀬恒久 小山高宏・長久保巖・小曾根隆司 市川弘(平成6年に本人ご逝去により榊原一男が代行) 榊原一男・中根進・長崎正幸 高杉隆幸 石井富士夫・鈴木雅樹・香月洋一 木村政美・渡辺智文 飛鳥井ゆかり
平成8年 ～ 平成9年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 監事 事務員	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登 松浦益司郎 鈴木忠昭・五十嵐正明・小室静雄 木村徳善 松浦哲也 川瀬恒久 小曾根隆司・寺川健吾・横山光政 長崎正幸 榊原一男・中根進・鷺漸口彦・稲葉茂代 高杉隆幸 鈴木雅樹・香月洋一・長久保巖 五味正彦(平成9年度より) 青木捷夫・大西辰雄 飛鳥井ゆかり
平成10年 ～ 平成11年	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長 理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 市体協担当 監事 事務員	難波博夫 植村恭作・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明 松浦益司郎 鈴木忠昭・小室静雄 木村徳善 松浦哲也 川瀬恒久 寺川健吾・沖山和範・杉崎和男 長崎正幸 中根進・鷺津和彦・稲葉茂代 鈴木雅樹 長久保巖・五味正彦・庄野雄二 榊原一男 青木捷夫・大西辰雄 飛鳥井ゆかり
※「平成12年度は県連等に年度を合わせたので平成13年度とした。」		
平成13年楽	名誉会長 顧問 参与 会長 副会長	松浦益司郎 鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明 田原隆・鍵和田進 鈴木忠昭 小室静雄・柴田伸彦

年度	役職	氏名
平成13年※	運営諮問委員長 理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部  市体協担当 監事 事務員	木村徳善 松浦哲也 市川房雄 川瀬恒久 沖山和範・小曾根隆司・久保田秀幸 鈴木雅樹 鷺津和彦・稲葉茂代・庄野雄二・岩田国雄 原浜三 長久保巖・五味正彦 松本和徳・門倉昌巳(平成14年度より) 榑原一男 青木捷夫・大西辰雄 飛鳥井ゆかり
平成14年	顧問 参与 会長 副会長 運営諮問委員長 理事長 副理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 市体協担当 監事  事務員 指導員会会長 移動員会事務局	鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明 田原隆・鍵和田進 鈴木忠昭 小室静雄・柴田伸彦 木村徳善 松浦哲也 市川房雄 川瀬恒久 沖山和範・小曾根隆司・久保田秀幸 鈴木雅樹 鷺津和彦・稲葉茂代・庄野雄二・岩田国雄 原浜三 長久保巖・松本和徳・門倉昌巳 榑原一男 青木捷夫・大西辰雄 門脇均・渡辺正彦・木村徳善・鷺津和彦 飛鳥井ゆかり 松浦哲也 入山圭司
平成15年 ～ 平成16年	顧問 参与 会長 副会長 理事長 副理事長 総務部長 総務副部長 総務部 基礎部長 基礎副部長 基礎部 競技部長 競技副部長 競技部 SAK副会長 SAK理事 市体協	鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明 田原隆・鍵和田進 鈴木忠昭 小室静雄・柴田伸彦 松浦哲也 市川房雄 小曾根隆司 沖山和範 久保田秀幸・竹内雅二 鈴木雅樹 長久保巖 庄野雄二・岩田国雄・国島みどり 原浜三 松本和徳 門倉昌巳・岩田尚敏 野地澄雄 木村徳善・長久保巖 榑原一男

年度	役職	氏名
平成15年 ～ 平成16年	監 事 指導員会会長 指導員会事務局	青木捷夫・佐藤英夫 松浦哲也 入山圭司
平成17年 ～ 平成18年	顧 問 参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 副理事長 総務部長 総務副部長 総 務 部 総務会計担当 基礎部長 基礎副部長 基 礎 部 競技部長 競技副部長 競 技 部 SAK副会長 SAK 理事 市 体 協 監 事 指導員会会長 指導員会事務局 顧 問	鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明 田原隆・鍵和田進 鈴木忠昭 小室静雄・柴田伸彦 松浦哲也 市川房雄 久保田秀幸 沖山和範 竹内雅二 小曾根隆司 鈴木雅樹 国島みどり 長久保巖・内藤浩志・和田貢 岩田国雄 栗野清道 斉藤学・川本恵美 野地澄雄 木村徳善・長久保巖 榑原一男 佐藤英夫・菊地務 小室静雄 飛鳥井ゆかり (H17) 鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明・柴田伸彦
平成19年 ～ 平成20年	参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総務会計担当 総 務 部 基礎部長 基 礎 部 競技部長 競 技 部 SAK副会長 SAK常務理事 教育本部長 SAK総務本部 理事 市 体 協 監 事 指導員会会長 指導員会事務局	田原隆・鍵和田進 鈴木忠昭 小室静雄・松浦哲也 市川房雄 竹内雅二 小曾根隆司 川越肇・檜上竜也・土屋洋之 久保田秀幸 内藤浩志・和田貢・国島みどり 岩田国雄 斉藤学・川本恵美・鶴沢文彦 野地澄雄 木村徳善 国島みどり 榑原一男 佐藤英夫・菊地務 小室静雄 渡辺正彦
平成21年 ～ 平成22年	顧 問 参 与 会 長 副 会 長 理 事 長 総務部長 総 務 部	鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明・柴田伸彦 田原隆・鍵和田進 鈴木忠昭 小室静雄・松浦哲也 市川房雄 市川房雄 竹内雅二・小曾根隆司・檜上竜也・武芳和・石綿孝一

年度	氏名	
平成21年 ～ 平成22年	基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 SAK副会長 SAK常務理事 教育本部長 SAK総務本部 理事 市体協 監 事 指導員会会長 指導員会事務局	久保田秀幸 内藤浩志・国島みどり 岩田国雄 斉藤学・鵜沢文彦 野地澄雄 木村徳善 国島みどり 榊原一男 佐藤英夫・菊地務 小室静雄 渡辺正彦
平成23年	顧 問 参 与 会 長 副会長 理事長 総務部長 総務部 基礎部長 基礎部 競技部長 競技部 SAK常務理事 教育本部長 SAK総務本部 理事 市体協 監 事 指導員会会長 指導員会事務局	鳥海達雄・那須昭三・楓山一登・五十嵐正明・柴田伸彦 田原隆・鍵和田進・野地澄雄 鈴木忠昭 小室静雄・松浦哲也 市川房雄 市川房雄 竹内雅二・小曾根隆司・檜上竜也・武芳和・鈴木順 久保田秀幸 内藤浩志・国島みどり 岩田国雄 鵜沢文彦・斉藤浩樹 木村徳善 国島みどり 榊原一男 佐藤英夫・菊地務 小室静雄 渡辺正彦

## この10年間の大会記録



神奈川県・千葉県スキー技術選手権大会

年度	男子	女子
H14年度	菊川広之(雪友)61位片山昌浩(同好)125位 長久保巖(雪友)126位志村武彦(雪友)131位 小山哲男(雪友)136位古屋元(雪友)150位 予選出場 田村浩幸(雪友)小山高宏(雪友)	木村実代(アール)12位 斉藤広恵(アール)22位
H15年度	荒井大樹(エリア)49位菊川広之(雪友)84位 片山昌浩(同好)134位 予選出場 小山哲男(雪友)志村武彦(雪友) 竹内雅二(OSC)矢後忠男(アール) 田村浩幸(雪友)庄野雄二(トライアル)	木村実代(アール)12位 全日本出場109位 斉藤広恵(アール)22位
H16年度	荒井大樹(エリア)45位菊川広之(雪友)111位 予選出場 志村武彦(雪友)小山哲男(雪友) 竹内雅二(OSC)矢後忠男(アール) 池谷公治(雪友)田村浩幸(雪友)	木村実代(アール)22位 予選出場 木村泰子(エリア) 和泉淳子(アール)
H17年度	菊川広之(雪友)74位志村武彦(雪友)106位 小山哲男(雪友)142位 予選出場竹内雅二(OSC) 小山高宏(雪友)田村浩幸(雪友) 片山昌浩(同好)矢後忠男(アール)	
H18年度	志村武彦(雪友)86位菊川広之(雪友)88位 小山哲男(雪友)88位	木村実代(アール)17位
H19年度	竹内雅二(OSC)男子2部5位 予選出場志村武彦(雪友)	桐村麻美(雪友)61位
H20年度	予選出場竹内雅二(OSC) 志村武彦(雪友)挽地智志(エリア)	
H21年度	予選出場竹内雅二(OSC)	古山薫子(雪友)37位
H22年度	菊川広之(雪友)67位	
H23年度	菊川広之(雪友)55位 予選出場竹内雅二(OSC) 仲亀雅己(アール)	斉藤広恵(アール)24位 古山薫子(雪友)26位

## 小田原スキー選手権大会

回数		第34回	第35回	第36回	第37回	第38回
開催年月		平成14年 2月13日	平成15年 2月2日	平成16年 2月1日	平成17年 2月6日	平成18年 2月5日
会場		野辺山	野辺山	野辺山	野辺山	野辺山
団体優勝		アールベルグ	アールベルグ	アールベルグ	日立	アールベルグ
ジュニアA		剣持協	大島浩	都築誠	川本莉愛	野村忠信
ジュニアB		深澤佳那	島田忍	島田忍	島田忍	川村幸之助
女子A		—	—	—	—	西浜こよみ
女子	選手権(H15～)	飛鳥井ゆかり	木村実代	斎藤広恵	梅村祥子	木村実代
男子	選手権の部	—	坂本弘	坂本弘	坂本弘	坂本弘
	6部	栗野清道	鈴木孝雄	—	—	—
	5部	市川房雄	鈴木雅樹	—	—	—
	4部	本間昭治	高木喜代次	大八木貞吉	大八木貞吉	大八木貞吉
	3部	深澤由英	鶴澤文彦	鈴木孝雄	石岡義秋	鈴木雅樹
	2部	坂本弘	小山高宏	竹内雅二	高木喜代次	武芳和
	1部	横田昌彦	橋本裕輝	小山哲男	岩田尚敏	小山哲夫
最優秀選手		市川房雄	坂本弘	坂本弘	坂本弘	坂本弘

回数		第39回	第40回	第41回	第42回	第43回
開催年月		平成19年 2月4日	平成20年 2月3日	平成21年 2月8日	平成22年 2月14日	平成23年 2月13日
会場		野辺山	野辺山	いいつな	いいつな	いいつな
団体優勝		アールベルグ	アールベルグ	日立	日立	アールベルグ
ジュニアA		竹内大高	野村忠信	佐藤裕樹	—	—
ジュニアB		川本莉愛	田中里美 川村幸之助	川本莉愛 佐藤晃	野村忠信	松井隆祥
女子選手権の部		木村実代	木村実代	香月智美	木村実代	野村小百合
男子	選手権の部	高澤一二	坂本弘	本間昭治	坂本弘	坂本弘
	4部	大八木貞吉	鈴木孝雄	小室静雄	大八木貞吉	大八木貞吉
	3部	鈴木雅樹	鈴木雅樹	門倉雅巳	鈴木雅樹	門倉正巳
	2部	小山高宏	鶴澤文彦	鶴澤文彦	武芳和	鶴澤文彦
	1部	遠藤徹	檜上竜也	檜上竜也	檜上竜也	金内優祐
最優秀選手		高澤一・二	坂本弘	本間昭治	坂本弘	坂本弘

## 国民体育大会冬季大会スキー競技出場記録

川本愛理(スポーツマン)	:平成18年(第61回)出場。
斎藤広恵(アールベルグ)	:平成18年(第61回)出場。
川本愛理(スポーツマン・中体連)	:平成19年(第62回)出場。
木村実代(アールベルグ)	:平成19年(第62回)出場。
川本莉愛(スポーツマン・中体連)	:平成23年(第66回)出場。
川本愛理(スポーツマン・高体連)	:平成23年(第66回)出場。

# 神奈川県総合体育大会

開催回数		第53回	第54回	第55回	開催回数		第56回
開催年月日		平成14年3月1日 ～3月3日	平成15年2月28日 ～3月2日	平成16年2月28日 ～29日	開催年月日		平成17年2月26日 ～27日
会場		マウンテンパーク 津南スキー場	マウンテンパーク 津南スキー場	白馬五竜 とおみスキー場	会場		白馬五竜 とおみスキー場
総合成績		14位	11位	9位	総合成績		8位
女子 成年 A	回転			安田晃子DQ	女子 青年 A	回転	梅村祥子5位
	大回転			安田晃子DF		大回転	梅村祥子6位
女子 一般 成年	回転	安田晃子13位 青木幸子DS	梅村祥子13位 —		女子 青年 B	回転	
	大回転	安田晃子14位 青木幸子DS	梅村祥子8位 安田晃子14位			大回転	
成年 A	回転	佐々木和人7位 坂本弘20位	佐々木和人6位 坂本弘33位	坂本弘6位	成年 A	回転	土屋洋之9位
	大回転	坂本弘14位 小保内龍之介25位	坂本弘8位 佐々木和人20位	坂本弘DF		大回転	土屋洋之DF
ア ル ペ ン 成 年	回転	斉藤学7位 鎌谷彰人11位	斉藤学5位 鎌谷彰人10位	斉藤学6位 佐々木和人DS	ア ル ペ ン 成 年 B	回転	坂本弘4位
	大回転	斉藤学6位 鎌谷彰人16位	鎌谷彰人12位 斉藤学15位	斉藤学14位 佐々木和人DF		大回転	坂本弘5位
成 年 B	回転	本間昭治7位	本間昭治3位	本間昭治2位	成 年 C	回転	本間昭治DF 斉藤学DS
	大回転	本間昭治7位	本間昭治9位	本間昭治5位		大回転	本間昭治12位 斉藤学DS
成 年 C	回転	石岡義秋DF		木村徳善6位	成 年 D	回転	木村徳善4位
	大回転	石岡義秋12位		木村徳善DF		大回転	木村徳善4位

開催回数	第57回	第58回	第59回	第60回	第61回		
開催年月日	平成18年2月26日 ～27日	平成19年2月24日 ～25日	平成20年3月1日 ～2日	平成21年2月28日 ～3月1日	平成22年3月6日 ～7日		
会場	白馬五竜 とおみスキー場	白馬五竜 とおみスキー場	白馬五竜 とおみスキー場	白馬五竜 とおみスキー場	白馬五竜 とおみスキー場		
総合成績	7位	11位	7位	7位	11位		
ア ル ペ ン	女 子 成 年 A	回転					
		大回転					
	女 子 成 年 B	回転		鈴木芽久美2位		鈴木芽久美DF	
		大回転		鈴木芽久美3位		鈴木芽久美DF	
	成 年 A	回転					
		大回転					
	成 年 B	回転	二村恵朗9位 坂本弘DF	坂本弘2位 二村恵朗DQ	二村恵朗15位 松田伸生20位	檜上竜也16位 二村恵朗20位	
		大回転	坂本弘3位 二村恵朗DF	坂本弘4位 二村恵朗DF	松田伸生19位	二村恵朗7位 檜上竜也22位	
	成 年 C	回転	本間昭治1位 斉藤学4位	斉藤学21位 一	坂本弘1位 斉藤学11位	坂本弘1位 斉藤学7位	坂本弘2位 斉藤学7位
		大回転	本間昭治5位 斉藤学6位	斉藤学7位	斉藤学6位 二村恵朗14位	斉藤学1位 坂本弘2位	斉藤学1位 坂本弘5位
	成 年 D	回転	木村徳善6位	本間昭治1位	本間昭治4位	本間昭治3位	本間昭治6位
		大回転	木村徳善3位	本間昭治5位	本間昭治8位	本間昭治3位	本間昭治5位

※平成23年は神奈川県総合体育大会廃止となり、市町村対抗として実施。参加せず。

## 神奈川県各種大会

年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	順位	
14	ジュニア選手権	井上倫子	アールベルグ	女子中学生	3位	
		剣持協	雪友	男子中学生	6位	
	マスターズ選手権	市川房雄	アールベルグ	45～49歳	6位	
		高澤一二	アールベルグ	50～54歳	1位	
	県選手権	市川敏行	アールベルグ	成年男子A	6位	
高澤一一二		アールベルグ	成年男子C	5位		
15	チャレンジカップ 第1戦	高澤一二	アールベルグ	男子成年C	第1日GS2位 第2日SL2位	
		市川房雄	アールベルグ	男子成年C	第2日SL5位	
	マスターズ選手権	高澤一二	アールベルグ	50～54歳	1位	
		栗野清道	日立	50～54歳	2位	
	県選手権	大島浩	スポーツマン	男子中学生	GS5位	
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年A	SL1位	
		市川敏行	アールベルグ	男子成年A	SL5位	
		高澤一二	アールベルグ	男子成年C	SL6位	
	チャレンジカップ 第3戦	丸山靖	トライアル	男子ハンデイキャツプ	第1日SL1位 第2日SL1位	
		梅村祥子	日立	女子成年A	第1日SL2位 第2日SL4位	
		高澤一二	アールベルグ	男子成年C	第1日SL2位	
	16	チャレンジカップ 第1戦	川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン1	GS1位
			川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	GS6位
島田忍			アールベルグ	男子チルドレン2	GS5位	
高澤一二			アールベルグ	男子成年C	GS3位	
唐澤公岳			アールベルグ	男子成年C	GS6位	
川本愛理			スポーツマン	女子チルドレン1	SL2位	
島田忍			アールベルグ	男子チルドレン2	SL5位	
市川房雄			アールベルグ	男子成年C	SL2位	
マスターズ大会		原浜三	スポーツマン	45～50歳	1位	
		高澤一二	アールベルグ	50～54歳	3位	
マスターズ選手権		坂本弘	アールベルグ	～39歳	5位	
		市川房雄	アールベルグ	50～54歳	1位	
		栗野清道	日立	50～54歳	4位	
県民体育大会		川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン1	GS1位	

年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	順位
16	県選手権	川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	GS1位
		川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン2	GS1位
		川本愛理	スポーツマン	女子少年	SL6位
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年B	SL2位
		市川房雄	アールベルグ	男子成年C	SL5位
	チャレンジカップ 第3戦	川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン1	SL2位
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年B	SL1位
		高澤一二	アールベルグ	男子成年C	SL1位
		市川房雄	アールベルグ	男子成年C	SL5位
		丸山靖	トライアル	男子チェアスキー	SL1位
	チャレンジカップ 第3戦 TOELLカップ	田中里美	スポーツマン	オープン女子チルドレン 1	GS1位
		川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン1	GS2位
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年B	GS4位
		高澤一二	アールベルグ	男子成年C	GS1位
		唐澤公岳	アールベルグ	男子成年C	GS5位
	17	県ジュニア	川本莉愛	スポーツマン	女子小学生中学年
川本愛理			スポーツマン	女子小学生高学年	GS1位
マスターズ選手権 上越国際		市川房雄	アールベルグ	50～54歳	2位
		栗野清道	日立	55～59歳	2位
マスターズ選手権 岩岳		栗野清道	日立	55～59歳	1位
チャレンジカップ <sup>o</sup> 第2戦		丸山靖	トライアル	男子LW	GS2位 SL1位
		斎藤広恵	アールベルグ	一般女子	GS5位 SL3位
県選手権 スピード系		長崎正幸	アールベルグ	成年A	スーパー-G4位
県選手権		河合千月	スポーツマン	小学生女子低学年	GS1位
		川本愛理	スポーツマン	小学生女子高学年	GS1位
		原幸平	スポーツマン	小学生男子低学年	GS6位
		島田忍	アールベルグ	男子中学生	GS5位
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年B	GS1位 SL1位
		坂本弘	アールベルグ	男子成年B	SL6位
		市川房雄	アールベルグ	男子成年C	SL4位

年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	1頂位
17	チャレンジカップ 第3戦 東日本キャタピラー 三菱大会	川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	SL1位
		川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン1	SL5位
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年B	SL2位
		高澤一二	アールベルグ	男子成年C	SL2位
	TOELLカップ	川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン1	GS1位
		川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	GS3位
		斎藤広恵	アールベルグ	女子成年B	GS2位
		高澤一二	アールベルグ	男子成年C	GS4位
18	チャレンジカップ 第1戦	川本愛理	スポーツマン	女子	GS6位
		坂本弘	アールベルグ	男子	SL6位
	県ジュニア	川本莉愛	スポーツマン	女子Jr小学校 中学年	GS1位
		川本愛理	スポーツマン	女子Jr中学校	GS1位
	マスターズ選手権	市川房雄	アールベルグ	50～54歳	1戦4位
	県民体育大会	川本愛理	スポーツマン	少年女子	GS5位
	県選手権 スピード系	坂本弘	アールベルグ	男子	スーパー-G2位
	チャレンジカップ 第2戦	川添徹	トライアル	男子オープンC	GS4位
	県選手権	原幸平	スポーツマン	男子低学年	GS6位
		川本莉愛	スポーツマン	女子高学年	GS3位 SL2位
		川本愛理	スポーツマン	女子中学生	GS3位 SL2位
	チャレンジカップ 第3戦	川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	3戦SL2位
		川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン2	3戦SL4位
	TOELLカップ	川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	GS1位
		河合千月	スポーツマン	女子チルドレン1	GS6位
		川本愛理	スポーツマン	女子チルドレン2	GS4位
斎藤広恵		アールベルグ	女子B	GS1位	
19	チャレンジカップ	川本愛理	スポーツマン	女子	SL6位
		木村実代	アールベルグ	女子	GS2位
	県ジュニア	川本莉愛	スポーツマン	女子小学校高学年	GS3位
		川本愛理	スポーツマン	女子中学校	GS1位



年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	順位	
19	マスターズ選手権	木村実代	アールベルグ	女子	2位	
		市川房雄	アールベルグ	50～54歳	2位	
		高澤一二	アールベルグ	55～59歳	2位	
		栗野清道	日立	55～59歳	3位	
	チャレンジカップ 第2戦	川添徹	トライアル	男子オープンC	GS2位	
	県選手権	川本莉愛	スポーツマン	女子チルドレン1	GS2位 SL1位	
		川本愛理	スポーツマン 中体連	女子チルドレン2	GS3位 SL1位	
		木村泰子	エリア	女子B	GS6位 SL4位	
	チャレンジカップ 第3戦	川本莉愛	スポーツマン	女子小学生高学年	GS1位 SL1位	
		川本愛理	スポーツマン・ 中体連	女子中学生	GS1位 SL1位	
		木村泰子	エリア	女子成年B	GS5位	
	20	チャレンジカップ 第1戦 東日本キャタピラー 三菱大会	川本莉愛	スポーツマン	小学生高学年女子	GS1位 SL1位
			木村泰子	エリア	成年B女子	GS5位 SL4位
坂本弘			アールベルグ	成年C男子	SL1位	
県ジュニア		川本莉愛	スポーツマン	小学生高学年女子	SL1位	
		川本愛理	中体連	中学生女子	GS1位	
マスターズ選手権		木村泰子	エリア	30～34歳女子	GS1位	
		本間昭治	日立	50～54歳	GS3位	
		栗野清道	日立	55～59歳	GS2位	
国体県選考会		川本愛理	中体連	少年女子	GS6位	
		鈴木芽久美	アールベルグ	成年B女子	GS4位	
		斎藤広恵	アールベルグ	成年B女子	GS5位	
県民体育大会		川本愛理	中体連	少年女子	GS5位	
		鈴木芽久美	アールベルグ	成年B女子	GS4位	
		斎藤広恵	アールベルグ	成年B女子	GS5位	
野辺山マスターズ		高澤一二	アールベルグ	59歳以下男子	第1日GS3位	
		高澤一二	アールベルグ	59歳以下男子	第2日GS2位	

年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	順位	
20	チャレンジカップ 第2戦	木村泰子	エリア	一般女子	GS4位 SL3位	
		鈴木芽久美	アールベルグ	一般女子	SL1位	
	県選手権	川本莉愛	スポーツマン	チルドレン1 高学年女子	GS1位 SL1位	
		山本悠人	スポーツマン	チルドレン1 高学年男子	GS1位 SL5位	
		本間謙太郎	アールベルグ	チルドレン1 高学年男子	SL6位	
		川本愛理	中体連	チルドレン2女子	GS1位 SL1位	
		鈴木芽久美	アールベルグ	成年B女子	GS3位	
		野辺山大会 第3戦 FRONTIER CUP	川本莉愛	スポーツマン	小学生5～6年女子	SL1位
	河合千月	スポーツマン	小学生5～6年女子	SL6位		
	山本悠人	スポーツマン	小学生5～6年男子	SL3位		
	川本愛理	中体連	中学生女子	SL1位		
	坂本弘	アールベルグ	成年C男子	SL1位		
	高澤一二	アールベルグ	成年C男子	SL6位		
	21	チャレンジカップ 第1戦 キャタピラ三菱 大会	川本莉愛	スポーツマン	女子中学生	GS2位 SL1位
			川本愛理	スポーツマン	女子高校生	GS1位 SL1位
			木村泰子	エリア	女子成年B	GS5位 GL5位
坂本弘			アールベルグ	男子成年C	SL5位	
県マスターズ		木村泰子	エリア	女子30～34歳	GS4位	
		鈴木芽久美	アールベルグ	女子35～39歳	GS3位	
		栗野清道	日立	男子55～59歳	GS3位	
県ジュニア		川本莉愛	スポーツマン	女子中学生	GS1位	
		川本愛理	スポーツマン	女子高校生	GS1位	
県民体育大会		川本愛理	スポーツマン	少年女子	GS3位	
		鈴木芽久美	アールベルグ	成年女子B	GS6位	
		木村泰子	エリア	女子成年B	SL5位	
国体県選考会		川本愛理	スポーツマン	少年女子	GS5位	
		川本莉愛	スポーツマン	少年女子	GS6位	
		斎藤広恵	アールベルグ	成年女子B	GS2位	

年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	順位	
21	県選手権	山本悠人	スポーツマン	男子チルドレン1	GS4位 SL3位	
		河合千月	スポーツマン	女子チルドレン2	SL6位	
		木村泰子	エリア	女子成年C	SL6位	
		坂本弘	アールベルグ	男子成年C	GS6位 SL4位	
	チャレンジカップ 第2戦	井上英年	雪友	男子ハンディキャップ2	GS2位 SL2位	
		丸山靖	トライアル	男子ハンディキャップ2	GS3位	
		山本悠人	スポーツマン	男子小学高学年	GS3位	
		河合千月	スポーツマン	女子中学生OP	GS1位	
		木村泰子	エリア	女子成年B	GS6位 SL6位	
		坂本弘	アールベルグ	男子成年C	GS5位 SL1位	
	22	チャレンジカップ 第1戦	川本愛理	スポーツマン	女子中学生	第1日SL1位
			川本莉愛	スポーツマン	女子中学生	第1日SL3位
			石田俊宏	雪友	男子成年B	第1日SL5位
			川本愛理	スポーツマン	女子中学生	第2日SL1位
川本莉愛			スポーツマン	女子中学生	第2日SL3位	
坂本弘			アールベルグ	男子成年C	第2日SL4位	
県マスターズ		鈴木芽久美	アールベルグ	女子35～39歳	GS2位	
		長崎正幸	アールベルグ	男子55～59歳	GS4位	
		栗野清道	日立	男子60～64歳	GS1位	
県ジュニア		川本莉愛	スポーツマン	女子中学生	SL3位	
		川本愛理	スポーツマン	女子高校生	GS2位	
県選手権		鈴木芽久美	アールベルグ	女子成年B	GS4位 SL3位	
		石田俊宏	雪友	男子成年B	GS5位	
		唐澤公岳	アールベルグ	男子成年C	SL4位	
23		チャレンジカップ 第1戦	川本愛理	高体連	ジュニア女子	GS1位 SL1位
			坂本弘	アールベルグ	成年C男子	GS6位 SL2位
		県ジュニア	川本莉愛	中体連	ジュニア女子	GS1位

年度	大会名	氏名	クラブ	クラス	順位
23	マスターズ選手権	斎藤広恵	アールベルグ	30～34歳女子	GS1位
		石田俊宏	雪友	30～34歳男子	GS6位
		本間昭治	日立	50～54歳男子	GS2位
		長崎正幸	アールベルグ	55～59歳男子	GS5位
		栗野清道	日立	60～64歳男子	GS4位
	県民体育大会	川本莉愛	中体連	少年女子	GS2位
		川本愛理	高体連	少年女子	GS6位
		斎藤広恵	アールベルグ	成年B女子	GS5位
	国体県選考会	川本愛理	高体連	少年女子	GS2位
		川本莉愛	中体連	少年女子	GS3位

## 資料

年表

有資格者名簿

規約

\* 年表 \*

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
昭和 36年 (1961)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田原スキー協会創立 会長難波博夫、副会長鳥海達雄、理事長松浦益司郎</li> <li>・高田赤倉国体で松浦益司郎 壮年組大回転7位入賞</li> <li>・本町小学校にて映画会を開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー大学制度制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界初のソ連の有人宇宙船「ボストーク1号」打ち上げ回収。</li> <li>・大鵬柏戸横綱に昇進。柏鵬時代の開幕</li> </ul>
昭和 37年 (1962)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法坂スキー場(1月)裏磐梯スキー場(2月)にて初めて講習会を開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回インタースキーがイタリアのモンテボンドーネで開催される(参加19カ国)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回世界体操選手権(プラハ)日本男子・国体で優勝</li> <li>・堀江謙一小型ヨットで単独太平洋横断に成功</li> </ul>
昭和 38年 (1963)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松浦益司郎、副会長に、那須昭三、理事長になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルッケンハウザー教授が、フランツフルトナー他2名とともに来日</li> <li>・デモンストレーター候補選考会が蔵王で開催される</li> <li>・「スキー教程」発刊フェルゼンドレシュープを基本としたジャンプターンが中心技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケネディ大統領暗殺される</li> </ul>
昭和 39年 (1964)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回市民スキー教室を、蔵王温泉スキー場にて開催する 参加者395名</li> <li>・役員改選 会長難波博夫、副会長松浦益司郎、植村恭作、楓山一登、理事長佐藤勝一</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回冬季オリンピック・インスブルック大会に日本から20名参加</li> <li>・第1回SAJデモンストレーター選考会が、第7回インタースキー派遣デモンストレーター選考会を兼ねて開催される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第18回オリンピック東京大会開催参加94カ国、日本金メダル16個</li> <li>・東海道新幹線開通</li> <li>・東京モノレール開業(浜松町～羽田空港間)</li> <li>・新潟大地震マグニチュード7.5</li> </ul>
昭和 40年 (1965)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員改選 会長松浦益司郎、副会長植村恭作、楓山一登、理事長鈴木忠昭</li> <li>・第2回市民スキー教室(蔵王)参加者250名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回インタースキーがオーストラリアのバドガンスタインで開催される。バインシュピール技術、日本からも5名を含む10名が参加</li> <li>・国際スキー教育連盟(インタースキー)に加盟</li> <li>・中川新、インタースキー理事となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウインザーマラソンで重松森雄世界最高2時間12分0で優勝</li> <li>・名神高速道路全線開通</li> <li>・米軍、北ベトナム爆撃を開始</li> <li>・プロ野球第1回ドラフト会議</li> <li>・朝永振一郎ノーベル物理学賞を授章</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
昭和41年 (1966)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松浦益司郎県連の副会長になる</li> <li>・楓山一登県連理事(基礎部長)になる</li> <li>・正月合宿が南小谷で開催(10名参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢選手、ノルディック世界選手権オスロ大会純飛躍90m級に2位入賞</li> <li>・スキー教程改訂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソ連無人衛生「ルナ9号」を打ち上げ(2月3日、初の月面軟着陸に成功)</li> <li>・全日空、カナダ航空機など航空事故続発</li> <li>・中国文化大革命始まる</li> <li>・日本の人口が1億人突破</li> </ul>
昭和42年 (1967)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・那須昭三副会長になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルッケンハウザー教授一行4名が来日し、特別研修会を実施する</li> <li>・SAJ公認スキー学校制度制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美濃部亮吉、東京都知事に当選</li> <li>・今井通子、若山美子マッターホルン北壁に女性として初登はん成功</li> <li>・ヨーロッパ共同体(EC)発足</li> <li>・東南アジア5カ国、東南アジア諸国連合(ASEN)を結成</li> <li>・第3次中東戦争起こる</li> </ul>
昭和43年 (1968)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松浦益司郎SAJ理事になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回インタースキー(アメリカ・アスペン)に日本からデモンストレーター8人を含む30名が参加する</li> <li>・第10回冬季オリンピックグルノーブル大会開催。ジャンクロードキリーがアルペン三冠王となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第19回オリンピック・メキシコ大会開催。日本金11個</li> <li>・郵便番号制度発足</li> <li>・川端康成ノーベル文学賞を授賞</li> </ul>
昭和44年 (1969)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SAJスキー教程」発刊屈膝平踏先落し技術が登場</li> <li>・伊藤義郎、FIS理事となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東名高速道路全線開通</li> <li>・米国の宇宙船「アポロ11号」月面着陸、月面に人類の第一歩</li> <li>・NHK、FMラジオ本放送開始</li> <li>・東大安田講堂封鎖解除</li> </ul>
昭和45年 (1970)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回小田原スキー選手権が栗子峠スキー場にて開催される(97名参加し、回転競技)</li> <li>・楓山一登県連の副理事長になる</li> <li>・会員登録350名超える</li> <li>・鈴木忠昭県連理事(総務部長)SAJ評議員になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストリア文部省がサンクト・クリストフで「国際スキー講師講習会」を開催</li> <li>・「ヴェーレン・テクニク」を発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大宇宙研究所、初の国産人工衛生「おおすみ」の打上げ成功</li> <li>・日本万国博覧会、大阪千里丘陵で開幕</li> <li>・日航機「よど号」乗っ取り事件発生</li> <li>・プロスキーヤー三浦雄一郎エベレスト3キロ滑降</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
昭和46年(1971)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立10周年祝賀会を開催する</li> <li>・鈴木忠昭SAJ理事経理部長になる</li> <li>・楓山一登SAJ評議員になる</li> <li>・第9回インタースキーに松浦益司郎(監督)楓山一登(本部役員)で参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回インタースキー(西ドイツ・ガルミッシュパルテンキルヘン)に日本から50名他が参加する</li> <li>・天野誠一、インタースキー理事となる</li> <li>・「SAJスキー教室」改訂</li> <li>・札幌でプレ・オリンピック大会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソ連金星ロケット、初の金星軟着陸</li> <li>・横綱大鵬引退</li> <li>・今井通子グランドジョラス北壁登はん。女性初の3大陸征服</li> </ul>
昭和47年(1972)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員改選 会長松浦益司郎、副会長楓山一登、鈴木忠昭、五十嵐正明、理事長鈴木忠昭</li> <li>・松浦益司郎、鈴木忠昭SAJ本部役員として第11回冬季オリンピック札幌大会に参加</li> <li>・加盟クラブ12、会員373名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回冬季オリンピック札幌大会開催。70m級ジャンプで笠谷・金野・青地1, 2, 3位を独占</li> <li>・オーストリア・スキー教程日本語版</li> <li>・クルッケンハウザー教授来日</li> <li>・菅秀文、インタースキー理事となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第20回オリンピックミュンヘン大会開催</li> <li>・山陽新幹線、新大阪一岡山間を開通</li> <li>・沖縄、日本に復帰</li> <li>・中国からパンダ2頭、上野に到着</li> </ul>
昭和48年(1973)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回市民スキー教室、妙高パノラマにて開催</li> <li>・第4回小田原スキー選手権大会、御殿場スキー場にて開催される</li> <li>・加盟クラブ11、会員403名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップ苗場大会開催。鈴木忠昭組織委員として参加</li> <li>・全日本スキー連盟、財団法人復活</li> <li>・「日本スキー教程」発刊谷開きからのピポットターン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム和平協定、パリで調印</li> <li>・英国、欧州共同体(EC)に加盟</li> <li>・石油危機始まる</li> <li>・江崎玲於奈ノーベル賞授賞</li> </ul>
昭和49年(1974)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楓山一登県連の理事長になる</li> <li>・松浦益司郎SAJ理事(教育部長)、鈴木忠昭SAJ理事(経理部長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FIS世界スキー選手権大会開催 ノルディック:ファルンアルペン:サンモリッツ鈴木忠昭監督として参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野田少尉ルパン島で救出される</li> <li>・長島茂雄引退</li> <li>・政府、電力石油の消費規制強化</li> </ul>
昭和50年(1975)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回市民スキー教室、菅平大松山にて開催する</li> <li>・会員登録500名を超える</li> <li>・松浦益司郎第10回インタースキー日本チーム団長。鈴木忠昭(監督)楓山一登(本部役員)として参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回インタースキーがチェコスロバキアのピソケタトリで開催される日本から80名参加</li> <li>・ワールドカップ苗場大会開催。松浦益司郎(組織委員)鈴木忠昭(組織委員)</li> <li>・「新オーストリア・スキー教程」日本語版が出版される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山陽新幹線、博多まで全線開通</li> <li>・ベトナム戦争終結</li> <li>・沖縄国際海洋博覧会開幕</li> <li>・沢松和子・キヨムラ組ウインブルドン女子ダブルスに優勝</li> <li>・第1回先進国首脳会議(サミット)開催(ランブイエ)会議</li> </ul>



年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
昭和 51年 (1976)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田原隆理事長になる</li> <li>・第14回市民スキー教室、戸隠にて開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回冬季オリンピック、インスブルック大会開催。日本から23名参加</li> <li>・ホピヒラー教授一行11名が来日し、指導員特別研修会を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第21回オリンピック・モントリオール大会開催</li> <li>・ロッキード事件発覚</li> <li>・樋口久子、全米女子プロゴルフ選手権に優勝</li> </ul>
昭和 52年 (1977)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回市民スキー教室拇池にて開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップ富良野大会開催</li> <li>・世界スキー指導員連盟(IVSI)アルタウスゼー大会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産初の静止気象衛生「ひまわり1号」打上げ</li> <li>・王貞治通算756号の本塁打世界最高記録を樹立。国民栄誉賞第1号</li> </ul>
昭和 53年 (1978)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小室静雄理事長になる</li> <li>・第16回市民スキー教室、戸隠にて開催する</li> <li>・会員登録数677名になる</li> <li>・母と子のスキー教室、岩岳にて開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップ、オーベルスタウフェン大会で、海和俊宏、スラローム5位入賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆大島近海地震</li> <li>・新東京国際空港(成田)開港</li> <li>・円高騰、1ドル175円50銭を記録</li> <li>・青木功、ゴルフ世界マッチプレー選手権優勝</li> </ul>
昭和 54年 (1979)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回インタースキーが蔵王で開催される</li> <li>・ワールドカップ富良野大会開催</li> <li>・伊藤義郎FIS副会長となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国と中国、国交正常化</li> <li>・イラン革命(第2次石油危機発生)</li> <li>・エジプトイスラエル平和条約調印</li> <li>・国公立大学共通一次試験実施</li> </ul>
昭和 55年 (1980)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニアスキー教室、志賀一の瀬で開催する</li> <li>・協会だより創刊</li> <li>・第1回クラブ親善ソフトボール大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回冬季オリンピック、レーク・プラシッド大会開催。70m級ジャンプ、2位八木弘和、4位秋元正博</li> <li>・ワールドカップ、レングリース大会で、児玉修、スラローム6位入賞</li> <li>・ワールドカップ、ピソケタトリ大会90m級ジャンプ1位秋元正博3位八木弘和</li> <li>・「日本スキー教程」発刊交互操作とステップターン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第22回オリンピックモスクワ大会開催</li> <li>・イランイラク戦争始まる</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
昭和 56年 (1981)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回小田原スキー選手権大会会場を車山に移し開催する</li> <li>・創立20周年祝賀会を開催する(10月4日すずひろ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回全日本フリースタイル選手権大会開催(志賀サンパレー)</li> <li>・「日本スキー指導教本」発刊</li> <li>・ワールドカップ札幌大会(90m級ジャンプ)富良野大会(アルペン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローマ法王ヨハネパウロ二世来日</li> <li>・神戸ポートアイランド博覧会開幕</li> <li>・京大福井謙一・教授、ノーベル科学賞授賞</li> </ul>
昭和 57年 (1982)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田伸彦県連普及部長となる</li> <li>・松浦益司郎SAJ副会長になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回フリースタイルワールドカップ(カナダ)女子エアリアル第6位板倉かおり</li> <li>・10C委員に猪谷千春就任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北新幹線上越新幹線開業</li> <li>・500円硬貨発行</li> <li>・日本山岳協会登山隊チョゴリ登山成功</li> <li>・イスラエル軍、レバノン進入</li> </ul>
昭和 58年 (1983)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回インタースキーがイタリアのセクステンで開催される。松浦益司郎、団長で参加</li> <li>・第4回フリースタイルワールドカップ(アメリカ)女子エアリアル第5位橋場一枝、男子総合第10位横山岳男、女子総合第7位橋場一枝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京マラソン、瀬古利彦優勝2時間8分38秒日本新記録</li> <li>・青木功、ハワイアンオープン優勝</li> <li>・東京ディズニーランド開園</li> </ul>
昭和 59年 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会初滑り(日本ランド)開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第14回冬季オリンピックサラエボ大会開催</li> <li>・フリースタイルワールドカップ(ブリッケンブリッジ)男子コンバインド第7位角皆勇人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第23回オリンピック(ロサンゼルス)開催</li> <li>・グリコ森永事件発生</li> </ul>
昭和 60年 (1985)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第23回市民スキー教室、岳温泉スキー場にて開催する</li> <li>・第1回技術交流会 小林忠康:海和俊宏両氏をコーチ招く</li> <li>・映画会観客動員1000名を超える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野ワールドカップ開催(DH, GSL)</li> <li>・国際スキーパトロール大会開催車山</li> <li>・フリースタイルワールドカップ(ブリッケンブリッジ)男子コンバインド第9位角皆勇人、女子エアリアル第4位上村祐代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波科学万国博開催</li> <li>・日航ボーイング機御巢鷹山に墜落</li> <li>・宗茂猛兄弟北京マラソンで1、2位</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
昭和 61年 (1986)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員改選 会長松浦益司郎、副会長鈴木忠昭、五十嵐正明、小室静雄、理事長鍵和田進</li> <li>・第24回市民スキー教室、妙高池の平にて開催する。</li> <li>・柴田伸彦県連副理事長となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回フリースタイルスキー世界選手権大会開催される(フランスのティエニュー)男子エアリアル第10位横山岳男、女子エアリアル第7位藤井博子</li> <li>・「日本スキー教室」全面改訂ヴァリアブルスキーイング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースシャトルチャレンジャー号空中爆発</li> <li>・チェルノブイリ原発事故</li> <li>・大島三原山大噴火</li> </ul>
昭和 62年 (1987)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回インタースキーがカナダのバンブで開催される。松浦益司郎団長で参加</li> <li>・アルペンワールドカップ(サラエボ)SL4位岡部哲也(富良野)DH9位相原博之</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡本綾子がアメリカ女子プロゴルフトーナメントの賞金王になる</li> <li>・ルーゲーリックの連続試合出場記録を抜いた衣笠祥雄に国民栄誉賞</li> <li>・利根川進教授ノーベル医学生理学賞を受賞</li> <li>・大韓航空機行方不明(墜落)</li> </ul>
昭和 63年 (1988)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員改選 木村徳善理事長となる。</li> <li>・柴田伸彦県連理事長となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回冬季オリンピックカルガリー大会開催</li> <li>・アルペンワールドカップオブダールSL2位岡部哲也セストリエールSL5位岡部哲也</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルガリー冬季オリンピック橋本聖子スケート五種目入賞黒岩彰スケート500mで銅メダル</li> <li>・第24回オリンピックソウル大会鈴木大地100m背泳で金メダル</li> <li>・横須賀港沖で潜水艦「なだしお」と釣り船「第一富士丸」衝突</li> </ul>
平成 元年 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第27回市民スキー教室、北志賀竜王にて開催。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和天皇御崩御</li> <li>・新元号「平成」となる。</li> </ul>
平成 2年 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第28回市民スキー教室、菅平にて開催。</li> <li>・第22回小田原スキー選手権大会会場を野辺山に移し開催。</li> <li>・鈴木忠昭県連副会長となる。</li> <li>・正月合宿菅平で開催(昭和41年以降毎年開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップ・シュラドミングSL3位岡部哲也</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湾岸戦争勃発</li> <li>・東西ドイツ統一</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
平成 3年 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協会創立30周年式典</li> <li>・ 門脇均(エリア)全日本技術選出場。</li> <li>・ 藤田守(スポーツマン)ノルディックの部国体(成年組)出場。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長崎県の雲仙、普賢岳で大規模な火砕流が発生多数の犠牲者が出た。</li> <li>・ 第3回世界陸上選手権大会男子マラソンで谷口浩美選手が日本人選手として初めての優勝。</li> </ul>
平成 4年 (1992)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤田守(スポーツマン)ノルディックの部2年連続国体(成年組)出場。</li> <li>・ 市民スキー菅平で実施参加者189名。</li> <li>・ 春休みスキー志賀一の瀬で実施206名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第16回冬季オリンピックアルペールビル(フランス)大会開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バルセロナ五輪、女子200m平泳ぎで岩崎恭子さんが優勝。14歳と6日の金メダル獲得は五輪競泳史上最年少。</li> <li>・ スペースシャトルエンデバー打ち上げ、毛利衛さん日本人初の宇宙飛行士に。</li> </ul>
平成 5年 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民スキー菅平で実施参加者126名。</li> <li>・ 春休みスキー志賀一の瀬・で実施123名参加。</li> <li>・ 藤田守(スポーツマン)ノルディックの部3年連続国体(成年組)出場。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルペンスキー世界選手権盛岡、雫石で開催される。</li> <li>・ ワールドカップノルディックコンバインド、荻原健二総合優勝、河野孝典総合3位。</li> <li>・ ワールドカップダウンヒル、川端絵美日本女子初3位。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皇太子殿下と小和田雅子さんの結婚の儀が皇居で行われる。</li> <li>・ 日本プロサッカーJリーグ開幕。</li> <li>・ 北海道南西沖地震(M7.8)が奥尻島を直撃。地震、津波と火災で死者181人、行方不明64人。</li> </ul>
平成 6年 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民スキー菅平で実施参加者92名。</li> <li>・ 春休みスキー志賀一の瀬で実施122名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワールドカップノルディックコンバインド、荻原健二2年連続総合優勝、河野孝典2年連続総合3位。</li> <li>・ 第17回冬季オリンピックリレハンメル(ノルウェー)大会開催。メダルは金1、銀2、銅2。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村山内閣発足。社会党政権は47年ぶり。</li> <li>・ 向井千秋さん日本人初の女性宇宙飛行士に。</li> <li>・ 第65代横綱貴乃花誕生。</li> </ul>
平成 7年 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協会登録会員658名となる。</li> <li>・ 市民スキー菅平で実施参加者94名。</li> <li>・ 春休みスキー志賀一の瀬で実施143名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第15回インタースキー野沢温泉で開催。</li> <li>・ フリースタイル世界選手権(フランス・ラ・クルーズ)</li> <li>・ 5月神奈川県スキー連盟財団法人の許可を受け柴田伸彦(現当協会副会長)専務理事となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪神淡路大震災(M7.2)が発生。死者5094人、行方不明13人。</li> <li>・ 地下鉄サリン事件勃発。</li> <li>・ 米大リーグに野茂英雄投手が日本人として初出場。</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
平成8年 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画会で岡部哲也氏の講演を実施。</li> <li>市民スキー志賀・焼額山で実施120名参加。</li> <li>SAJより五十嵐正明氏、星野誠治氏が基礎スキー功労準指導員として顕彰される。</li> <li>佐川実穂(エリア)全日本技術選出場。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリースタイル世界選手権開催(長野)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代五輪百周年となる第26回夏季オリンピックが米国アトランタで開幕。197の国と地域がすべて参加。女子マラソンの有森裕子選手が銅メダル。</li> </ul>
平成9年 (1997)	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画会ゲスト上原由さん。</li> <li>市民スキー志賀・焼額山で実施74名参加。</li> <li>春休みスキー志賀一の瀬で実施64名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノルディック世界選手権開催(ノルウェー・トロンハイム)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費税の税率が5%になる。</li> <li>タイガー・ウッズがマスターズトーナメントで史上最年少優勝を果たす。</li> <li>今世紀最大級のヘール・ボップ彗星が現れる。</li> </ul>
平成10年 (1998)	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画会ゲストに荻原次晴氏を招く。</li> <li>市民スキー志賀焼額山で実施69名参加。</li> <li>春休みスキー志賀一の瀬焼額山で実施51名参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第18回冬季オリンピック長野大会開催。里谷多英が女子モーグルで優勝。冬季オリンピックで日本女子の金メダルは初。日本は金5、銀1、銅4のメダルを獲得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵便番号が7桁になる。</li> <li>第66代横綱若乃花誕生。史上初の兄弟横綱となる。</li> <li>第80回全国高校野球選手権大会で横浜高校が優勝。5校目の春夏連覇。</li> </ul>
平成11年 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田原スキー協会ホームページ開設。</li> <li>映画会ゲスト我満嘉治氏。</li> <li>市民スキー志賀・焼額山で実施38名参加。</li> <li>春休みスキー志賀一の瀬で実施37名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第16回インタースキーバイストレーンで開催(ノルウェー)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選抜高校野球大会で沖縄尚学高校が初優勝。沖縄県勢初の全国制覇。</li> <li>ダイエー・ホークスが創設11年目で初優勝。日本一に。</li> <li>茨城県東海村のJCO東海事業所で国内初の臨界事故発生。</li> </ul>
平成12年 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画会ゲスト三浦雄一郎氏。</li> <li>市民スキー志賀焼額山で実施62名参加。</li> <li>春休みスキー車山高原で実施1100名参加。</li> <li>松浦益司郎名誉会長ご逝去。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「社会体育指導者の知識技能審査事業」の認定に関する規定が省令となり、「スポーツ指導者制度」と名称変更。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有珠山23年ぶり噴火。</li> <li>第27回シドニーオリンピック女子マラソンで高橋尚子選手が五輪最高記録で優勝。国民栄誉賞受賞。</li> </ul>
平成13年 (2001)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民スキー志賀高原で実施。</li> <li>春休みスキー教室車山高原で実施。</li> <li>創立40周年式典、祝賀会開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリースタイルスキー世界選手モーグル上村愛子日本人初3位入賞。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小泉内閣発足。</li> <li>米同時多発テロ発生。</li> <li>東京ディズニーシー開園。</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
平成 14年 (2002)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施61名参加。</li> <li>・日帰りジュニアスキー教室イエティで開始45名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施91名参加。</li> <li>・木村実代(アールベルグ) 全日本スキー技術選出場。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソルトレイクシティー冬季五輪開催。女子モーグルで里谷多英が銅メダル、上村愛子6位入賞。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーワールドカップ日韓共催。</li> <li>・島津製作所田中耕一氏がノーベル化学賞、東京大学小柴昌俊名誉教授がノーベル物理学賞を受賞。</li> <li>・日本人拉致被害者5人が北朝鮮から24年ぶりに帰国。</li> </ul>
平成 15年 (2003)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施55名参加。</li> <li>・日帰りジュニアスキー教室イエティで実施95名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施83名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップ第5戦ウエングン(SUI)で佐々木明がSL2位。</li> <li>・第17回インタースキー(スイス; クランモンタナ)開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラク戦争開戦。</li> <li>・横綱貴乃花が引退。</li> <li>・宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」アカデミー賞長編アニメ映画賞を受賞。</li> <li>・六本木ヒルズがオープン。</li> </ul>
平成 16年 (2004)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施45名参加。</li> <li>・体協との協賛事業で日帰りスキー教室をイエティで実施94名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施80名参加。</li> <li>・映画会に変わりスキーフェスティバルを小田原アリーナで開催。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アテネ五輪開催。日本金16個、銀9個、銅12個獲得。</li> <li>・メジャーイチローシーズン最多安打記録84年ぶり更新262安打。</li> <li>・新潟県中越、インドネシア</li> <li>・スマトラ島沖地震発生。</li> </ul>
平成 17年 (2005)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施31名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室イエティで実施87名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施80名参加。</li> <li>・いいつなりゾートポール教室開始21名参加。</li> <li>・長らく続いたが最後のソフトボール大会実施。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR福知山線脱線事故発生。</li> <li>・野口聡一氏がスペースシャトルで宇宙へ。</li> </ul>
平成 18年 (2006)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施46名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室イエティで実施94名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施97名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トリノ冬季五輪開催。SLで皆川賢太郎が4位、湯浅直樹が7位入賞。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トリノ五輪女子フィギュアスケート荒川静香アジア勢初金メダル。</li> <li>・第1回WBC(ワールド・ベースボールクラシック)王貞治監督率いる日本が優勝。</li> </ul>

年	小田原スキー協会の動き	スキー界の動き	社会一般の動き
平成 19年 (2007)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施47名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室カムイみさかで実施94名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施62名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的大暖冬。1月26日～28日、キッツビューエル(オーストリア)WC会場では、男子SLを除く全種目が中止。日本国内も同様。</li> <li>・第18回インタースキー(韓国;ピョンチャン)開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参議院選挙で自民党が民主党に歴史的な大敗。</li> <li>・郵政民営化スタート。</li> <li>・東国原英夫氏が宮崎県知事に当選。</li> <li>・石川遼15歳でゴルフツアー最年少V。</li> </ul>
平成 20年 (2008)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施55名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室カムイみさかで実施98名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施59名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FISワールドカップ女子モーグルで上村愛子が総合優勝。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北京五輪開催日本金9個、銀6個、銅10個獲得。</li> <li>・米リーマン・ブラザーズが連邦破産法第11条の適用を申請。</li> <li>・バラクオバマ氏がアメリカ大統領に当選。</li> </ul>
平成 21年 (2009)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施30名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室カムイみさかで実施97名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施62名参加。</li> <li>・小田原スキー選手権をいいつなりリゾートに移し実施40名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏木義之が技術選で通算5勝を達成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判員制度施行。</li> <li>・日経平均株価終値7054円98銭バブル崩壊後最安値更新。</li> <li>・衆議院選挙で民主党が308議席を獲得し政権交代実現。</li> <li>・石川遼ゴルフ日本ツアー史上最年少の賞金王。</li> <li>・野球日本代表がWBC連覇。</li> </ul>
平成 22年 (2010)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキーフェスティバル会場をマロニエに変更し開催。</li> <li>・市民スキー志賀高原で実施22名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室カムイみさかで実施98名参加。</li> <li>・春休みスキー教室車山高原で実施61名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンクーバー冬季五輪開催。</li> <li>・第47回全日本スキー技術選手権で、女子松沢聖佳が前人未踏9連覇を達成、男子丸山貴雄が初優勝し初の親子2代チャンプに。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本航空(JAL)が会社更生法を申請。</li> <li>・ハイチでM7.0、チリでM8.8、中国チベット自治区でM7.1の地震発生。</li> <li>・小惑星探査機はやぶさ地球へ帰還。</li> <li>・チリの鉱山で落盤事故発生も33人全員救出。</li> </ul>
平成 23年 (2011)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー志賀高原で実施23名参加。</li> <li>・日帰りスキー教室カムイみさかで実施101名参加。</li> <li>・春休みスキー教室は東日本大震災のため中止。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災(M9.0)発生。</li> <li>・ニュージーランドでM6.3の地震発生。</li> <li>・東京スカイツリーが634mに到達。</li> <li>・サッカー女子ワールドカップなでしこジャパン初優勝</li> </ul>

## 有資格者名簿

### スキー基礎指導員

#### 取得年

1962	楓山一登(アール)
1964	那須昭三(同好)
1965	出川正浩(アール)
1970	渡辺修(雪友)
1971	竹山克己(雪友)
1972	柴田伸彦(雪友)
1973	熊澤潔(雪友)
1974	大館昌之(アール) 青木捷夫(同好)
1975	鍵和田進(アール) 石丸定悦(エリア)
1977	内田均(エリア) 泉勝弘(雪友) 野地澄夫(雪友) 高原照夫(雪友) 山口利雄(雪友) 金内栄一(アール)
1985	市川房雄(アール) 門脇均(エリア) 鈴木忠昭(エリア) 中田嘉範(スポーツ)
1987	斎藤鯉津子(アール) 渡辺正彦(アール) 小室静雄(日立)
1988	上原邦嗣(雪友) 松浦哲也(雪友) 鍵和田喜一郎(アール)
1989	田代祐司(アール) 長崎正幸(アール) 木村徳善(日立)
1990	松浦政博(スポーツ) 三浦和也(スポーツ) 渡辺照男(スポーツ) 渡辺智文(トライアル)
1991	甲斐貞生(OSC)
1993	鈴木孝雄(雪友)
1994	中根進(アール) 菊池郁子(スポーツ)
1995	鷺津和彦(スポーツ)
1996	小川進(エリア) 小曾根隆司(エリア)
1997	長久保巖(雪友)
1998	荒井大樹(エリア)
2000	稲葉茂代(雪友) 寺川健吾(同好)
2001	佐藤新二郎(エリア) 国島豊(トライアル) 国島みどり(トライアル) 鈴木学(トライアル)
2002	青木幸子(同好) 庄野雄二(トライアル) 鈴木雅樹(富士)
2003	井東昭(雪友)
2005	木下孝弘(エリア) 土井義浩(エリア)
2006	竹内雅二(OSC) 松本和徳(エリア) 矢後忠男(アール) 和田貢(富士)
2007	川越肇(雪友)
2011	徳田弘毅(雪友) 仲亀雅己(アール)



## スキー基礎準指導員

### 取得年

- 1966 千村晴男(エリア)五十嵐正明(富士)  
1967 渡辺保夫(エリア)  
1968 橋本栄二(雪友)木村政美(エリア)  
1970 古屋益夫(雪友)荻野治久(アール)  
1971 菊地務(雪友)島村一男(雪友)  
1972 大西辰雄(エリア)佐藤英夫(日立)  
1973 志村良昭(アール)  
1974 石橋誠市(雪友)  
1975 星野誠治(アール)  
1976 古屋洋一(アール)猪子正利(同好)  
1977 松本良男(雪友)大津隆(エリア)  
1978 石岡義秋(日立)  
1979 鈴木孝雄(雪友)  
1981 澤登巖(富士)  
1982 三瓶英雄(雪友)  
1983 三浦芳雄(アール)横溝義昭(富士)  
1984 野沢孝治(雪友)大谷隆(アール)本間昭治(日立)  
1985 飯塚幸一(富士)  
1988 竹内由香(雪友)栗野清道(日立)原浜三(スポーツ)入山圭司(トライアル)  
1989 栗野清道(日立)鍵和田喜一郎(アール)鷺津和彦(スポーツ)竹内真子(スポーツ)  
1990 高杉隆幸(雪友)平井史(雪友)清信保(アール)古郡浩(アールベルグ)  
本間奈緒美(アール)木村優道(エリア)武藤茂(富士)大橋健二(日立)  
合田倫佳(日立)市川勉(OSC)市川恵美子(OSC)北村常三郎(OSC)  
古谷伸記(OSC)河合光利(スポーツ)酒井慶次郎(トライアル)  
田中篤(スポーツ)  
1991 有坂聡(雪友)井東昭(雪友)山口修一(アール)中根進(アール)  
小曾根隆司(エリア)佐々木富士夫(日立)菊池郁子(スポーツ)  
1992 菊池日出男(エリア)餅山雅博(エリア)加藤晃仁(スポーツ)  
1993 沖山和範(雪友)鈴木慎太郎(エリア)本田理恵子(アール)  
1994 須藤博(雪友)荒木勇司(エリア)橋上安貴子(OSC)

## 取得年

- 1995 小山高宏(雪友)菊川広之(雪友)久保田秀幸(アール)  
高橋実穂(エリア)佐々木勲(OSC)
- 1996 伊藤茂之(雪友)八重樫正雄(雪友)力石卓也(雪友)  
岩田国雄(アール)唐澤公岳(アール)内藤富美子(アール)  
西坂洋一(アール)保坂圭一(アール)五味正彦(日立)  
川添徹(トライアル)木村恭子(エリア)
- 1997 成田義人(日立)
- 1998 郡司貴臣(雪友)小山哲男(雪友)志村武彦(雪友)野地香(雪友)  
一寸木基絵(エリア)工藤明(日立)片山昌浩(同好)
- 1999 清水岩夫(雪友)杉崎和男(同好)武芳和(アール)鈴木健二(アール)
- 2000 八代英輝(雪友)土井純子(エリア)
- 2001 田村浩幸(雪友)門倉正巳(アール)
- 2002 池谷公治(雪友)
- 2003 鈴木彰(同好)
- 2004 小野聡枝(雪友)唐澤泰子(エリア)
- 2005 山梨努(雪友)木村実代(アール)和泉淳子(アール)
- 2006 石田俊宏(雪友)
- 2007 挽地智志(エリア)
- 2008 石綿孝一(雪友)舛山麻美(雪友)野村小百合(アール)
- 2009 井上英年(トライアル)
- 2010 辻田満尋(アール)鈴木聖貴(トライアル)上倉完之(OSC)  
檜上竜也(日立)島津義嗣(エリア)
- 2011 高橋孝夫(OSC)松下輝身(富士)斉藤浩樹(富士)

## スノーボード指導員

### 取得年

- 2000国島豊(トライアル)

## スノーボード準指導員

### 取得年

- 2008加藤哲久(雪友)近藤敬介(雪友)

## 小田原スキー協会 規約

### 第1章 総則

#### 【名称】

第1条 本協会は、小田原スキー協会という。

#### 【組織】

第2条 本協会は、(財)全日本スキー連盟、(財)神奈川県スキー連盟、(財)小田原市体育協会(以下上部団体という)に属し、当協会に所属する各団体をもって組織する。

#### 【事務所】

第3条 本協会の事務局は、役員改選時、常任理事会においてその都度決定される。

#### 【目的】

第4条 本協会は、地域スキーの発展向上をはかると共に、安全な正しいスキー技術の普及および相互の融和をはかる事を目的とする。

### 第2章 事業

#### 【事業】

第5条 本協会は、第4条の目的を達成するため次の事業を行う。  
(1)上部団体に、小田原スキー界を代表して加盟すること。  
(2)上部団体の主催する諸行事に参加すること。  
(3)スキー技術の向上と普及啓蒙をはかるための各種講習会、技術検定を実施すること。  
(4)その他本協会の目的を達成するために必要なこと。

### 第3章 所属団体

#### 【所属できる団体】

第6条 本協会への所属団体は、スキー愛好者のグループであること。

#### 【所属】

第7条 所属団体は、新たに加入する団体も含め団体名、代表者、理事長、事務担当者、基礎担当者、競技担当者、会員名簿を決定明記して提出する。

#### 【所属・脱退】

第8条 団体の本協会への所属、脱退は理事会の決議による。ただし、所属については常任理事会が仮承認出来る。

#### 【負担金・登録】

第9条 所属団体は、負担金を毎年期限迄に納入しなければならない。同時に、所属団体会員ならびに各種有資格者の登録をしなければならない。登録については、上部団体登録規定による。

### 第4章 資産および会計

【資産および収入】 本協会の資産および収入は次の通りとする。

- 第10条
- (1) 財産目録記載の財産
  - (2) 所属団体の負担金、登録料
  - (3) 事業に伴う収入
  - (4) その他の収入

【会計年度】

第11条 本協会の会計年度は毎年6月1日に始まり、翌年5月31日に終わる。

第5章 役員

【役員】

第12条

1.本協会に次の役員をおく。

- 会長 1名
- 副会長 3名以内
- 幹事 2名
- 理事長 1名

上記以外の常任理事9名以上15名以内および特別常任理事(上部団体派遣役員)をおくことができる。

2.必要に応じ、副理事長1名をおくことができる。

【役員を選出】

第13条

1.役員は理事会において選出される。

2.役員に欠員および増員の必要が生じた場合は、常任理事会において補充し、最新の理事会にはかる。

【会長および副会長】

第14条

1.会長は、本協会を代表し、会務を総理する。

2.副会長は、会長を補佐し、会長事故あるとき、または欠けたるときはこれを代行する。

【理事長・副理事長】

第15条

1.理事長は、理事会の決議にもとづき会務を執行する。

2.副理事長は、理事長を補佐し、理事長事故あるとき、または欠けたるときはこれを代行する。

【上記以外の常任理事】

第16条

上記以外の常任理事は、理事長、副理事長を補佐し、会務を執行する。

【監事】

第17条

監事は、会計および運営を監査する。

【役員任期】

第18条

1.役員任期は、9月1日より2年とする。ただし、再任を妨げない。

2.補充役員任期は残任期間とする。

第6章 名誉会員・顧問・参与・会友

【名誉会長・顧問・参与・会友】第19条

本協会に名誉会長1名、顧問、参与、会友をそれぞれおくことができる。

(1)前会長を名誉会長、特別功労者を顧問、功労者を参与、貢献者を会友とし、常任理事会の決議に従って委嘱する。

(2)会友を除く名誉役員は、理事会、常任理事会に出席して意見を述べることが出来る。ただし、決議権はないものとする。

## 第7章 運営

### 【理事会】

第20条

理事会は、本協会の最高の決議機関である。

第21条

理事会は、次の事項を審議決定する。

- (1) 役員を選出
- (2) 予算ならびに決算
- (3) 事業報告と事業計画
- (4) 本規約の改廃
- (5) 所属団体の承認、脱退
- (6) その他決議を要する重要な事項

第22条

1.理事会は、毎年8月に会長が召集する。

2.会長が、必要と認めたととき臨時理事会を開くことが出来る。

第23条

理事会は、理事および役員で構成し、出席理事中より議長を選出する。

第24条

1.理事は、理事会において所属団体を代表する。

2.理事は、所属団体が理事会開催時選出し、届け出る。

3.所属団体が選出する理事の数は、理事会開催年の1月1日現在の会員登録数に基づき次のとおりとする。

SAJ会員登録数	理事数
① 10名以下	1名
② 11名～50名	2名
③ 51名～100名	3名
④ 101名以上	4名

第25条

1.理事会は、理事の3分の2以上の出席がなければ開かれない。

2.理事会の議事は、出席理事の過半数の同意をもってこれを決定する。可否同数のときは、議長がこれを決定する。

### 【常任理事会】

第26条

常任理事会は、本協会の執行機関である。

第27条

常任理事会は、次の会務を執行する。

- (1) 当面する事務の処理
- (2) 理事会の決定事項の執行
- (3) 規定の改廃
- (4) その他必要な事項の執行

第28条

常任理事会は、必要に応じて会長が召集する。

第29条

常任理事会は、役員で構成し、その議長には理事長があたる。

第30条

常任理事会の議事は、出席役員の過半数の同意をもって、これを決定する。可否同数のときは、議長がこれを決定する。

### 【専門委員会】

第31条

本協会は、常任理事会の決議によって各種の専門委員会をおくことが出来る。

## 第8章 規定

### 【規定】

#### 第32条

本協会の運営上必要と認めるときは、常任理事会において規定を設けることが出来る。

## 第9章 規約の変更

### 【規約の変更】

#### 第33条

1.会員は、本規約に対して異議が生じた場合は、所属団体を通じて改定案を提出することが出来る。

2.本規約は、理事会において改定することが出来る。

## 第10章 補足

### 【補則】

#### 第34条

本規約は、昭和57年11月24日より施行される。

平成元年11月29日一部改正

平成3年5月22日一部改正

平成10年8月26日一部改正

## 創立50周年記念事業 表彰者

実行委員会組織表

海外スキーツアー予定

国内イベント予定

## 小田原スキー協会創立50周年表彰者

### 1.特別協会表彰・協会創立時功労者

那須昭三、鈴木忠昭、藤間寛、高橋晃、千村晴男、平野孝

### 2.協会表彰・功労者

#### 1)協会役員経験者(現役は除く)

- |                |   |
|----------------|---|
| ①会長・副会長経験者     | 柴田伸彦(雪友)  |
| ②理事長経験者        | 該当なし  |
| ③各部長経験者        | 川瀬恒久(スポーツ)、鈴木雅樹(富士)   |
| ④常任理事で3期以上の経験者 | 原浜三(スポーツ)<br>沖山和範(雪友)、鷺津和彦(スポーツ)<br>稲葉茂代(雪友)、庄野雄二(スポーツ)<br>長久保巖(雪友)、故飛鳥井ゆかり(スポーツ)<br>斉藤学(ミクニ) |
| ⑤監事で3期以上の経験者   | 青木捷夫(同好)、大西辰雄(エリア)  |
- #### 2)上部団体派遣者(現役は除く)
- |  |                    |
|--|--------------------|
|  | 野地澄雄(雪友)、渡辺正彦(アール) |
|--|--------------------|
- #### 3)その他
- |  |       |
|--|-------|
| ①スキーバス等の講師を10年以上行うなど、特にその功労を常任理事会で認めた者 | 該当者なし |
| ②長年の功労者                                | 該当者なし |

### 3.協会表彰・優秀選手

#### 1)競技関係

- ##### ①国体出場者、全日本出場者
- 川本愛理(スポーツ)、斎藤広恵(アール)、川本莉愛(スポーツ)
- ##### ②県大会レベルで3位以上の入賞者
- 井上倫子(アール)、高澤一二(アール)、栗野清道(日立)  
梅村祥子(日立)、丸山靖(トライアル)、市川房雄(アール)  
田中里美(スポーツ)、河合千月(スポーツ)、坂本弘(アール)  
唐澤泰子(エリア)、鈴木芽久美(アール)、山本悠人(スポーツ)  
本間昭治(日立)
- ##### ③県総体で3位以上の入賞者
- 木村徳善(日立)
- ##### ④小田原スキー選手権大会、最優秀選手賞受賞者
- 該当者なし

#### 2)基礎関係

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| ①全日本技術選手権出場者      | 木村実代(アール) |
| ②県技術戦で1部2部3位以上入賞者 | 該当者なし     |



#### 4.クラブ功労者

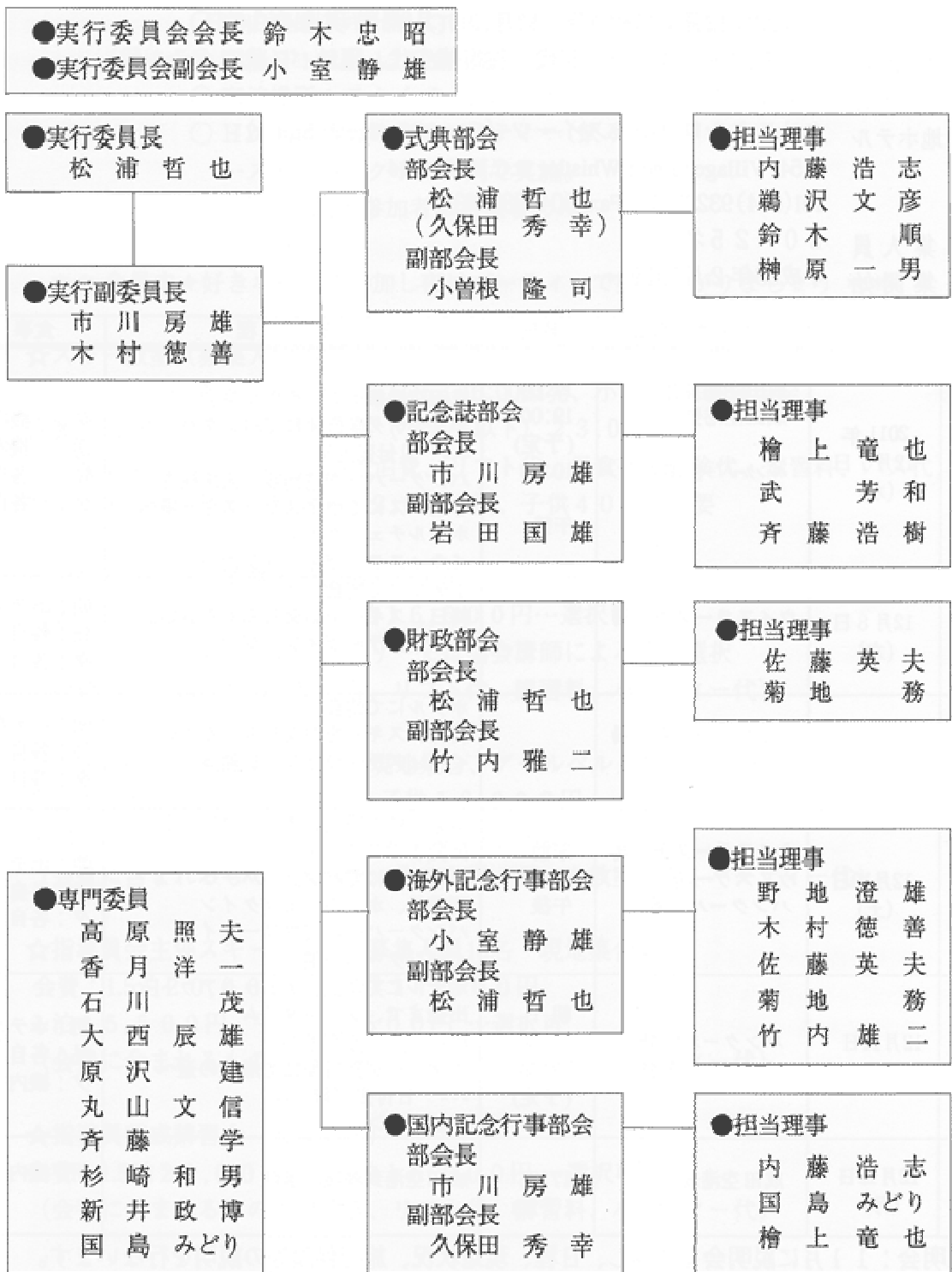
神奈川 雪友泉勝弘、小野聡枝、須藤博  
アールベルグ 岩田国雄、保坂圭一、内藤浩志、香月洋一、矢後忠男  
エリア 木村政美、千村晴男  
富士小田原 和田貢、邊見晃子  
日立小田原 岩田尚敏、堀幸一  
ミクニ 該当者なし  
小田原スキー 北村常三郎  
スポーツマン 河合光利  
トライアル 菊地進、国島みどり

#### 5.協賛表彰

信州総合開発観光株式会社  
株式会社カムイカムイみさかスキー場  
いいつなリゾートスキー場  
見谷スキースクール  
いこいの村アゼィリア飯綱  
有限会社御宿上倉荘  
アイエス物流株式会社

(注)協会表彰者で表彰が2つ以上に該当する場合は協会表彰・功労者)協会表彰・優秀選手)クラブ功労者の  
順で表彰対象とする。

小田原スキー協会創立50周年記念事業実行委員会



## 小田原スキー協会創立50周年記念海外スキーツアー

行き先 ウィスラー(カナダ)  
 日程 平成23年12月7日(水)発、12月12日(月)帰国現地4泊6日  
 参加費用 10万円+燃油チャージ代(往復航空代、現地バス代、ホテル代)  
 航空会社 エアカナダ  
 現地ホテル クリスタルロッジ&スイーツ(CrystalLodge&Suites)  
 4154 Village Green Whistler B.C. V0N 1B4  
 Tel (604)9322221 Fax(604)9322635  
 募集人員 20~25名  
 募集開始 平成23年2月10日~

	日時	発着・滞在都市	時間	日程	食事
1	2011年 12月7日 (水)	成田空港集合 成田空港発  バンクーバー空港着	17:00 19:00 (予定) 10:55  午後	成田空港第一ターミナル集合 エアカナダ直行便にてバンクーバーへ ---日付変更線--- バンクーバー空港到着、入国検査 専用バスにてウィスラースキー場へ ホテルチェックイン (ウィスラーヴィレッジ泊)	夕: 機内 朝: 機内 昼: 各自 夕: 各自
2	12月8日 (木)	ウィスラースキー場		ホテルにて朝食 終日、スキーをお楽しみください。 (ウィスラーヴィレッジ泊)	朝:ホテル 昼:各自 夕:各自
3	12月9日 (金)	ウィスラースキー場		ホテルにて朝食 終日、スキーをお楽しみください。 (ウィスラーヴィレッジ泊)	朝:ホテル 昼:各自 夕:各自
4	12月10日 (土)	ウィスラースキー場 ウィスラー発 バンクーバー着	午前 昼 午後	ホテルにて朝食、チェックアウト 出発までフリータイム 専用バスにてバンクーバーへ 到着後、ホテルチェックイン バンクーバーにてフリータイム (バンクーバー泊)	朝:ホテル 昼:各自 夕:各自
5	12月11日 (日)	バンクーバー発 バンクーバー空港発	朝 11:00 13:55 (予定)	ホテルにて朝食、チェックアウト 出発まで、フリータイム 専用バスにて空港へ エアカナダ直行便にて帰国の途へ …日付変更線… (機中泊)	朝:ホテル 昼:各自 夕:機内
6	12月12日 (月)	成田空港着	17:25 (予定)	成田空港到着後、解散	朝:機内

説明会11月に説明会を開催し、日程、現地状況、旅行保険等の説明を行ないます。

## 小田原スキー協会創立50周年記念国内イベント

○車山高原スキー場にて以下の各イベントを実施。

○開催日:H24.1.13(金)夜~1.15(日)

○宿泊場所:スカイパークホテル

○H24.1.14(土)の夜はパーティー(飲み放題)

…スカイパークホテル内で実施。

(スキー教室参加者は希望者のみ)

**\*\*会員夫々好きな行事に参加し夜はパーティーで盛り上がりましょう\*\***

☆スキー教室(募集人数40名)

1113、19:00出発23:00着予定1/15:16:00出発、小田原20:00着予定

会費:大人25,000円、子供(小学生以下)23,000円

(会費に含まれるもの:1.5泊宿泊費、リフト代、昼食代、保険代、講習料、バス代)

パーティー参加希望者:別途大人2,000円、子供400円必要

☆デモレッスン(募集人数10名・現地集合)

会費:1.5泊21,000円、1泊16,500円…選択可

1日目デモレッスン、2日目フリー又は協会講師による講習選択

(会費に含まれるもの:宿泊費、リフト代、講習料、パーティー代)

☆ポール教室(募集人員30名・現地集合、アールベルグスキークラブと共催)

会費:1.5泊大人21,000円、子供18,000円

1泊大人16,500円、子供13,500円…選択可

(会費に含まれるもの:宿泊費、リフト代、ポール教室料金、パーティー代)

☆指導員会主催スキーの集い(募集人員10名・現地集合)

会費:1.5泊20,000円、子供17,000円

1泊15,500円、子供12,500円…選択可

(会費に含まれるもの:宿泊費、リフト代、参加料、パーティー代)

☆指導員養成講習会(現地集合)

会費:1.5泊21,000円、1泊16,500円…選択可

(会費に含まれるもの:宿泊費、リフト代、講習料、パーティー代)

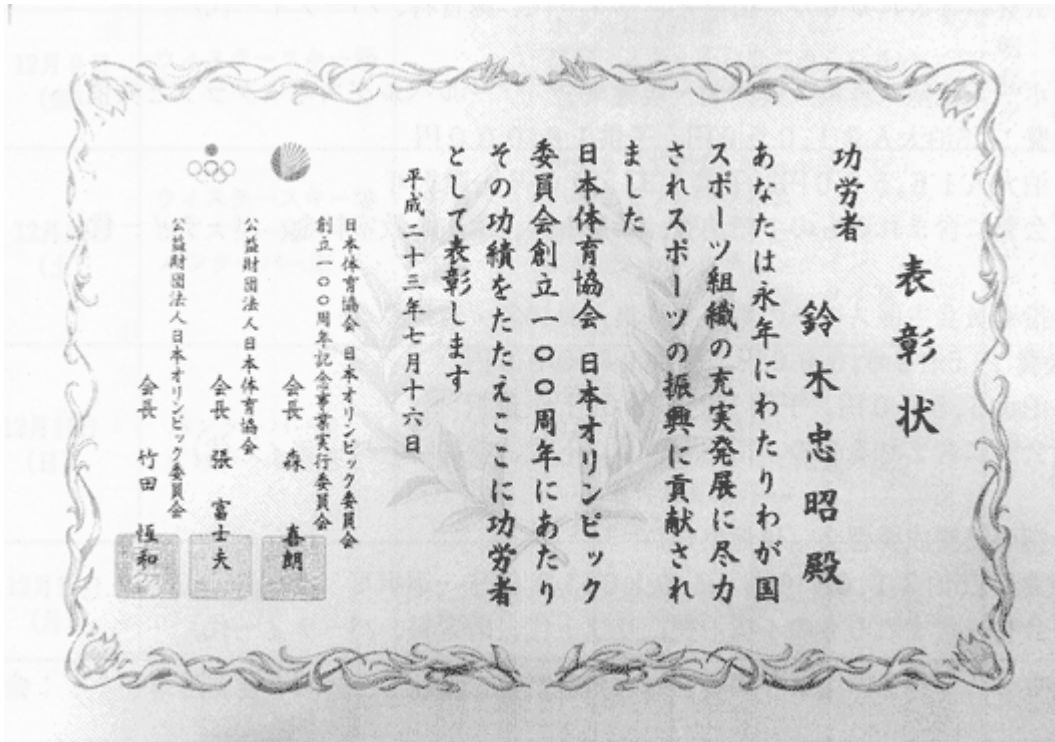
## 日体協・JOC功労者表彰

(財)日本体育協会・(財)日本オリンピック委員会は明治44年(西暦1911)、講道館創始者の嘉納治五郎氏を中心としたメンバーが、日本国内の体育の健全な発展・振興を図るべく結成された組織で、今年、創立100周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として功労者の表彰を行い、小田原スキー協会鈴木忠昭会長が受賞しました。

同会長はこれまでも、(財)全日本、神奈川県スキー連盟から功労者表彰されており、神奈川県体育功労者賞等も受賞しているが、日体協・JOCは国内では最上位のスポーツ組織であり、当協会創立50周年の記念の年に、これら組織からの受賞は誠に喜ばしく多くの仲間達と共にお祝いしたいと思います。

小田原スキー協会創立50周年記念事業実行委員会  
委員長松浦哲也

### 表彰状



## 編集後記

実行委員長 松浦哲也

平成22年8月に創立50周年実行委員会を立ち上げ、式典部会・記念誌部会・海外記念行事部会・国内記念行事部会・財政部会の5部会を組織し準備に入った。

多くのメンバーが30周年、40周年を経験していること、又まだ1年以上の時間があることもあり非常にゆとりを持って発進した、誰もが本番は平成23年シーズン終了後と考えていた。ところがシーズンも終わりの春休みジュニアスキー教室を残すだけとなった平成23年3月11日、東日本大震災が起きた。それを機にスキー教室等は勿論あらゆる行事が自粛という異常な状況が生まれた。当協会にあっても中止を含めた検討に入り熟議を重ねた結果、この行事を開催することが被災された東日本各地、とりわけスキー関係団体を勇気付ける事になると信じて決定した。時は既に2ヶ月近くを経過しており慌ただしい取り組みとなった。そんななか市川理事長を中心に経験を有するメンバーが手際よくリードしてくれたことに感謝したい、そしてこのメンバーによって総ての行事が成功裡に終了することを確信している。

### 海外記念行事部会 部会長 小室静雄

海外記念行事の計画案を作るに当たって幾度と無く検討会を行い、必要条件に一番近かったのがカナダのウイスラーであった。部会の皆さんの活発なご意見と、経験豊かな鈴木忠昭会長のアドバイスに感謝したい。

現在ツアーの募集中であるが、概ね募集人員を満たすものと思っている。前回の40周年記念海外スキーツアー(ソルトレークシティ)はアメリカの9.11事件で止む無く中止となったが、今回は前回の分も含めて、皆さんに大いに楽しんで頂こうと計画中である。この行事がスムーズに遂行し、皆さんにウイスラーでのスキーを満喫していただき、更にはカナダのバンクーバー観光を味わって来て頂いて、無事に帰国出来る事を今から祈っている次第である。

### 記念誌部会 部会長 市川房雄

皆さんの記憶に残っているこの50年を、どうやったら表現できるのかと部会で検討し実行委員の皆さんと色々議論した結果がこの「50年をふりかえり」(9ページ～32ページ)に集約された。その時代時代に活躍された方々に原稿を依頼することで、まさにその時代に居るように読み進むことが出来る。是非皆さんも小田原の50年をこの記念誌とともにふりかえっていただきたいと思う。

「加盟クラブ紹介」では各クラブの特徴がそれぞれに表現され、歴史を感じる事が出来た。

私もスキーを始めて40年弱になるがこの記念誌を作っていく中でその時代時代に色々な思い出があり良いスキー人生だなと改めて思った次第である。

このスキーに対する思いを次代の方々に繋いでいくことが出来るように更に協会を発展させていきたいと思う。皆さんの更なるご協力をお願いし編集後記と致します。

スキーおだわら  
50年のシュプールを辿って

発行日	平成 13 年 10 月 2 日
発行者	小田原スキー協会 鈴木忠昭
編集者	創立 50 周年事業実行委員会 編集責任者 市川房雄
題 字	山口利雄
発行所	小田原スキー協会
印刷所	(有)エーアンドエヌ

*Powerd by eTypist13*